山形国際ドキュメンタリー映画祭
YAMAGATA International Documentary Film Festival

貸出作品 YIDFF ’89–2023

貸出について 01
貸出作品のご紹介
YIDFF 2023上映作品 New
インターナショナル・コンペティション ...02,03
アジア千波万波 04,05
テーマで見る 06-37

山形国際ドキュメンタリー映画祭について 38
認定NPO法人 山形国際ドキュメンタリー映画祭をご支援下さい 39
山形ドキュメンタリーフィルムライブラリー 39
インデックス
撮影／テーマ国・地域、作品名、上映年 ...40-45

国家、人、革命 06-08
民族、文化 09
移民、難民 10,11
宗教 11
パレスティナ、イスラエル 12,13
争いの爪痕 13
貧困、労働 14,15
新自由主義、市場経済 15
裁かれる者、裁く者 15
ナチス、ホロコースト 16
東西ドイツ 16
長編に浸る 16
カメラが見た時代 17
映画と検閲 17
ミステリー・ドキュメンタリー 17
農と人 18
村に生きる 18,19
環境、災害 20
福祉・医療 21
パンデミック 21
子ども・青少年 22
私映画 23
多様な性 24
珠玉の短編 24,25
性暴力 25
女性 26,27
家族 28,29
老いを生きる 29
旅する視線 30,31
風景／映画 31
地球は音楽で回る 32
人生は舞台だ 33
人びと、暮らし 34,35
映画作家たち 35
映画は実験する 36,37

所蔵作品の貸出について

【貸出の主旨】

認定NPO法人 山形国際ドキュメンタリー映画祭が、山形ドキュメンタリーフィルムライブラリーに保管し、上映権を有している作品を自主上映団体などに貸し出すことで、より多くの人々に鑑賞の機会を提供し、ドキュメンタリー映画に対する理解を深めることを目的とします。 ※全て日本語字幕つき

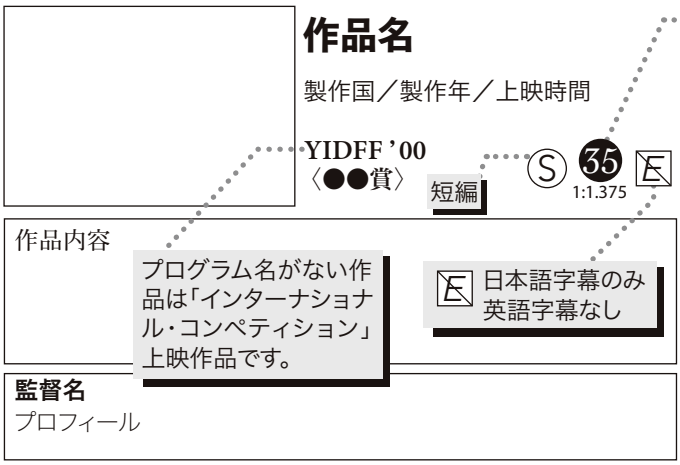
【貸出料金（税込）】1作品2回上映まで 30,000円
（（Ⓢの短編は 10,000円）

3回以上の上映は1回につき50%の追加料金が加算されます。
貸出料金の50%は製作支援として作品の権利者に送られます。

【割引】

年間3作品以上利用する場合＝1作品につき5%割引
年間5作品以上利用する場合＝1作品につき10%割引
※本法人正会員の方は別途割引が適用されます。

1 上映作品を決める



上映素材
- 35 35mmフィルム
- 16 16mmフィルム
- DV CAM DVCAM
- BD ブルーレイ・ディスク
- BD 50Hz ブルーレイ・ディスク ※25Pや50iに対応した再生機器が必要
- BETA CAM アナログ・ベータカム

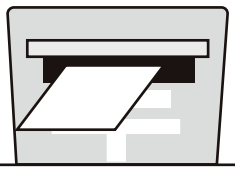
上映素材の下の数値は画面比です。
LB=上下に黒みが入るレターボックス収録
PB=左右に黒みが入るピラーボックス収録
CS=スコープ（レターボックス収録）
※黒みに字幕が入る場合はLB、PB扱いにしていません。
・字幕は非表示にはできません。
・「製作国」と「撮影された国」は必ずしも一致しません。

2 問合せ

映画祭事務局へお問い合せ下さい。
貸出状況を確認致します。

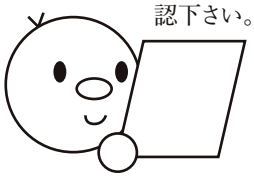
3 申請書を送る

本映画祭Webサイトからダウンロードした申請書に記入の上、メール添付、FAX、郵送のいずれかでお送り下さい。



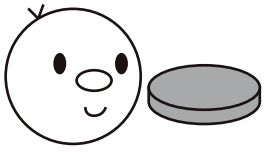
4 貸出許可証を受け取る

申込受理後、貸出許可証を発行します。内容をご確認下さい。



5 上映作品を受け取る

作品の輸送の経費は発送側の負担とします。



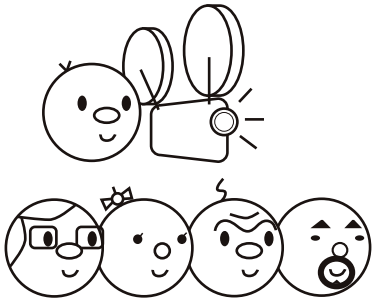
6 上映

作品の取扱いについて

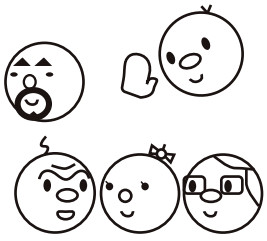
◆上映作品の運搬、上映など取扱いに十分な注意を払って下さい。損傷は必ずご報告下さい。重大な損傷が認められた場合は弁償となります。
◆フィルムの取扱いは、映写技師又は取扱い経験のある方が行って下さい。
◆作品は現状のまま利用し、切除、改変、複製などは一切行わないで下さい。

広報について

●上映の告知または広報用資料等を作成、配布する場合は「後援（もしくは作品提供）：山形国際ドキュメンタリー映画祭」と明記して下さい。
●作成したポスター、チラシなどは1部を郵送して下さい。



7 上映が終わったら…



上映作品を返送し、料金をお振込み下さい。
●終了10日以内に所定の報告書を作成し、映画祭事務局長宛に提出して下さい。
◆上映作品は速やかに返送して下さい。返却の遅延により本法人または他の上映希望者に損害を与えた場合は損害を賠償していただきます。

問合せ

〒990-0044
山形市木の実町9–52 木の実マンション201
認定NPO法人 山形国際ドキュメンタリー映画祭
電話：023-666-4480　FAX: 023-625-4550
E-mail: info@yidff.jp

貸出要綱・申請書ダウンロード
https://www.yidff.jp/library/loans/loans-info.html

山形国際ドキュメンタリー映画祭2023
インターナショナル・コンペティション
International Competition

訪問、秘密の庭
The Visit and a Secret Garden

BD 50Hz PB

スペイン、ポルトガル／2022／65分
〈山形市長賞（最優秀賞）〉

前衛芸術に参画した女性たちの最初の世代とされ、スペイン有数の画家のひとりであったイサベル・サンタロは、1980年代以降、芸術の表舞台から姿を消した。彼女の姪である監督は、現在では家族との付き合いも断ち隠遁生活を送る彼女の住まいを訪ねる。本作はイサベル・サンタロという芸術家の作品や生涯を詳しく紹介する代わりに、猫とともに暮らす年老いた女性のたたずまいをじっと見つめる。彼女はなぜ絵画を発表するのをやめたのか。なぜ孤独な生活を選んだのか。やがて彼女が語り出す言葉が、芸術家として生きること、そして女性として生きることの真髄に触れる。

監督：イレーネ・M・ボレゴ　Irene M. Borrego

キューバの国際映画TV学校を卒業後、ロンドン映画学校に進学。その後キアロスタミの元でも指導を受ける。単館系ノンフィクション映画の制作会社「59 en Conserva」の共同創立者・経営統括者。プラド美術館フェローとして研究調査にも携わった経験もある。本作は長編監督デビュー作。

ある映画のための覚書
Notes for a Film

BD

チリ、フランス／2022／104分
〈優秀賞〉

19世紀、チリの一部となったばかりの先住民族マプチェの土地アラウカニア。鉄道建設の技師としてギュスターヴ・ヴェルニオリーがベルギーから赴任した。監督は、彼の日記をもとに俳優を配して足跡を辿り、往時の冒険を回想する。スタッフ、監督自身が時間軸を超えてフレームの中と外を自在に行き交いつつ、鉄道 遺構、風景、人々の間を往還する映画の試みは、同時に、植民地化の深い傷跡が残るマプチェ・コミュニティで続く土地闘争を描き出す。本作は、アラウカニアの土地の記憶と現在に生きる個々人の経験を等しく見つめることで、ひいては世界と映画に対する新しいアプローチを実践している。

イグナシオ・アグエロ　Ignacio Agüero

1952年、サンティアゴ生まれ。建築と映画を学び、現在はチリ大学で映画を教えつつ、子ども向け映画ワークショップを主催するネットワーク団体「Cero en Conducta（操行ゼロ）」の一員としても活動する。1974 年より数多くのドキュメンタリーを制作し、受賞歴も多数。ヨーロッパやアメリカでは過去作品の回顧上映も開かれている。YIDFF には1989年の初開催時に来日し『100 人の子供たちが列車を待っている』を上映。

『氷の夢』YIDFF ’93 p.30
『サンティアゴの扉』YIDFF ’93〈優秀賞〉 p.34

何も知らない夜
A Night of Knowing Nothing

インド、フランス／2021／100分

BD 50Hz PB

〈ロバート&フランシス・フラハティ賞（大賞）〉

映画を学ぶ学生のLが恋人へあてた手紙が学生寮の片隅で発見された。女性の朗読に託された架空の物語は、Lの恋愛の破局の背後にあるカースト制へと導かれ、さらに2016年に実際に起こった政府への抗議運動、極右政党とヒンドゥー至上主義者による学生運動の弾圧事件へと接続される。若者の日常の光景、Lの悲恋の逸話、路上デモや警官との衝突のシーンにおける緊迫した闘争の様子がモノクロームの映像の中で融合し、フィクションと現実が境界をなくしていく。抵抗する者たちの情熱や信念、映画作家たちの意志の記録とともにインドの現在を描き出す。

監督：パヤル・カパーリヤー　Payal Kapadia

ムンバイを拠点とする映画制作者・アーティスト。インド映画テレビ学院で映画演出を学ぶ。ベルリン国際映画祭ベルリナーレ・タレンツの修了生であり、2019年にはカンヌ国際映画祭のレジドンス・デュ・フェスティバルにも選ばれた。初の長編作品である本作は、2021年カンヌ国際映画祭監督週間で上映され、ゴールデンアイ賞（最優秀ドキュメンタリー賞）を受賞。

『夏が語ること』YIDFF 2019 アジア千波万波 p.19

自画像：47KM 2020
Self-Portrait: 47 KM 2020

中国／2023／190分

BD

YIDFF 2023〈優秀賞〉

監督の父の故郷「47KM」と呼ばれる中国山間部の村。2020年、コロナ禍にあっても村では例年どおり四季を通じて農作業が繰り広げられる。前作で完成した「青い家」では、子どもたちや村の人々が集い、監督と一緒に体操をしたり、映画を見たり。感染症の噂は耳に届けども、大人も子どもも日々の暮らしに忙しい。皆がカメラに向ける表情は和やかで、監督もカメラももはや共同体の一員になったかのようである。「自画像：47KM」シリーズの10作目。

章梦奇（ジャン・モンチー）　Zhang Mengqi

1987年生まれ。映像作家、振付師、中国三年大飢饉の体験記録収集プロジェクト「Folk Memory Project（民間記憶計画）」メンバー。『自画像』シリーズとして知られる11本のドキュメンタリー映画を制作。

章梦奇（ジャン・モンチー）と47KM p.19
『三人の女性の自画像』YIDFF 2011 アジア千波万波 p.27

アンヘル69
Anhell69

BD

コロンビア、ルーマニア、フランス、ドイツ
2022／75分

同世代のクイア・コミュニティの友人たちとB級映画制作を企画した監督。友人アンヘル（Angel）を主人公に予定していたが、彼は薬物過剰摂取で命を絶つ。2016年の政府と反政府左翼ゲリラFARC間の和平合意は儚く、いまだ確固たる将来は見えない。監督は、自らが横たわる棺を載せた霊柩車でこの暴力的で保守的な街を走りつつ、仲間とともに、夢、恐怖、映画制作の葛藤を回想し、手法を凝らした描写で真摯に生きている「あかし」を映画に刻む。

監督：テオ・モントーヤ　Theo Montoya

コロンビア メデジン出身。映画作家による作品や実験映画の制作を手がける制作会社「Desvio Visual」を設立。初の短編映画『Son of Sodom』（2020）はカンヌ国際映画祭など、国内外の多くの映画祭に出品され、ベルリン・インターフィルム国際短編映画祭、クレルモンフェラン国際短編映画祭などで受賞。本作は初の長編監督作品であり、ヴェネチア国際映画祭批評家週間でワールドプレミア上映された。

ターミナル
The Bus Station
アルゼンチン／2023／62分 BD 50Hz

アルゼンチンのコルドバ州にあるバスターミナル。労働者たちが行き交うこの場所は、活気があるというよりはむしろ穏やかな気配に包まれている。仕事の行き帰り、旅の出発あるいは終着点、見送り、待ち合わせ…。自在なテンポで撮られた人々の姿に重ね合わされるのは、愛についての追憶だ。初めての恋、生涯たった一度の愛、失われた関係への思慕。映像と声とが幾重にも層になって愛の物語が生まれ、言葉が途切れては再び続いていく。差し込む光の粒子や空気の流れ、夜の暗さの細部までも捉えるかのような繊細なショットに目を奪われる。

監督：グスタボ・フォンタン　Gustavo Fontán

1960年、アルゼンチン生まれ。フィクション・現実と文学・映画が交差する地点を深く考察する映画を撮る。『顔』(2013) はYIDFF 2015で上映。大学で教鞭を執り、スペイン、イタリア、アメリカの大学でも講義、ワークショップ、セミナーで教えた経験がある。

交差する声
Crossing Voices
フランス、ドイツ、マリ／2022／123分 BD 50Hz

1977年にマリ人移民労働者らによって設立された農業共同体ソマンキディ・クラ。パリの工場で安い賃金で搾取され、劣悪な環境で暮らしていた彼らが、農民として自立し豊かに生きることを目標に、マリに戻り土地を得て灌漑を行い、作物の栽培を開始した。設立者の一人ブーバ・トゥーレによりパリの路上とソマンキディ村で記録され続けてきた膨大なアーカイブ写真と映像、そして収集された音源が、一つの芸術実践として編集され、そのラディカルな抵抗・帰還運動を蘇らせる。

監督：ラファエル・グリゼー　Raphaël Grisey

1979年生まれ。ベルリン在住の映像作家・映画作家であり、フィルムや編集実践の手段を用いて記憶や移民や農業をめぐる政治の問題に取り組む。

ブーバ・トゥーレ　Bouba Touré

1948年生まれ。農民、労働者、映写技師、また写真家として、1970年代よりフランスの移民労働者およびマリの農民たちの生と奮闘をその内部から記録しつづけ、ソマンキディ・クラを仲間とともに設立した。2022年没。

紫の家の物語
Tales of the Purple House
レバノン、イラク、フランス／2022／184分 BD

映画作家と、画家であるその妻が、レバノン南部にある紫の家で暮らしたコロナ禍の二年間を、三部構成で示していく。猫たちと静かな生活を送りながら、隣人の移民の子供と交流を重ね、絵を描き続ける日々。リビングのテレビには、小津安二郎やアンドレイ・タルコフスキーらの映画の一場面が流れていく。他方で2020年に起きた港湾の大爆発事故、反政府デモの様相、経済危機に追い討ちをかけるウクライナ戦争の勃発も、彼らの日常と地続きの出来事として記録された。崩壊する世界を生きること、そこに芸術が存在する意義にも迫っていく。

監督：アッバース・ファーディル　Abbas Fahdel

イラクのバビロン生まれ。フランスで映画を学び、イラクで3本のドキュメンタリーを撮影。記念碑的作品『祖国―イラク零年』は数々の映画祭で受賞。2008年、エジプトで自身初の長編映画『Dawn of the World』を撮影。2017年からレバノンを拠点にフィクション作品『Yara』(2018) を撮影、ドキュメンタリー作品『Bitter Bread』(2019) がニューヨーク映画祭でワールドプレミア上映された。本作でファーディルのレバノン三部作が完結する。

『祖国―イラク零年』YIDFF 2015〈優秀賞〉 p.13

三人の女たち
Three Women
ドイツ／2022／85分 BD 50Hz

カルパチア山脈の麓にあるウクライナ・ストゥジツヤ村。大学院の修了制作のため母国に戻った監督は、村に暮らす三人の女性たちと出会う。生物学者として日々節足動物の採集に勤しむネーリャは、カメラも気にせず我が道を突き進み、村人に年金を手渡している郵便局員のマリーヤは、監督たちを伴い村人宅を訪ねてまわる。一人で牛を飼育する農家のハンナは、悪態をつきつつ撮影を拒否するが…。生活のためにこの地に留まるか他国へ去るか人々が選択を迫られる村で、彼女たちの確固とした生の営みが、移ろいゆく季節とともに重層的に編み上げられる。

監督：マキシム・メルニク　Maksym Melnyk

ウクライナ生まれ。テレビ局で記者として働いた後、スロバキアにある舞台芸術アカデミーで映画制作と演出を学ぶ。その後、バーベルスベルク (ドイツ) のコンラー ト ・ヴォルフ映画大学でドキュメンタリー映画制作を専攻。本作は初の長編映画となる。

不安定な対象2
The Unstable Object II
アメリカ／2022／204分 BD

ドイツのドゥーダシュタットにあるオットーボック社の義肢製造工場、南フランスのミヨーにあるメゾン・ファーブルの高級革手袋縫製アトリエ、トルコのイスタンブールとデュズジェにあるレアルコム社のジーンズ工場という三つの工場での製造工程を「持続的観察」の手法によって徹底的に記録する実験的ドキュメンタリー。消え去る運命にある手仕事の現場に密着した「視覚的思考」の試みでもある、ナレーションも字幕も排した労働のイメージの時間は、私たちを見ることの陶酔へと誘いながら、手による思考と分析の未来への問いかけともなっている。

監督：ダニエル・アイゼンバーグ　Daniel Eisenberg

ドキュメンタリーと実験的メディアの境界で40年以上にわた り制作活動を続ける。これまでにニューヨーク近代美術館、ポンピドゥー・センター、パシフィック・フィルム・アーカイブ、ハーシュホーン美術館、米国映像博物館、ブリュッセル映画博物館、デ・ユニ、キノ・アーセナルで個展が開かれた。

ホワット・アバウト・チャイナ？
What About China?
アメリカ、中国／2022／135分 BD PB

中国南東部で1993、94年に撮影されたHi8ビデオ映像が、30年後の今日、作家自らの手で新たに組み直された。客家の伝統的な円形集合住宅、土楼をイメージの中心に置き、さらに古代の詩や歌謡、水墨画、そして自叙伝や詩、哲学的考察を語る複数の「私」の声が重ねられる。その映像と音響の独特なモンタージュが、中国という国とその社会的変容についての豊かな連想を誘う。農村部の急激な都市化、生活のデジタル化、そしてパンデミックが襲った現代の中国社会。「調和」の概念をキーワードに、その過去と現在、未来を考察する。

監督：トリン・T・ミンハ　Trinh T. Minh-ha

ヴェトナム生まれの映画作家、著述家、作曲家。主な作品として『ルアッサンブラージュ』(1982)、『姓はヴェト、名はナム』(1989)、『夜のうつろい』(2004) など。書き手としては、これまでに12冊の著書を出版している。YIDFF '91 インター ナショナル・コンペティションでは審査員を務めた。カリフォルニア大学バークレー校大学院特別教授。

アジア千波万波
New Asian Currents

負け戦でも
Losing Ground

ミャンマー／2023／23分

〈小川紳介賞〉 Ⓢ BD

窓から見える無数の窓。そのひとつひとつに固有の窮状がある。暗い部屋の中で若者たちは窓から射す光に照らされている。外には絶望が広がる。8か月間収監されていた“彼”は、監獄の外での生活の方がひどいと言う。まるで水槽の魚、籠の中の鳥。檻のような部屋の中で、希望の見えない未来に打ちひしがれながらも、彼らは絵を描く、楽器を弾く、叫ぶ。理不尽に苛まれ、怒り、不安と孤独に押しつぶされそうなヤンゴンの若者たちの鬱屈が収められている。

匿名　anonymous

ミャンマーの政治状況を鑑み、本作の制作者は匿名とする。2023 年のヴィジョン・デュ・レエルで最優秀短編映画として審査員賞を受賞。同年、サンジョ・ヴェローナ・ビデオ映画祭で上映され、ペルージャ・ソーシャル映画祭では最優秀短編映画賞にノミネートされた。

鳥が飛び立つとき
Journey of a Bird

Ⓢ BD 50Hz

ミャンマー／2021／28分

2021年2月1日、クーデターが世界を一変させた。ひとりの青年の心を諦めの気持ちが支配しだした時、友人のひと言は彼にカメラを持たせた。メディア・グループを立ち上げてミャンマーの現実、今を記録しよう。ポップなセンスでリズムに乗って、彼らなりのスタイルで革命の旅が始まる。一方、理不尽で残酷なことがまかり通る世界が、若者たちの前に立ちはだかる。羽を休めて、時が来れば、もっと自由に羽ばたける。

匿名　anonymous

映画を見るのも作るのも好きな、とある男性が本作の監督を務めた。映画制作を誰からも妨害されぬように匿名で作品を発表。本作は2022年にクラッパーボード・ゴールデン映画祭（ブラジル）で最優秀短編ドキュメンタリー賞にノミネートされたほか、世界各地で上映された。

地の上、地の下
Above and Below the Ground

ミャンマー、アメリカ、タイ／2023／84分 BD

ミャンマー北部カチン州のダム建設により、川が育む豊かな大地、そこに住む人々の故郷が奪われようとしている。農業を営む傍ら、さまざまな妨害にあいながらも反対デモや集会を組織するルラ。戦う術として法律を学び、地域に根ざした活動を始めるコンマイ。ダム建設や翡翠採掘による環境破壊を訴えるパンクロックバンド「BLAST」。川の過去から未来へと旅をしながら、彼らの連帯とアイデンティティを守る長い戦いをゆるやかに描く。

エミリー・ホン　Emily Hong

ソウル生まれでフィラデルフィアとバンコクを拠点とする映像人類学者、映画作家。ハバフォード大学に助教として在籍する一方、「エスノシネ」「ライザ・コレクティブ」を仲間とともに立ち上げ、アジア系アメリカ人ドキュメンタリー・ネットワーク運営委員会の一員としても活動する。作品は、アジア地域および米国で先住民の権利や環境的・経済的正義にフォーカスした草の根運動に関わった15年にわたる経験の上に成り立っている。

ベイルートの失われた心と夢
A Lost Heart and Other Dreams of Beirut

フランス／2023／36分

〈奨励賞〉 Ⓢ BD 50Hz

幻影のように、失ったものたちを語る声がひっそりと聞こえてくる。夢の中でもがく息子を失った父親。今は亡き祖母が語った予知夢の顛末。自分の体が目の前で粉々になっていく悪夢。突如として奪い去られた者たちへ語りかけるように、自身に語り聞かせるように、その人その人に打ち寄せる喪失体験が、ベイルートの景色にふと姿を現し、消えては、また現れる。ここに住まう人たちが営む日常のあちらこちらに、死者の思念が宿る、この街の静寂。

マーヤ・アブドゥル＝マラク　Maya Abdul-Malak

ベイルート生まれのフランス＝レバノン人映画監督。近代文学の分野で評価を得ながらフィクション映画のシナリオ監修にも携わり、フランスとレバノンでドキュメンタリーの共同脚本もこれまでに数本手がけている。

『たむろする男たち』YIDFF 2015 アジア千波万波 小川紳介賞 p.10

列車が消えた日
Trip to Lost Days

BD 50Hz

中国、シンガポール／2022／73分

〈奨励賞〉

列車乗務員の仕事を辞め、僧侶になると決めた男が列車で向かった先に…。現実が夢に、夢がまた未来の現実に、それは誰のものなのか、誰がみているのか、誰の体験なのか。その土地に生きる人、亡くなった人、祈りを介して忘れ去られる記憶の断片を拾い集めながら、その男は揺らぎの空間を放浪する。夢の残像を運ぶように縦横無尽に疾走する列車は、やがて男と乗客の記憶を呼び覚ます。われわれを幻想世界へと誘う、喪失と再生のエクスペリメンタル・ジャーニー。

沈蕊蘭（シェン・ルイラン）　Shen Ruilan

1993年、中国江蘇省生まれ。現在は杭州に在住して制作を続ける。2011年から2018年まで中国美術学院実験映像工作室および基本視覚研究所で学び、学士号と修士号を取得。その作品は、目と対象のあいだを視覚的に行きかう旅の残滓における幽霊的放浪へと観客をいざなう。

確かめたい春の出会い
Encounters on an Uncertain Spring

レバノン、ポルトガル、ハンガリー／2022／25分 Ⓢ BD 50Hz

レバノンにいるがん宣告を受けた父のために薬を探す、ポルトガル留学中の青年。中古のビデオカメラを手に入れ、春の陽光に誘われるように小さな旅をする。束の間のまどろみの中で思い返す父のこと。徒然なるままに出会った人々の言葉―日常生活の中にあるそれぞれの哲学―が、マスク越しにもぬくもりとともに伝わってくる。

タイムール・ブーロス　Taymour Boulos

ベイルートを拠点とする映画作家。レバノン美術アカデミーで映画演出を学んだのち、「Doc Nomads」プログラムにて ドキュメンタリー映画制作の共同修士号を取得し、同制度の優秀学生となる。レバノン美術アカデミーで教鞭を執る。

『それは竜のお話』YIDFF 2021 アジア千波万波 p.31

ルオルオの青春
Luo Luo's Youth

中国／2023／93分　BD 50Hz

父や孫の世話を焼きながら、10代の頃の日記や写真を手繰るルオルオ。カメラは家を出ることはないが、オンラインで「民間記憶計画」の仲間とつながり、指先が仲間を訪ねようと地図をなぞり旅をする。カメラは父や孫の手にもわたり…。新型コロナウイルスへの怖れで引きこもっていた家には、家族への愛情と表現の喜びが溢れだす。

洛洛（ルオルオ）　Luo Luo
本名　羅紫月（ルオ・ズーユエ）。1962年に四川省米易県で生まれ、現在に至るまでそこで暮らしている。同年代の女性の多くがそうであるように、ルオルオも結婚、出産、仕事、育児、老親の介護、そして退職というコースをたどってきた。2019年、ルオルオは草場地ワークステーションに出会い、民間記憶計画に参加した。

『ルオルオの怖れ』YIDFF 2021 アジア千波万波 p.21

ナイト・ウォーク
Night Walk

韓国／2023／65分　BD

小川のせせらぎが詩的な情感をあおって夜の散歩に誘う。青い月明かりがほのかに照らす坂道の、どこにも人影は見つけられない。しかし冷ややかで時が止まったかのような夜の情景は、昼の熱気や季節の移ろいを逆照射する。人家の灯りが消え始めると、草木を揺らす風の音や、虫や蛙の声が聞こえてくるようである。いたずらっぽい落書きのような絵と、つぶやくような文字で書かれた朝鮮王朝時代の古い詩とが、密かにうごめく風景の上に重なる。暗闇の中で、それらが音のない会話を繰り広げる時、寂しさはむしろ胸を高鳴らせるに違いない。

ソン・グヨン　Sohn Koo-yong
1988年ソウル生まれ。韓国外国語大学でメディアとコミュニケーションを、シカゴ美術館で映画制作を学ぶ。本作は長編2作目。ロッテルダム国際映画祭でプレミア上映され、全州国際映画祭でドキュメンタリー賞を受賞。

『ソウルの冬』YIDFF 2019 アジア千波万波 p.36
『午後の景色』YIDFF 2021 アジア千波万波 p.31

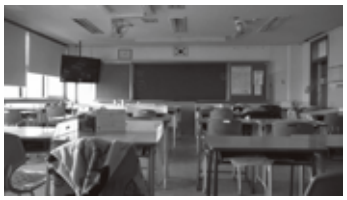
記憶の再生
Raise Me a Memory

エストニア／2023／69分　BD 50Hz

エストニアの国境地帯にある村を訪れたインド人監督は、道に迷いながら土地の人々に出会う。線路にかけよって命を落とした幼い息子の夢を見る女性。亡き父の夢を見た後に足の病気が和らいだという女性。そして難民だった祖父の不思議な夢を見たという男性エヴァー。この世を去った人々は生者の夢に現れ、夢を見た人々にしか理解できない体験を残す。祖父の過去を知った監督は、エヴァーと自分を重ね合わせる。残されたノート、手紙、廃屋、列車、夢。それらは記憶媒体となって、国境を巡る苦難の歴史を暗示しながら、時を超えて人間の業を描き出す。

ヴァルン・トリカー　Varun Trikha
デリーとトロントを拠点に活躍する映画作家。キングス・カレッジ・ロンドンで倫理学を、デリーのSACACでクリエイティブ・ドキュメンタリーを学び、その作品は独特の詩的な声を持つ。

『七度目の祈り』YIDFF 2015 アジア千波万波 p.27



私はトンボ
Saving a Dragonfly

韓国／2022／80分　BD

高校3年生の監督は、大学修学能力試験に直面する友人と自らの姿を撮り始める。受験の失敗、孤独だった浪人時代、何かが変わると信じて入学した大学生活…。時間の経過や状況の変化は何も変えてはくれず、不安と隣り合わせの毎日に疲弊した監督はいつしか自分を追い詰めるようになる。小さなことがきっかけで崩れ落ちる儚い感情は、誰かを傷つけたりもする。それでも、彼女たちがともに過ごした8 年間を粘り強く撮り続け、映画を完成させた。友人、そして自分を救うための切実な想いがカメラを通して描かれる。

ホン・ダイェ　Hong Da-ye
韓国出身の若手ドキュメンタリー監督。高校時代からドキュメンタリーを撮り始め、最初の作品では教育問題に焦点を当てた。初の長編作品である本作は高校3年の時に撮影を開始し、大学の卒業制作として完成させた。ドキュメンタリーの真実の本質は被写体の感情の中にあると固く信じている。

石が語るまで
Until the Stones Speak

韓国／2022／100分　BD

1948年に起こった済州4・3事件、20歳前後の多くの若者が無実の罪で刑務所に送られた。70年が経ち、90歳を過ぎた5 名の女性たちは、名誉回復のための再審裁判が行われたことをきっかけに、重い口をゆっくりと開き当時の悲劇を語り始める。多くの島民たちの命が奪われ、焼き尽くされた村々、刑務所での壮絶な体験は彼女たちの心と身体にいまだ癒えぬ傷を残す。これまで語ることができなかった、しかし決して忘れることはなかった記憶の言霊は済州島の悠久の風景へと溶け込み、当時の凄惨な情景をよみがえらせる。

キム・ギョンマン　Kim Kyung-man
近年は、歴史認識こそが重要な課題であるとの考えのもと、インディペンデント・ドキュメンタリー映画を制作している。『やってはいけません』（2003）、『馬鹿は風邪ひかない』（2008）がYIDFFアジア千波万波で上映された。

国家、人、革命

ノーボディ・リスンド
Nobody Listened

アメリカ／1988／117分 35 1.375 E
YIDFF '89〈優秀賞〉

キューバから自由主義圏に亡命した政治家、軍人、民衆の証言を通して、共産圏が直面している深い政治的矛盾を取り上げ、人権の基本を守るように第三世界に訴える。

監督：ネストール・アルメンドロス　Nestor Almendros
1930年、スペイン生まれ。両親と共にキューバへ移住。トリュフォーやロメール作品の撮影監督として名声を高め、1978年アカデミー最優秀撮影賞受賞。1992年逝去。

ホルヘ・ウリャ　Jorge Ulla
1962年、アメリカに亡命。キューバに関するドキュメンタリーを制作。

レイムンド
Raymundo

アルゼンチン／2002／127分 DV CAM
YIDFF 2003

1976年に軍事独裁政権に拉致され殺されたアルゼンチンの映像作家レイムンド・グレイザーの生涯を通して、1960年代、70年代のラテンアメリカの反戦運動や解放運動の歴史が描かれ、CIAや独裁政権が破壊できなかった記憶と理想が立ち上がる。

監督：エルネスト・アルディト　Ernesto Ardito
1972年、ブエノスアイレス生まれ。1993年より短編劇映画とドキュメンタリーを手がける。

ヴィルナ・モリナ　Virna Molina
1975年、ブエノスアイレス生まれ。1998年よりエルネスト・アルディトと本作品を共同制作。

M

アルゼンチン／2007／150分 35 1.85
YIDFF 2007〈優秀賞〉

1976年、アルゼンチン軍事政権下、突如消息不明になったマルタ。息子である監督は、この謎について関係機関や当時の同僚、地下組織運動仲間を訪ねながら、失われた母親像の破片を集める。軍事クーデターなど、アルゼンチンの歴史が描かれる。

監督：ニコラス・プリビデラ　Nicolás Prividera
1970年、ブエノスアイレス生まれ。ブエノスアイレス大学を卒業、コミュニケーション学の学位を取得。デビュー作である本作で、マル・デル・プラタ映画祭でエルネスト・チェ・ゲバラ（最優秀ラテンアメリカ映画）賞とFIPRESCI賞を受賞した。2017年、書籍『El país del cine（映画の国）』執筆。

十字架　The Crosses

チリ／2018／80分 BD
YIDFF 2019
〈山形市長賞（最優秀賞）〉

1973年、チリ南部の小さな町で起きた製紙会社組合員大量殺人事件。未解決のまま闇に葬られようとした事件は、40年後、ひとりの警察官の証言によって真相解明に向かう。殺害現場に立てられた夥しい数の十字架が、国家が手引きした虐殺の歴史を告発する。

監督：テレサ・アレドンド　Teresa Arredondo
1978年、ペルーのリマ生まれ。バルセロナ自治大学の「創造的なドキュメンタリー制作の理論と実践」コースで修士号を得るためスペインに渡る。

カルロス・バスケス・メンデス　Carlos Vásquez Méndez
主にドキュメンタリーとフィクションの境界にある映画と写真を表現言語として用いる映画作家・アーティスト・研究者。

アフリカ、お前をむしりとる
Africa, I Am Going to Fleece You

カメルーン／1992／88分 16 E
YIDFF '93

独立後30年が経つカメルーン。かつての征服者が強いたことを、体制側の人間がためらわず実行している。人間の愚劣さとすべてを奪われたものの悪循環を絶ち切ることを考察していく。

監督：ジャン＝マリー・テノ　Jean Marie Teno
1954年、カメルーン生まれ。1983年監督デビュー。本作で数々の賞を受賞。2009-2010年にはマサチューセッツ州ハンプシャー大学の客員教授を務めた。

フィリピン、私のフィリピン
Philippines, My Philippines

オーストラリア／1988／72分 16 E
YIDFF '89

マルコス政権崩壊後、アキノ政権に変わって3年がたったが、フィリピンの経済疲弊と人権侵害は依然存在し、ますますひどくなっていた。政府と共産党新人民軍（NPA）の両方の代表者による討論。フィリピンはとてつもない変化と大変動に向かっている。

監督：クリス・ナッシュ　Chris Nash
ジャーナリストとして活躍し、オーストラリアのウォークリー賞受賞。その後大学講師になるため学術研究の分野に転向。

1931年、タユグの灰と亡霊
The Ashes and Ghosts of Tayug 1931

フィリピン／2017／115分 BD
YIDFF 2019 アジア千波万波

ルソン島パンガシナン州の町、タユグ。革命家ペドロ・カロサの足跡を追って監督がその地を訪れるとき、若き指導者の姿、世を憂う老人の姿が残像のように立ち現れる。さまざまな映像表現が交錯し、忘れられた英雄の亡霊がモノクロの映像に織り込まれる。

監督：クリストファー・ゴズム　Christopher Gozum
アート教育者、映画作家。地元パンガシナン州バヤンバンのアートや文化に関するプロジェクトに積極的に関わる。本作は、第5回ケソン・シティ国際映画祭サークル・コンペティションNETPA審査員賞を受賞。

インディアナ州モンロヴィア
Monrovia, Indiana

アメリカ／2018／143分 BD
YIDFF 2019〈審査員特別賞〉

大規模な農場、フリーメーソンのロッジ、学校、教会、銃砲店……。農業の町モンロヴィアにカメラを向け、住民の会話や催事をスケッチすることで、“善きアメリカ人”の姿を浮かび上がらせる。

監督：フレデリック・ワイズマン　Frederick Wiseman
1930年生まれ。YIDFFでは、『動物園』（1993、YIDFF '93山形市長賞）、『コメディ・フランセーズ― 演じられた愛』（1996、YIDFF '97特別賞）、『メイン州ベルファスト』（1999、YIDFF '99山形市長賞）、『エクス・リブリス― ニューヨーク公共図書館』（2017、YIDFF 2017）など多くの作品を上映。2016年、米アカデミー賞より名誉賞を受賞。

負け戦でも　YIDFF 2023 アジア千波万波〈小川紳介賞〉
監督：匿名
p.04

鳥が飛び立つとき　YIDFF 2023 アジア千波万波
監督：匿名
p.04

さらばUSSR
Last Farewell USSR

ウクライナ／1994／60分 35 1.375 E
YIDFF '95
〈FIPRESCI(国際批評家連盟)賞〉
〈CINEMAだいすき!賞〉

ペレストロイカから5年半後、1991年12月ソ連邦は解体した。東ドイツに駐留する兵士たちも故郷に帰るか、新たな戦場へ赴くかの選択を迫られていた。ソ連の誕生から崩壊までを描きながら、多くの希望が失望に変わったことをあぶり出していく。

監督:アレクサンドル・ロドニャンスキー　Alexander Rodnyansky
1961年キエフ生まれ。1995年、ウクライナのテレビ局1+1創設の中心となった。『スターリングラード』(2013)、『裁かれるは善人のみ』(2014)、『ラブレス』(2017)などプロデュース多数。

青年★趙(チャオ)
A Young Patriot

中国、フランス、アメリカ BD 50Hz
2015／106分
YIDFF 2015

山西省の小さな村に暮らす高校生シャオ・チャオは、人民服姿で国旗を掲げ、愛国を叫んで人気者に。大学では共産党学生連合広報部で活躍するが、祖父母の家が再開発のため破壊されたり、地元有力者の腐敗を目の当たりにするうち、愛国の思いに微妙な変化が生じていく。

監督:杜海濱(ドゥ・ハイビン)　Du Haibin
1972年、陝西省西安生まれ。1993年より北京美術学院で絵画と写真を学ぶ。『線路沿い』(2000、YIDFF 2001アジア千波万波特別賞)など、長編ドキュメンタリー映画や劇映画を監督。

革命まで
Almost a Revolution

香港／2015／174分 BD 50Hz
YIDFF 2015
アジア千波万波特別招待

香港で民主的な選挙を求め不服従を呼びかけた「セントラル(金融中心街)を占拠せよ」運動は、多くの学生や市民を巻き込み、2014年、「雨傘革命」として世界に広く知られるところとなった。闘いの現場をつぶさに追い、7人の活動家たちの揺れ動く思いを見つめる。

監督:郭達俊(クォック・タッチュン)　Kwok Tat Chun
香港や海外の公共テレビ局で、ドキュメンタリー番組やインディペンデント作品の制作に携わってきた。天安門事件と香港返還に関する作品プロデュースも手がけた。

江瓊珠(コン・キンチュー)　Kong King Chu
元新聞記者で、現在は本の虫兼ライター。2004年に、香港のセックスワーカーを題材にしたドキュドラマで監督デビュー。以降、運動や活動家についての映画を制作し続けている。

太陽花(ひまわり)占拠
Sunflower Occupation

台湾／2014／120分 BD
YIDFF 2015
アジア千波万波特別招待

2014年3月18日、中台サービス貿易協定の撤回を求め、学生らが台湾立法院に突入。24日間に渡って議場を占拠した。それらは1988年の520農民運動や90年の野百合学生運動とも重ね合わせられる。

監督:太陽花運動映像記録プロジェクト
Sunflower Occupation Documentary Project
傅榆(フー・ユィ)、王佩芬(ワン・ペイフェン)、陳育青(チェン・ユィチン)、蔡崇隆(ツァイ・チョンロン)、蔡静茹(ツァイ・チンルー)、黃兆徽(ホアン・チャオフイ)、李家驊(リー・ジアホア)、李惠仁(リ・ホイレン)、周世倫(チョウ・シィルン)

パムソム海賊団、ソウル・インフェルノ
Bamseom Pirates, Seoul Inferno

韓国／2017／119分 BD
YIDFF 2017アジア千波万波〈特別賞〉

グラインドコアバンド、パムソム海賊団。韓国社会の様々な問題と接点を持ちながら、若者の閉塞感をシャウトする。映画はアルバムと一体化し、ロードムービーのように前進するかに見えたが、プロデューサーが国家保安法違反の罪で逮捕され…。

監督:チョン・ユンソク　Jung Yoon-suk
1981年、ソウル生まれ。アートやドキュメンタリーを通じて、国家や社会の公共性をめぐる批判的な問いを発し続けている。

空低く 大地高し
Boundary

タイ、カンボジア、フランス BD
2013／96分
YIDFF 2013

2010年、監督は、カンボジア国境に接するシーサケート県出身の24歳の元兵士と出会う。彼の経験を糸口に、政治闘争、カンボジアとの国境紛争、国境沿いの人々の暮らしが描かれる。独特の映像感覚を通して、新しい世代の政府への批判的なまなざしが浮かび上がる。

監督:ノンタワット・ナムベンジャポン　Nontawat Numbenchapol
1983年、タイ・バンコク生まれ。ランシット大学芸術学部ビジュアルコミュニケーションデザイン科卒。彼の作品の主題は「空間」である。

消された存在、____立ち上る不在
Erased, ___Ascent of the Invisible

レバノン／2018／76分 BD
YIDFF 2019 アジア千波万波〈小川紳介賞〉

行方不明者の顔写真、死亡扱いにされない住民票、埋め立てられた集団墓地……。35年前、レバノン内戦時に誘拐されたある男の面影を手掛かりに、名もない死者として片付けられてしまった不在の個を掬い、ドローイングによってアニマを吹き込む。

監督:ガッサーン・ハルワーニ　Ghassan Halwani
ベイルートを拠点に、アラブ地域の映画作家、劇作家、現代アーティスト、出版社やミュージシャンとの共同制作を中心に活動を行う。

愛を超えて、思いを胸に
A Feeling Greater Than Love

レバノン／2017／93分 BD
YIDFF 2019 アジア千波万波

内戦の歴史に埋もれてしまった、70年代初頭のレバノンの労働／政治運動。社会変革のうねりの渦中にいた活動家らが集まり、異論反論入り混ざり当時を生き生きと回想する。時代の証言たる多彩なフッテージを引きながら、民衆革命の記憶を掘り起こす。

監督:マリー・ジルマーノス・サーバ　Mary Jirmanus Saba
新たな変革の可能性を探してアラブ世界やその外の世界の知られざる物語を探索し、映像やその他のメディアで表現をする地理学者。『愛を超えて、思いを胸に』は長編デビュー作。

何も知らない夜
YIDFF 2023〈ロバート&フランシス・フラハティ賞(大賞)〉 p.02
監督：パヤル・カパーリヤー

エリアーン・ラヘブ と レバノン

されど、レバノン
This is Lebanon

レバノン／2008／58分 DV CAM

YIDFF 2009 アジア千波万波〈奨励賞〉

宗派に関わらず、誰もが傷つき、愛する人を奪われてきたレバノン。20日間以上、イスラエル軍の爆撃が続く中、監督は、一家や友人たちを映画制作に巻き込み、「これがレバノンなのだ」というあきらめにも似た混沌とした日常を生きる個人の本音をさらけ出す。

そこにとどまる人々
Those Who Remain

レバノン、アラブ首長国連邦 BD 50Hz
2016／95分

YIDFF 2017 アジア千波万波

シリアとの国境に近いレバノン北部。かつては異教徒が隣り合わせで暮らしていた村にも排他的な空気が覆う。石を一つひとつ積み上げては、妻や子どもたちがいずれ帰ってくるための家を建てる男。この土地に居続けることが、使命であるかのように。

ミゲルの戦争
Miguel's War BD 50Hz

レバノン、スペイン、ドイツ／2021／128分

YIDFF 2021

ミゲルと名乗るレバノン出身のゲイの男。家庭にまつわる幼少期の暗い記憶と、レバノン内戦に参加し被った精神の苦痛はいまだ癒やされることがない。嘘、ジョーク、沈黙、そして強烈な哄笑の奥には、言葉にならない深い傷、語られることを拒否する戦争の影がある。

監督：エリアーン・ラヘブ　Eliane Raheb

レバノンの女性映画監督。『そこにとどまる人々』（2016）は60以上の映画祭に出品。『ミゲルの戦争』（2021）はベルリン国際映画祭2021パノラマ部門でプレミア上映され、テディ賞長編映画賞を受賞。自身が創設したITAR Productionsの制作作品は、ARTE ／ ZDFやNHKなど国際テレビ網でも放映されている。

リティ・パンとカンボジア

さすらう者たちの地
The Land of the Wandering Souls

フランス／2000／100分 BETA CAM DV CAM

YIDFF 2001〈ロバート&フランシス・フラハティ賞（大賞）〉

戦火に荒廃したカンボジアでの光ファイバーケーブルの敷設作業。この事業は多くのカンボジア人に働き口を与えたが、彼ら自身がその恩恵を受けることはないだろう。作業が進むにしたがって、土地を失った農民、復員兵士、貧しい家族らがさすらいの身となっていく。

S21
クメール・ルージュの虐殺者たち
S21, the Khmer Rouge Killing Machine

フランス／2002／101分 DV CAM

YIDFF 2003〈優秀賞〉

かつての政治犯収容所「S21」。クメール・ルージュの大虐殺による加害者と被害者をその場所に集め、非人間的で過酷な日々を再現していく。証言で明らかになる真実、対峙する2人のやりとりの迫真性が25年という時を越える。

アンコールの人々
The People of Angkor

フランス／2003／90分 DV CAM

YIDFF 2005

アンコール・ワット周辺の情景、人々をひとりの少年を主人公に描いていく。内戦の痛み、都会と農村の落差。未来を見通せない少年の思いがゆったりとしたリズムと美しい映像で綴られる。

紙は余燼（よじん）を包めない
Paper Cannot Wrap Up Embers

フランス／2006／86分 DV CAM LB

YIDFF 2007

カンボジア・プノンペン。娼婦になった女性たちの場所。内戦の傷深く、腐敗したカンボジア社会の底辺に暮らす瀕死の魂たちへの鎮魂詩が奏でられる。それは冷酷で哀しく、時に美しい。

監督：リティ・パン　Rithy Panh

プノンペン生まれ。フランス国立映画学院卒業。山形映画祭では、カンボジアを舞台とした上記作品が4回連続インターナショナル・コンペティションで上映、YIDFF 2015では『フランスは我等が故国』が特別招待上映されている。『消えた画　クメール・ルージュの真実』（2013）は、カンヌ映画祭ある視点部門の最優秀作品賞を受賞。

民族、文化

オリ　Ori

ブラジル／1989／93分　35 1.375　E

YIDFF '89

「オリ」とは頭の意味。歴史・記憶に関する黒人の意識のこと。ブラジル黒人の闘争を対象にして、監督の目を通してブラジル黒人の文化的、政治的な源泉の軌跡をたどる。

監督：ラケル・ガーバー　Raquel Gerber

1945年、ブラジルのサンパウロ生まれ。サンパウロ大学の芸術・コミュニケーション学部で社会学と映画を学んだ。卒業後多くの論文を発表。1974年監督デビュー。本作品は初の長編。

アズル　Azul

アメリカ／1988／104分　16　E

YIDFF '89

ニカラグアの人々の間に根強く生きる詩を愛する心。一見ニカラグア革命の映画のようにも見えるこの作品は、不思議な雰囲気と明るさの詩的世界からユニークな文化現象を提示している。

監督：ローランド・レシャルディ＝ラウラ　Roland Legiardi-Laura

イタリア・ロシア系。ニューヨーク生まれ。詩と政治学を学んだ後、1979年から82年にかけて、詩人による巡回講演を編成。この作品が監督デビュー作。2016年逝去。

イマジニング・インディアン
Imagining Indians

アメリカ／1992／79分　16

YIDFF '93 特別招待作品

アメリカ先住民のオブジェや彫刻、儀式といったものは、商品化され、外部に流布して、太古の昔にもっていた聖なる価値を失ってしまっている。この作品は、先住民神話が商品になるときに起きる問題に焦点を当てている。

監督：ヴィクター・マサエスヴァ　Victor Masayesva, Jr.

ホピ出身のビデオ、テレビのインディペンデント・プロデューサー。作品はニューヨーク近代美術館などでの特別上映ほか、世界各地のテレビ、上映会で放映、上映されている。

これぞ人生、これぞパンツァーの民
As Life, As Pangcah

台湾／1998／28分　BD

酒祭の男たち
Malakacaway The Rice Wine Filler

※2作品一組

台湾／2009／70分　BD

YIDFF 2015関連プログラム「映像は語る」

アミ族の長老の世界を紹介する初期の短編と、大酒飲みの通過儀礼を担う青年たちの伝統継承を描く長編。現代台湾に生きる先住民のジレンマや本音が語られる。YIDFF 2015関連プログラム「映像は語る―ドキュメンタリーに見る現代台湾の光と影」上映作品。

監督：馬躍比吼（マーヤウ・ビーホウ）　Mayaw Biho

1969年花蓮生まれ。先住民・アミ族出身のドキュメンタリー監督。先住民の文化、歴史、暮らしをテーマに作品を制作する先住民族テレビ局の代表。2012年には中華民国立法委員選挙に出馬。「ドキュメンタリーは私のやさしい武器だ。」

神聖なる真実の儀式
Basal Banar —Sacred Ritual of Truth

パラワン、フィリピン／2002／120分

YIDFF 2003　16

フィリピン先住民族の血を引く監督が故郷パラワン島で神聖なる儀式や日常生活をカメラにおさめる。多国籍企業などの介入により生活が破壊されていくことへの怒りが画面にみなぎる。

監督：アオレイオス・ソリト　Auraeus Solito

1969年、マニラ生まれ。演劇人、映画監督であり、先住民族の権利回復運動に携わる。南パラワンの先住民族パラワンの出身。『マキシモは花ざかり』(2005)が、ベルリン映画祭テディ賞。カナカン・バリンタゴスとして活動。

私の家は眠りの中に
This Is My Home, Come the Sleeping

インドネシア／2019／81分　BD 50Hz

YIDFF 2019 アジア千波万波

生活の糧として毎日黙々とクジの番号を予想するピウスおじさん。頻繁に起きる停電の合間だけ数字を書く手を休め、自分自身のことを語る。平穏そうな生活の中に、故郷の村を追われた惨劇の記憶とパプアの歴史がうっすらと漂う。

監督：ハラマン・パプア　Halaman Papua

パプアにおける問題や社会について議論するためのコミュニケーション・ツールとして、映画を含むさまざまなメディアを使って作品を作るプラットフォーム。

故郷はどこに
Out of Place

台湾／2012／78分　BD

YIDFF 2019
ともにある Cinema with Us

一家のルーツが台湾原住民の平埔（ピンプー）族であるかもしれない監督の夫とその家族。その可能性を探り、自らの民族的アイデンティティについて思いをめぐらす。一方、台風の被災地・小林村（シャオリン）では、その平埔族の文化の継承が危機に瀕している。「故郷」の探究と喪失をめぐる思索の旅路。

監督：許慧如（シュウ・ホイルー）　Hsu Hui-ju

『非正規家族』YIDFF 2019 アジア千波万波　p.14

言語の向こうにあるもの
Beyond the Language

フランス、日本／2019／97分　BD 50Hz PB

YIDFF 2021 アジア千波万波

パリ第8大学ヴァンセンヌ・サンドニの「外国語としてのフランス語講座」。世界中から来た学生たちが抑圧から解放され自らの考えを表現しながら社会と関わるべく、人間の変容を目指して闘う姿が描かれ、観客にも多くの問いを突きつけていく。

監督：ニシノマドカ　Nishino Madoka

2009年フランスに留学。パリ第8大学の映画学部で映画作家アンリ＝フランソワ・アンベールと、クレール・シモンに師事、オランダのヨハン・ファン・デル・コイケンの作品からも多くの影響を受ける。

移民、難民

望郷
Homesick Eyes
台湾／1997／85分 35 1.85 E
YIDFF '97
〈FIPRESCI(国際批評家連盟)賞〉

台湾。フィリピン人の家政婦、タイ人の建築現場労働者、そして中国からの不法移民者らに詳しいインタビューを行い、現在起こりつつある社会問題に新しい光を投げかける。

監督：徐小明(シュー・シャオミン)　Hsu Hsiao-ming
1955年台湾生まれ。侯孝賢の『童年往事』など、数多くの作品に助監督として参加。1992年、初の長編作品『天幻城市』(1991)をカンヌ映画祭監督週間に出品、『去年冬天』(1994)も同映画祭にて上映された。

たむろする男たち
Standing Men
フランス、レバノン／2015／55分
YIDFF 2015 アジア千波万波
〈小川紳介賞〉 BD 50Hz

パリの街角の小さな店には、中東からの出稼ぎ労働者が故郷へ電話をかけにやってくる。14年ぶりにアルジェリアの家族のもとに一時帰国するムスタファの会話と、かつて監督の父がレバノンの家族にあてた手紙が、男たちが集う空間で呼応し、郷愁の想いが時を止める。

監督：マーヤ・アブドゥル＝マラク　Maya Abdul-Malak
『ベイルートの失われた心と夢』
YIDFF 2023 アジア千波万波 p.04

カラブリア
Calabria
スイス／2016／117分 BD 50Hz
YIDFF 2017

スイスの葬儀会社で働くジョバンとジョゼは、ある遺体をイタリア・カラブリア州まで霊柩車で移送する。ふたりは閉ざされた車内でおのずと語り出す。それぞれの事情でスイスにやってきた移民たち。男たちの対話と、旅先の一期一会を、叙情的な音楽とともに、洗練された映像で描く人生賛歌。

監督：ピエール＝フランソワ・ソーテ　Pierre-François Sauter
モザンビークで子供時代を過ごし、後に生活と仕事の場をリスボン、パリ、ブリュッセル、ローザンヌに移す。2003年からは自身の映画の制作と監督に専念。ローザンヌとミラノのスタジオで版画制作も行う。

彼女の墓に花をそえるのは私
I Am the One Who Brings Flowers to Her Grave
シリア／2006／110分 DV CAM
YIDFF 2007

1981年に故郷シリアを後にしてから一度も帰郷が果たせぬハーラ。カメラは自由に時空を滑空し、詩文と生活の中の詩心を発見しながら、故郷への愛を詠い、容赦ない時間の流れを哀悼する。

監督：ハーラ・アルアブドゥラー　Hala Alabdalla
1956年、シリアのハマ生まれ。1985年より映画制作に従事。
アンマール・アルベイク　Ammar Albeik
1972年、シリアのダマスカス生まれ。YIDFF 2009アジア千波万波で『サーミア』を上映。

要塞　The Fortress
スイス／2008／105分 35 1.85
YIDFF 2009〈優秀賞〉

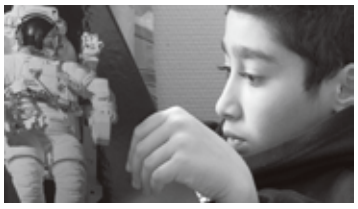
亡命希望者たちが当局の決定を待つ間一時的に収容されている、スイスの難民受け入れ施設。日常的に"選別"が行われている場を見つめ続けることによって、難民問題を浮き彫りにする。

監督：フェルナン・メルガル　Fernand Melgar
タンジールに亡命したスペイン組合活動家の一家に生まれる。1963年、季節労働者として移住した両親に連れられてスイスに密入国する。1985年よりドキュメンタリー映画作家集団クリマージュに参加。

リヴィジョン／検証
Revision
ドイツ／2012／106分 BD 50Hz
YIDFF 2013〈優秀賞〉

1992年、ドイツとポーランド国境で、ロマ人の不法移民の死体が発見される。ドイツ当局から「ハンターによる誤射」で片づけられたこの事件について「映画的検証」を施し、この地に根ざした暴力と差別の歴史を浮かび上がらせている。

監督：フィリップ・シェフナー　Philip Scheffner
1966年5月28日、ドイツ・ザールラント州ホンブルク生まれ。1986年からベルリンを拠点にドキュメンタリー映画、ビデオ、サウンド・アート等の分野で活動。



約束の地で
In Our Paradise
フランス／2019／77分 BD 50Hz
YIDFF 2019

故郷ボスニアを離れフランスで暮らす妹。姉もまた家族と共に欧州への移住を試みるも、難民申請は拒否され帰国を余儀なくされる。排外主義の高まりのなかで居場所を失っていく人びとの横顔がドラマティックに捉えられる。

監督：クローディア・マルシャル　Claudia Marschal
パリに住居と活動拠点を置く。ドキュメンタリー映画制作の修士号を取得後、テキサス、カリフォルニア、コンゴ共和国、さらにはヨーロッパ各地を撮影して回る。『約束の地で』は長編デビュー作。

アンダーグラウンド・オーケストラ
YIDFF '99〈審査員特別賞〉
監督：エディ・ホニグマン p.32

ミコ・レベレザ と アメリカ

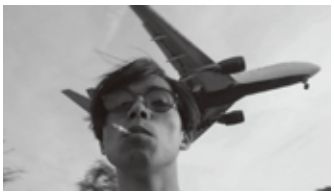
ドロガ！ Droga!

アメリカ、フィリピン／2014／8分
YIDFF 2017 アジア千波万波 BD
アメリカ文化とタガログ語が混ざり合い、アメリカに住むフィリピン人のある存在証明。スーパー8フィルムに焼き付けられた監督の心の中を覗き込んでみる。

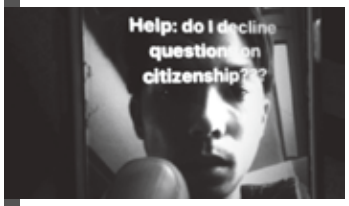
※2作品一組

ディスインテグレーション 93−96
Disintegration 93-96

アメリカ、フィリピン／2017／6分 BD 50Hz Ⓢ
YIDFF 2017 アジア千波万波



監督の家族がロサンゼルスに移り住んだ90年代のホームビデオから滲む不安と郷愁、そして今。アメリカで「融合されない」存在が、映像となって突進する。



ノー・データ・プラン
No Data Plan

フィリピン、アメリカ
2018／70分 BD
YIDFF 2019 アジア千波万波

「母さんは2つの電話を使っている」。母親を中心とした家族の物語を伏線に、複数のアメリカの声がかぶさっていく。監督の家族がいるカリフォルニアからNYの大学へ戻る間の列車に揺られながら、物理的でないどこかへ進む映画という旅。

監督：ミコ・レベレザ　Miko Revereza
『沈黙の情景』YIDFF 2021 アジア千波万波 p.31

我々のものではない世界
YIDFF 2013 ロバート&フランシス・フラハティ賞
監督：マハディ・フレフェル p.13

リトル・パレスティナ YIDFF 2021〈小川紳介賞〉
監督：アブダッラー・アル=ハティーブ p.13

宗教

ファイナル・ソルーション
Final Solution

インド／2004／150分 DV CAM
YIDFF 2005

インドにおけるヒンドゥー教徒とイスラム教徒、両教徒の証言により憎悪の形成と増幅が描かれる。対立構造の中で解決の手がかりを見いだそうとする監督の真摯な姿勢が胸を打つ。

監督：ラケッシュ・シャルマ　Rakesh Sharma
映画とテレビの分野でキャリアを築き、インドで3つのチャンネルを企画、設立。前作『余震―村は何処へ行くのか』(2002)は、100以上の国際映画祭で上映され、多くの賞を受賞した。

純粋なるもの YIDFF 2003〈特別賞〉〈市民賞〉
監督：アナット・ズリア p.26

されど、レバノン YIDFF 2009 アジア千波万波〈奨励賞〉
そこにとどまる人々 YIDFF 2017 アジア千波万波
監督：エリアーン・ラヘブ p.08

アナンド・パトワルダンとインド

神の名のもとに
In the Name of God

インド／1992／91分 16 E
YIDFF '93〈市民賞〉

監督はヒンズー教の遺産と文化に無意識に誇りを持ち育ったが、その教えが下層のカーストの人々や女性たちをいかに圧迫し続けてきたかを知る。インドにおける宗教的暴力の背景を見つめる。

父、息子、聖なる戦い
Father, Son and Holy War

インド／1994／120分 16
YIDFF '95〈特別賞〉

インドにおいてヒンズー、イスラム教徒が際限なくふるい続ける暴力についての考察である。ガンジーの暗殺。シーク教徒の虐殺。監督はこの原因を宗教の因習化と指摘し、五千年の永きに根を持つこれらの諸問題を壮大なスケールで問いかける。

監督：アナンド・パトワルダン　Anand Patwardhan
1950年生まれ。1970年から72年にかけて、ベトナム反戦運動に関わる。1972〜74年はインド中部地方の開発と教育のプロジェクトに、またその他市民の自由や民主的権利を求めた運動に関わる。YIDFF 2003インターナショナル・コンペティション審査員。

パレスティナ、イスラエル

石の賛美歌
Canticle of the Stones

ベルギー／1990／105分 35 1.66 E
YIDFF '91〈特別賞〉

パレスティナにおける人間の風景と痛み。自国にいながら亡命者の立場を強いられるパレスティナ人の苦悩と、恋人たちの再会という愛の物語、ドキュメンタリーとフィクションを互いにさりげなく交錯・浸透させ、魅力的でいいようのない存在感を感じさせる。

監督：ミシェル・クレフィ　Michel Khleifi
1950年、ナザレ（現イスラエル領）生まれのパレスティナ人。ブリュッセルの芸術・スペクタクル国立高等研究所（INSAS）を卒業。『ガレリアの婚礼』（1987）がカンヌ国際映画祭批評家賞を受賞。
『ルート181』YIDFF 2005〈山形市長賞〉 ↓

エルサレム断章
Fragments Jerusalem

イスラエル／1997／358分 16 E
（第一章57分、第二章43分、第三章64分、第四章54分、第五章34分、第六章40分、第七章66分）
YIDFF '97〈ロバート&フランシス・フラハティ賞（大賞）〉

上映時間6時間、全7章からなるこの映画は、ときにイスラエル建国以前のパレスティナの歴史を、また監督自身の両親、祖父母のルーツを、そしてその都市の姿を、浮き彫りにしていく。

監督：ロン・ハヴィリオ　Ron Havilio
『旅―ポトシへ』YIDFF 2007〈優秀賞〉 p.30

ルート181
Route 181—Fragments of a Journey in Palestine-Israel

ベルギー、フランス、イギリス、ドイツ DV CAM LB
2003／270分
（南部84分、中部102分、北部84分）
YIDFF 2005〈山形市長賞（最優秀賞）〉

パレスティナ人ミシェル・クレフィとイスラエル人エイアル・シヴァンは、パレスティナを二分する境界線を辿り、様々な背景を持つ人々に出会う。この土地のみならず、私たちの「今」を照射する。

監督：ミシェル・クレフィ　Michel Khleifi
『石の賛美歌』YIDFF '91 ↑

エイアル・シヴァン　Eyal Sivan
1964年、ハイファ（現イスラエル領）生まれのユダヤ人。エルサレムで育ち、1982年レバノン戦争参戦を忌避して兵役を逃れ、85年フランスに渡る。国際映画祭での受賞多数。

密告者とその家族
Th Collaborator and His Family

アメリカ、イスラエル、フランス BD
2011／84分
YIDFF 2011〈ロバート&フランシス・フラハティ賞（大賞）〉

密告者として長年イスラエルに通じていた父親がパレスティナを追われ、家族を連れてテルアヴィヴに移り住む。パレスティナでは裏切り者とされ、イスラエルからも切り捨てられた家族が、次々に起こる事件に翻弄される日々をスリリングに描く。

監督：ルーシー・シャツ　Ruthie Shatz
アディ・バラシュ　Adi Barash
2人の他の作品に『Diamonds and Rust』(2001)、『ガーデン』(2003、YIDFF 2005 アジア千波万波奨励賞)、『Yuri Foreman』(2009)。

あなたが去ってから
Since You Left

パレスティナ、イスラエル DV CAM
2006／58分
YIDFF 2007

イスラエル在住パレスティナ人俳優の監督。甥がテロ事件への関与で訴追され、自作の映画『ジェニン・ジェニン』はイスラエルでの上映禁止の憂き目に遭うという苦闘が続いていた。それでも監督はイスラエル・パレスティナがそれぞれの愚かさに気づき、向きあうことを訴える。

監督：ムハンマド・バクリ　Mohammad Bakri
イスラエル北部ガリラヤのビエネ村生まれ。テルアヴィヴ大学で演劇とアラブ文学を学ぶ。映画俳優としてパレスティナ、イスラエル映画両方に出演。

アヴィ・モグラビ と パレスティナ、イスラエル

ハッピー・バースデー、Mr. モグラビ
Happy Birthday, Mr. Mograbi

イスラエル／1999／77分 16 1.85
YIDFF '99〈優秀賞〉

ドキュメンタリー映画作家アヴィ・モグラビは、母国イスラエルの建国50周年記念の映画制作を依頼されると同時にパレスティナ人プロデューサーからイスラエルの裏面史ともいえる記録映画を依頼されてしまう。自国の歴史と自分史を映画制作という方法で問い直す。

Z32
イスラエル、フランス／2008／85分
YIDFF 2009〈優秀賞〉 35 1.85

2人のパレスティナ人警官がイスラエル軍に殺された事件に関与した元兵士。その彼が恋人と一緒にカメラに向かって証言する。事件を題材にした自作の歌を歌う監督。証言者の顔を隠すマスクや画像処理が不気味な雰囲気を醸し出す。

庭園に入れば
Once I Entered a Garden

フランス、イスラエル、スイス BD 50Hz CS
2012／97分
YIDFF 2013

長年の友人であるパレスティナ人のアリ・アル＝アズハリとともに出自をふりかえり、政治情勢に翻弄された故郷の在りようをたどる。かつては共存し、境界すら存在しなかった地の記憶。激動期に入った中東に対する思いがこもった作品。

最初の54年間―軍事占領の簡易マニュアル
The First 54 Years —An Abbreviated Manual for Military Occupation

フランス、フィンランド、イスラエル、ドイツ／2021／110分 BD 50Hz CS
YIDFF 2021〈審査員特別賞〉

NGO「Breaking the Silence」が集めた元イスラエル兵の証言を元に構成した、占領戦略マニュアルである。安全保障の名の下に、いかに戦略的に個人が暴力に加担させられるのか、そのからくりを明らかにし、軍事的論理がはびこる日常に警鐘を鳴らす。

監督：アヴィ・モグラビ　Avi Mograbi
テルアヴィヴ在住のイスラエル人映画作家。その実験精神と映画言語刷新への寄与もさることながら、中東地域における社会的・文化的・政治的正義への揺るぎないコミットメントでも知られる。

我々のものではない世界
A World Not Ours

パレスティナ、アラブ首長国連邦、イギリス
2012／93分

YIDFF 2013〈ロバート&フランシス・フラハティ賞（大賞）〉 BD 50Hz

パレスティナ難民の監督が、かつて住んだレバノン南部の難民キャンプに里帰りするたびに撮影した映像と、父の残したホームビデオなどを織り交ぜ、家族や友の歴史、難民キャンプの変貌をすくい上げる。

監督：マハディ・フレフェル　Mahdi Fleifel

ドバイで生まれ、レバノンのアイン・エル・ヘルワ難民キャンプで育ち、デンマークに移住。イギリスの国立映画テレビ学校で学ぶ。1年生のときに監督した『Arafat & I』は多くの国際映画祭で上映され、多数の賞を獲得。本作は、2013年のベルリン国際映画祭で平和映画賞を獲得。

リトル・パレスティナ
Little Palestine, Diary of a Siege

レバノン、フランス、カタール BD 50Hz
2021／89分

YIDFF 2021 アジア千波万波〈小川紳介賞〉

監督自身が出身のシリアのヤルムーク・パレスティナ難民キャンプの2013年～15年の日常生活。道路が封鎖され、食料にも事欠く。爆撃で破壊された家々。一時はISISにコントロールされ、その後ロシア軍とシリア軍に制圧され、キャンプの人びとはただキャンプ内を歩くしかない。

監督：アブダッラー・アル= ハティーブ　Abdallah Al-Khatib

1989年ヤルムーク生まれ。ダマスカス大学で社会学を学び、革命以前は国連活動ボランティアのコーディネーター業務に従事。ヤルムーク難民キャンプについてのいくつかのドキュメンタリーに参加。2016年スウェーデンでパー・アンガー人権賞を受賞。ドイツ在住。

バスマ・アルシャリーフ と パレスティナ

私たちは距離を測ることから始めた
we began by measuring distance

Ⓢ BD PB

パレスティナ、エジプト／2009／19分

YIDFF 2011 アジア千波万波

ローマ＝ジュネーヴ、ガザ＝エルサレム、物理的な都市間の距離を測る謎の集団。既視感のあるパレスティナのイメージに、「神の声」のナレーターの声が覆いかぶさり、パレスティナの複雑なナショナリズムを浮かび上がらせる。

虐げられる者たちよ
O, Persecuted

パレスティナ、イギリス／2014／12分

YIDFF 2015 アジア千波万波 Ⓢ BD

上空を飛ぶ爆撃機、戦闘に備えるパレスティナ解放人民戦線（PFLP）の戦士たち、シェルターに身を隠す人々。フィルムに焼き付けられた人民を鼓舞する声は、占領者たちにナイフのように突き刺さる。

監督：バスマ・アルシャリーフ　Basma Alsharif

アーティスト、映画作家。パレスティナ人の両親のもとにクウェートで生まれる。2007年にシカゴのイリノイ大学で芸術学修士号を取得し、その後は遊牧民的に働き、生活している。カイロ、ベイルート、シャルジャ、アンマン、ガザ地区、パリ、ロサンゼルスで活動。

争いの爪痕

イラク―ヤシの影で
In the Shadow of the Palms—Iraq

オーストラリア／2005／90分

YIDFF 2005〈市民賞〉 DV CAM LB

2003年春、イラク攻撃4週間前。アメリカによる攻撃開始が予見されながらも日々の生活に勤しむバクダットの人々。朗らかであった人々の空気は、爆撃開始後一変する。

監督：ウェイン・コールズ＝ジャネス　Wayne Coles-Janess

ドキュメンタリーと劇映画のプロデューサー、脚本家、監督。作品はテレビ放映や国際映画祭での上映、受賞歴は多数。「タイム」誌ほか雑誌、新聞でも写真、記事を発表している。

祖国―イラク零年
Homeland (Iraq Year Zero)

イラク、フランス
2015／334分
（第一部: 160分、第二部: 174分） BD 50Hz

YIDFF 2015〈優秀賞〉〈市民賞〉

2003年春のイラク、バグダッド。ある大家族の日常は、差し迫る戦争の予感を漂わせながらも穏やかに過ぎてゆく。連合軍による侵攻後、爆撃の跡が生々しく残る街に疎開先から戻った家族を待ち受けていたのは、常に死を意識して生きざるを得ない毎日だった。

監督：アッバース・ファーディル　Abbas Fahdel

『紫の家の物語』YIDFF 2023 p.03

カーキ色の記憶
A Memory in Khaki

カタール／2016／108分 BD 50Hz

YIDFF 2017〈山形市長賞（最優秀賞）〉

ある者にとっては故郷はカーキ色に象徴される抑圧的な世界であり、またある者にとっては赤く染まった暴力的な世界である。この映画で監督は、生まれ育った場所を失うことへの例えようもない感情を描く。その苦い悲しみの表現はみる者の心を捉え易々と離さないだろう。

監督：アルフォーズ・タンジュール　Alfoz Tanjour

1975年シリア生まれ。モルドバ芸術アカデミー映画監督コースで学び、2004年に卒業。多くの短編映画、ドキュメンタリー映画を監督。

メランコリア 3つの部屋 YIDFF 2005
監督：ピルヨ・ホンカサロ p.22

ミゲルの戦争 YIDFF 2021
監督：エリアーン・ラヘブ p.08

ベイルートの失われた心と夢
YIDFF 2023 アジア千波万波〈奨励賞〉 p.04
監督：マーヤ・アブドゥル＝マラク

石が語るまで YIDFF 2023 アジア千波万波
監督：キム・ギョンマン p.05

貧困、労働

掃いて、飲み干せ
Sweep It Up, Swig It Down

ドイツ／1997／70分 35 1.66
YIDFF '99〈優秀賞〉

3人の道路清掃人たちの生活。日の当たらない人生を送る人々や、高速で変化し続けるメディア社会に取り残された人々。厳しい生活を個々に提示しながら、テンポが速くリスクの高い現代の日常のいとなみを描く。

監督：ゲルト・クロスケ　Gerd Kroske
1958年、旧ドイツ民主共和国デッサウ生まれ。1987年、ベルリンのDEFAドキュメンタリー・スタジオにて、脚本家として映画界でのキャリアをスタート。多彩な受賞歴を持つ。

思いやりの話
How to Behave

ヴェトナム／1986／45分 35 1.375 E
YIDFF '91 アジア・プログラム

ヴェトナムにおけるペレストロイカ。一見すると市民の生活の仕方と、個人の道徳観念について描いているが、そこに隠されているのは貧困により絶望状態にあり、勢力を失った国の姿である。

監督：チャン・ヴァン・トゥイ　Tran Van Thuy
1940年、ヴェトナム生まれ。モスクワ映画学校卒業。数々のドキュメンタリー映画を制作し、受賞歴多数。

ミニ・ジャパンの子供たち
Children of Mini-Japan

インド／1990／60分 16 E
YIDFF '91〈奨励賞〉〈市民賞〉

インドの南タミルナド地方の小さな町シバカシ。インドのマッチ産業の70%、花火産業の90%を占める町は、25万人近くの子供たちが働く世界最大の児童労働者の町でもある。

監督：チャラム・ベヌラカル　Chalam Bennurakar
インドのバンガロール在住。この作品が監督デビューとなった。

人として暮らす
The Slice Room

韓国／2016／69分 BD
YIDFF 2017 アジア千波万波〈奨励賞〉

生活困窮者が暮らすソウルの一角にある簡易宿泊所が再開発で消えようとしている。まるで人を追い込むためにあるかのような社会のなかで、それぞれが人らしく生きる道を模索する。監督はそこで生活し、素朴な問いを発しながら、社会保障制度の歪みも浮かび上がらせる。

監督：ソン・ユニョク　Song Yun-hyeok
2010年より独立ドキュメンタリー制作団体「ドキュジン（人）」で活動。チョッパンで暮らす人びとの話を扱った本作が初の長編映画である。

さすらう者たちの地
YIDFF 2001〈ロバート&フランシス・フラハティ賞（大賞）〉

紙は余燼を包めない YIDFF 2007
p.08
監督：リティ・パン

駆け込み小屋 Hut
台湾／2018／54分 BD
YIDFF 2019 アジア千波万波

台湾の某所にある粗末な小屋。インドネシア人労働者たちがひとり、またひとりとやってきて、過酷な労働環境や逃げ込んできた経緯など語り合う。やがて対話は渦を巻き、小屋は異様な熱気に包まれ……。

駆け込み宿 Dorm
台湾／2021／54分 BD
YIDFF 2021 アジア千波万波

台湾にあるヴェトナム人の女性労働者の寮。物で埋め尽くされる空間で彼女たちは、劣悪な生活環境について声をひそめ語り合う。前作『駆け込み小屋』に続く、出稼ぎ労働者のワークショップから生まれた作品。

監督：蘇育賢（スー・ユーシェン）　So Yo-hen
1982年、台湾 台南市生まれ。社会、文化、歴史においてあまり表に出てこないもの、奇想を通じたエンパワメントの可能性といったテーマを主に扱う作品を制作。

異国での生活から
The Lucky Woman

台湾／2020／87分 BD
YIDFF 2021 アジア千波万波

台湾に出稼ぎに来たヴェトナム人労働者の話。過酷な労働や医療保障のない状態などから、不法滞在者として隠れて生活する彼女ら。警察へ出頭してヴェトナムに帰ることになるが……。

監督：曾文珍（ツォン・ウェンチェン）　Tseng Wen-chen
恵まれない境遇に置かれた人びとの人生を長年にわたり記録する映画作家。現在は移民労働者についての映画を制作中。主な作品は『春天―許金玉の物語』（2002、YIDFF 2009 特別招待）、『Love before Sunset』（2019）など。

非正規家族
Temporary

台湾／2017／25分 Ⓢ BD
YIDFF 2019 アジア千波万波

低賃金で雇用が不安定な臨時工の青年と、その両親くらいの年格好の男女1組。廃墟になった工場跡で、落書きをペンキで消したり、身の上話をしたり、酒を飲んで食事をする。家族もどきの不思議な空間。

監督：許慧如（シュウ・ホイルー）　Hsu Hui-ju
ときどきフィルムメーカーになる2児の母親。家族という文脈、または別のフィールドを通して、つらい人生経験の意味を模索する映画を作る。2003年に『雑菜記』でアジア千波万波奨励賞。

『故郷はどこに』YIDFF 2019 ともにあるCinema with Us
p.09

ママ・カレ YIDFF '91
監督：アリアンヌ・ラーン

愛を超えて思いを胸に YIDFF 2019 アジア千波万波
監督：マリー・ジルマーノス・サーバ

不安定な対象 2 YIDFF 2023
p.03
監督：ダニエル・アイゼンバーグ

母がクリスマスに帰るとき…

When Mother Comes Home for Christmas...

インド、ギリシャ、ドイツ／1995／107分

YIDFF '97 16

スリランカからギリシャへ出稼ぎしているジョセフィンはようやく休暇がとれ8年ぶりに帰るが、3人の子どもたちは、久しぶりに会う母親にとまどう。クリスマスの短い訪問がさまざまな感情を呼び覚ます。

監督：ニリタ・ヴァチャニ　Nilita Vachani

デリー大学で英文学を、アート・インスティテュート・オブ・シカゴで映画制作を学ぶ。ニューヨークで映画編集、助監督に従事し、ペンシルヴァニア大学でドキュメンタリー映画の制作を教えている。

蟻の蠢き　Ants Dynamics

中国／2019／120分　BD 50Hz

YIDFF 2021 アジア千波万波

チャイナテレコムを理由もなく突然解雇された元労働者たちが、会社を相手に労働者の権利を訴え、アーティストグループとともに戦う。労働者たちそれぞれの背景も紹介され、会社社長への激しい直談判も。

監督：王楚禹（ワン・チューユー）　Wang Chuyu

パフォーマンスアーティスト、キュレーター。1974年生まれ。1994年から北京で芸術創作を始める。パフォーマンスアート組織「潜行社」を創設。

徐若涛（シュー・ルオタオ）　Xu Ruotao

ビジュアルアーティスト、映像作家。1968年遼寧省瀋陽市生まれ。初の長編実験映画『反芻』（2010）は、2010年バンクーバー国際映画祭でドラゴン＆タイガー賞にノミネート。その後も実験映画の制作を続ける。

炭鉱たそがれ

Home in the Mine

中国／2021／109分　BD

YIDFF 2021 アジア千波万波

2012年以降、中国淮南市の石炭産業は国のエネルギー政策の転換とともに終焉に向かってゆく。地下800メートルの暗闇に眠る資源が与えたもの、奪ったものを、そこで生まれ育った監督が両親や友人らからこぼれる言葉、向けられる視線をとおして知ることとなる。

監督：陳俊華（チェン・ジュンホア）　Chen Junhua

中国出身。2013年短編ドキュメンタリー映画『蘆山紀』を撮り、複数の映画祭で受賞した。ドキュメンタリー映画『苦い銭』（2016、監督：王兵）では撮影者のひとりに名を連ねる。

新自由主義、市場経済

包囲：デモクラシーとネオリベラリズムの罠

Encirclements
—Neo-Liberalism Ensnares Democracy

カナダ／2008／160分　BD DV CAM PB

YIDFF 2009〈ロバート＆フランシス・フラハティ賞（大賞）〉

装われた“自由競争”主義による経済優先政策。その基盤をなすエリート主義と帝国主義支配の原理の起源と現状、さらにはそれを支えるメディア的制度を批判的に再構成するインタビュー・ドキュメンタリー。

監督：リシャール・ブルイエット　Richard Brouillette

プロデューサー、監督、編集者、企画者。1993年にアーティストが運営に携わるカーサ・オプスキュラを創設。

6月の取引

Future June

ブラジル／2015／95分　BD

YIDFF 2015

2014年6月、サッカー・ワールドカップ開催を控えたサンパウロ。グローバル市場経済がもたらす利益と、底辺の地域社会が直面する理不尽な現実。愛する家族や恋人と日々の暮らしを営む4人の男たちの姿を通して、その相克を立体的かつ雄弁に描き出す。

監督：マリア・アウグスタ・ラモス　Maria Augusta Ramos

ブラジル・ブラジリア生まれ。ブラジリア大学卒業後、ヨーロッパに留学し、パリおよびロンドンのシティ大学で音楽学、電子音響音楽を学び、オランダ映画テレビアカデミーに入学。作品は数々の国際映画祭や劇場で上映されている。

『ジャスティス』YIDFF 2005 ↓

裁かれる者、裁く者

ジャスティス　Justice

オランダ、ブラジル／2004／100分

YIDFF 2005 35 1.66

リオ・デ・ジャネイロの裁判所や刑務所の内部に向けられた視線は、人々の日常を行き来しながら、「正義（ジャスティス）」の名の下に“裁くということ”がもたらす有り様にひたすら目を凝らす。

監督：マリア・アウグスタ・ラモス　Maria Augusta Ramos

『6月の取引』YIDFF 2015 ↑

閉ざされた時間 YIDFF '91〈山形市長賞（最優秀賞）〉

監督：シビル・シェーネマン p.16

ナチス、ホロコースト

ロッツ・ゲットー
Lodz Ghetto

アメリカ／1988／103分 35 1.66 E
YIDFF '89

テーマは第二次大戦とホロコースト。残された日記、手記、スチール写真、そしてニュースフィルムなど膨大な資料を集めてこの時代の歴史を再現し、一種のサスペンス・ドキュメンタリーに仕上げている。

監督：アラン・アデルソン　Alan Adelson
作家としてフィクション、ノンフィクションともに多くの作品を発表。ジューイッシュ・ヘリテイジ・プロジェクト代表。

キャスリン・タヴェルナ　Kathryn Taverna
数多くのドキュメンタリーを制作。

精神の武器　Weapons of the Spirit

アメリカ、フランス／1989／90分 16 E
YIDFF '89〈優秀賞〉〈市民賞〉

第二次世界大戦中、ナチスに占領されたフランスの小さな村ル・シャボン。5,000人の農民たちが5,000人のユダヤ人を4年の間かくまい続けた。彼らはなぜ、多くのユダヤ人を助けたのか。

監督：ピエール・ソヴァージュ　Pierre Sauvage
第二次大戦中にフランス、ル・シャボンに生まれ、隠れ住んでいた。戦後ニューヨークに移住。パリに留学後、フランス・シネマテークで働いた後ニューヨークに戻り、ストーリーエディターを務め、ロサンゼルスのプロダクションで活動。2020年、フランス国家功労勲章受勲。

選択と運命　Choice and Destiny

イスラエル／1993／118分 16 E
YIDFF '95
〈ロバート&フランシス・フラハティ賞（大賞）〉

イスラエルに住む監督の両親はホロコーストの生存者である。監督は両親にカメラを向け体験談を聞き出そうとする。日常のさりげない生活のなかで、ふたりは次第に自分の体験を語り始める。

監督：ツィピ・ライベンバッハ　Tsipi Reibenbach
ポーランド生まれ。1950年、ユダヤ人虐殺を生き延びた両親とイスラエルに移住。テルアヴィヴ大学で数学と物理学を専攻。1973年10月、夫が戦死。その後映画研究を開始し、1980年にテルアヴィヴ大学で映画、テレビ、アニメーションの学士号を取得。

死神博士の栄光と没落
Mr. Death: The Rise and Fall of Fred A. Leuchter, Jr.

アメリカ／1999／91分 35 1.85
YIDFF '99

自称処刑工学者フレッド・ロイヒターは、ナチスによるガス室の「疑わしい」使用実態について科学的な調査を依頼される。35mmフィルムや8mm、ビデオ、歴史的記録フィルム等を駆使して作り上げられた、類い稀なる《ミステリー・ストーリー》。

監督：エロール・モリス　Errol Morris
『ヴァーノン、フロリダ』(1981)がYIDFF '95で上映。YIDFF '93インターナショナル・コンペティション審査員。『フォッグ・オブ・ウォー』(2003)が2003年アカデミー賞ドキュメンタリー長編賞などを受賞。

東西ドイツ

閉ざされた時間
Locked Up Time

ドイツ／1990／90分 35 1.375 E
YIDFF '91
〈山形市長賞（最優秀賞）〉

ベルリンの壁が崩壊する前、監督と夫は社会主義国家の権威と法を無視した理由で逮捕され、西ドイツに追放された。ドイツ再統一後、監督はカメラを携え、当時を理解するためにその地に戻る。

監督：シビル・シェーネマン　Sybille Schönemann
1953年、ベルリン生まれ。DEFAスタジオで劇映画の助監督を経て、東ドイツのテレビ大学で学ぶ。長期療養生活の後、ハンブルグのフィルム・ビューローで劇作家を務めている。

予測された喪失
Losses to be Expected

オーストリア／1992／118分
YIDFF '93〈優秀賞〉 35 1.66 E

男やもめのオーストリア人、ゼップは旧東地区で嫁探しをする。一方チェコに住むボーラは、ゼップに西で豊かな生活を約束してくれる男の姿を見る。鉄のカーテンの両側に住む村人たちの生活が、細部に至るまで繊細に記録されている。

監督：ウルリッヒ・ザイドル　Ulrich Seidl
1952年、ウィーン生まれ。カンヌ国際映画祭、ヴェネツィア国際映画祭、ベルリン国際映画祭で『パラダイス』三部作が上映された。

スクリーンプレイ：時代
YIDFF '95〈優秀賞〉〈市民賞〉
監督：ヴィンフリート・ユンゲ、バーバラ・ユンゲ ↗

長編に浸る

ルート1 YIDFF '89〈山形市長賞（最優秀賞）〉
監督：ロバート・クレイマー／255分 p.30

スクリーンプレイ：時代 YIDFF '95〈優秀賞〉〈市民賞〉
監督：ヴィンフリート・ユンゲ、バーバラ・ユンゲ／284分 p.17

エルサレム断章
YIDFF '97〈ロバート&フランシス・フラハティ賞（大賞）〉
監督：ロン・ハヴィリオ／358分 p.12

アムステルダム・グローバル・ヴィレッジ YIDFF '97
監督：ヨハン・ファン・デル・コイケン／254分 p.34

飛行機雲（クラーク海軍基地） YIDFF 2011
監督：ジョン・ジャンヴィト／264分 p.20

航跡（スービック海軍基地） YIDFF 2017
監督：ジョン・ジャンヴィト／277分 p.20

ルート181 YIDFF 2005〈山形市長賞（最優秀賞）〉
監督：ミシェル・クレフィ、エイアル・シヴァン／270分 p.12

旅―ポトシへ YIDFF 2007〈優秀賞〉
監督：ロン・ハヴィリオ／246分 p.30

祖国―イラク零年 YIDFF 2015〈優秀賞〉〈市民賞〉
監督：アッバース・ファーディル／334分 p.13

カメラが見た時代

スクリーンプレイ：時代
Screenplay: The Times

35 1.375

ドイツ／1993／284分
（第一部94分、第二部98分、第三部92分）

YIDFF '95〈優秀賞〉〈市民賞〉

ポーランド国境に程近い東ドイツのゴルツォウという小さな村の子どもたちの30年以上に渡る様々な人生の節目が収められている。図らずも1961年のベルリンの壁の出現から崩壊、そしてドイツ統一という、歴史そのものをまるごと記録する結果となった。

監督：ヴィンフリート・ユンゲ　Winfried Junge

1935年生まれ。1961年よりゴルツォウの子どもたちをテーマに撮り続ける。2006年にはシリーズ最終作が完成した。

バーバラ・ユンゲ　Barbara Junge

1943年生まれ。1983年より共同監督、編集として携わる。

ペーパーヘッズ
Paper Heads

スロヴァキア／1996／96分

35 1.375

YIDFF '97〈優秀賞〉

激動の時代をくぐり抜けたチェコスロヴァキア。歴史的事実と現状を織りまぜた独特の詩情によって、市民と権力の関係を多角的に浮き彫りにする。

監督：ドゥシャン・ハナック　Dusan Hanák

1938年生まれ。炭坑労働者などを経て、1965年にプラハ表現芸術学院映画テレビ部門を卒業、1964年以来監督、脚本家として活動。チェコ国内ではその作品のほとんどが完成とほぼ同時に上映禁止になる。YIDFF '89では『老人の世界』(1972)が招待上映された。

青春クロニクル
Private Chronicles. Monologue

ロシア／1999／91分

35 1.375

YIDFF 2001

監督は膨大な量のプライベート・フィルムと格闘し、あるロシア人青年の1961年から1968年にいたる青春のクロニクル（年代記）をつくりあげた。社会主義国ソビエトのごくありふれた家族の何気ない日常に触れる。

監督：ヴィターリー・マンスキー　Vitalij Manskij

『ワイルド・ワイルド・ビーチ』YIDFF 2007
p.35
『祖国か死か』YIDFF 2013

私はフォン・ホフレル（ヴェルテル変奏曲）
I am Von Höfler (Variation on Werther)

ハンガリー／2008／160分
（第一部80分、第二部80分）

DV CAM

YIDFF 2009

ハンガリーの旧家の250年にわたる物語を、写真やホームムービー、手紙、そして祖先がモデルだという『若きヴェルテルの悩み』の映画化とともに描いていく。個人的な記憶＝アーカイブから浮かびあがるのは、一族の歴史であり、歴史に翻弄されるハンガリーの軌跡である。

監督：フォルガーチ・ペーテル　Forgács Péter

1950年ブダペスト生まれ。メディア・アーティスト、社会科学者。1980年代よりビデオ・パフォーマンスやビデオ・インスタレーションの発表を開始。『アンゲロスのフィルム』(2000)がYIDFF 2001で上映された。

ホワイト・アバウト・チャイナ？ YIDFF 2023
監督：トリン・T・ミンハ
p.03

映画と検閲

映画のない映画祭
A Filmless Festival

中国／2015／80分　BD 50Hz

YIDFF 2017
アジア千波万波特別招待

2014年、北京の映画祭が当局によって開催直前に中止させられた。映画は、村民と称する私服警官の妨害、映画祭事務局の家宅捜索、スタッフの事情聴取といった緊迫した状況を伝える。居合わせた多くの人の手によって撮影された映像を集め、事の顛末を記録した。

監督：王我（ワン・ウォ）　Wang Wo

中国河北省邯鄲生まれ。2001年よりフィルムやビデオの映像作品をインディペンデントで制作。2012年にはニューヨークに滞在。2014年以降は、コーネル大学の客員アーティストも務めている。

カット
Cuts

インドネシア／2016／70分　BD 50Hz

YIDFF 2017
アジア千波万波特別招待

2014年、検閲の過程をドキュメントする意図も含め、作品をインドネシアの検閲局に提出した監督とプロデューサー。内部の過程の記録と並行し、検閲制度に問いを発し続けているインディペンデント映画人らとの対話を通じて、インドネシアにおける映画制作と上映の現在を考える。

監督：ハイルン・ニッサ　Chairun Nissa

1984年生まれ。ジャカルタ芸術大学で映画芸術を学ぶ。ローマ・インディペンデント映画祭2010で『Full Moon』(2009)がスペシャル・メンション、『Chocolate Comedy』(2013)がアムステルダム国際ドキュメンタリー映画祭で公式上映。オムニバス作品で監督経験を積み、本作は初の長編。

ミステリー・ドキュメンタリー

その昔 7人のシメオンがいた
There Once Were Seven Simeons

旧ソ連／1989／89分

35 1.375

YIDFF '91〈優秀賞〉

ソ連に住み、来日もしたことのある明朗なジャズ・バンドの家族が、飛行機をハイジャックして失敗に終り、4人の息子は集団自殺、母親も自分の意志で息子に射殺される。この衝撃的な事件の背景を追う。

監督：ヘルツ・フランク　Herz Frank

『フラッシュバック』YIDFF 2003
p.23

ウラジミール・エイスネル　Vladimir Eisner

1955年生まれ。モスフィルムを経て、93年よりアジアフィルムに所属。

リヴィジョン／検証 YIDFF 2013〈優秀賞〉
監督：フィリップ・シェフナー
p.10

農と人

時は名前を持たない
Time Has No Name

スウェーデン／1989／61分 35 1.66 E
YIDFF '89〈特別賞〉

年老いた農夫とその妻が住む農場。田園風景が広がるスウェーデンの田舎の静かな生活といった絵画的イメージと、残り少ない人生を苛酷な経済的窮乏の中で生き延びる農夫たちの現実が描かれる。

監督：ステファン・ヤール　Stefan Jarl
1941年生まれ。政治的にもアクティブに行動し、パレスティナ問題について糾弾する作品をルーカス・ムーディソンと共に制作。世界各国の映画祭で上映された。

黒い収穫　Black Harvest

オーストラリア／1992／90分 16
YIDFF '93〈ロバート&フランシス・フラハティ賞（大賞）〉

パプア・ニューギニアの高地を舞台に、コーヒー・プランテーションの混血の農場主と、部族のリーダーとして近代化を夢見るポピナとの協力と対立を描く。野心的な2人の男の争いが、二つの社会を巻き込んだ争いに発展し悲劇を招く。

監督：ボブ・コノリー　Bob Connolly
ロビン・アンダーソン　Robin Anderson
1992年に『黒い収穫』をオーストラリア、アメリカ、カナダ、オランダの映画祭に出品し、数々の賞を受賞。Cinema du Reelでグランプリを受賞した。

カマグロガ
Camagroga

スペイン／2020／111分 BD
YIDFF 2021〈山形市長賞（最優秀賞）〉

スペイン、バレンシア地方の都市近郊で、タイガーナッツを代々生産してきた農家。アントニオと娘のインマが、営々と農作業を続ける姿を1年間丁寧に追った記録。時代の流れに抗いながら土を耕し続ける農家としての矜持が、この土地の歴史とともに伝わってくる。

監督：アルフォンソ・アマドル　Alfonso Amador
マドリード生まれの映画監督、脚本家、劇作家。短編第2作『9'8 m/s2』(1998) はカンヌ映画祭公式セレクションに選出。2016年、スペイン作家出版人協会 (SGAE) よりフリオ・アレハンドロ脚本賞を受賞。

交差する声
YIDFF 2023
監督：ラファエル・グリゼー、ブーバ・トゥーレ p.03

村に生きる

山での日々
Days in Those Mountains

中国／2000／162分 BETACAM DVCAM
YIDFF 2001

村人が総出でおこなう道普請、伝統的な婚姻の風景。子どもたちの笑顔。村を訪れたルオの絵とともに静かなタッチで映し出されていく。彼の芸術活動を通して、農場共同体を描き出した。

監督：王海浜（ワン・ハイビン）　Wang Haibing
1956年生まれ。北京広楼学院を写真学専攻で卒業。18年間にわたってテレビニュース報道とドキュメンタリー制作に従事。60以上の作品が多くの賞を受賞。

時の愛撫
Fuente Álamo —The Caress of Time

スペイン／2001／72分 35 1.375
YIDFF 2003

スペインの小さな村フエンテ・アラモ。思春期の少年少女の語らい、家事に勤しむおばあさんなど、村人の何気ない日常が淡々と綴られていく。過ぎゆく時間を愛おしむような温かい眼差しに満ちた映画。

監督：パブロ・ガルシア　Pablo García
1970年生まれ。バルセロナ映像センターにてビデオ、および映像脚本コースを履修。カタルーニャ州映画学校にて演出、脚本執筆を学ぶと同時に写真の勉強を続ける。本作が監督デビュー作品。

船が帰り着く時
When the Boat Comes In

ミャンマー、ドイツ／2014／30分 Ⓢ BD 50Hz
YIDFF 2015 アジア千波万波

ミャンマー南部の漁村の浜辺から、漁師たちはそれぞれの木舟に乗って漁に出かけ、女たちは海で獲れた魚や海老を選り分け、その場で加工する。浜は遊び場であり、仕事場であり、寄り合いの場所であり、海の延長線上に漁村の生活のすべてがある。

監督：キン・マウン・チョウ　Khin Maung Kyaw
カメラマン、監督。2011年にヤンゴン・フィルムスクールに入学し、ドキュメンタリー制作のキャリアをスタートさせる。以来、15本以上のドキュメンタリーの撮影監督を務めてきた。本作が監督デビュー作。

銅山の村
The Copper Village

ネパール／2015／90分 BD 50Hz
YIDFF 2015 アジア千波万波

35年ものあいだ操業が停止していた西ネパールの銅山の村。かつての鉱員たちと村人によって、失われつつあった技術が賑やかに再現され、カースト制度の痕跡を残す村の生活や祭とともに記録される。

監督：ディペシュ・カレル　Dipesh Kharel
ネパール出身。東京大学博士課程に在籍。これまで制作した作品には数多くの受賞歴があり、世界各地の映画祭で上映された。

フローデ・ストラース　Frode Storaas
ノルウェーの映画作家。ベルゲン大学の博物館映像社会人類学教授。

三人の女たち　YIDFF 2023
監督：マキシム・メルニク p.03

ハルコ村
Xalko

カナダ／2018／100分 BD

YIDFF 2019 アジア千波万波〈奨励賞〉

アナトリアのクルドの村。男たちは欧州で働き、女たちは家を守る。ある日 7 年ぶりに帰国した監督の叔父が、妻と成長した娘の元を訪れ……。ハレの日の結婚式、あれこれ話す女たちの日常の裏には、大家族の喜怒哀楽が詰まっている。

監督：サミ・メルメール　Sami Mermer

ヒンドゥ・ベンシュクロン　Hind Benchekroun

両者の共同監督作『Turtles Do Not Die of Old Age』(2010) は、モロッコのティトゥアン国際映画祭で大賞を受賞し、ケベック映画週間でジュトラ賞にノミネートされる。

夏が語ること
And What Is the Summer Saying

インド／2018／23分 Ⓢ BD 50Hz

YIDFF 2019 アジア千波万波

木々の葉をそよがせる風が、村のハンモックを揺らす。耳を澄ませば、女たちのささやきが聞こえる。月明かりや仄かな日の光に照らし出される風景を、色彩を抑えた繊細で緻密な映像で描き、夢の中にたたずむような豊かな時間を作り出す。

監督：パヤル・カパーリヤー　Payal Kapadia

『何も知らない夜』

YIDFF 2023〈ロバート&フランシス・フラハティ賞（大賞）〉 p.02

頑固な夢
YIDFF '91〈ロバート&フランシス・フラハティ賞（大賞）〉 p.33

監督：ソボリッチ・ベーラ

エリッヒ・ラングヤール と アルプス

アルプス・バラード
Alpine Ballad

スイス／1996／100分 35 1.66 E

YIDFF '97

20世紀末のアルプスの酪農一家の日常生活。豚に餌をやり、チーズを作り、牛の乳をしぼり、肥やしを蒔き、冬になると材木を削る。この映画のゆったりとしたテンポと威厳に触れて、観客の心は自由に漂う。

羊飼いのバラード
Shepherds' Journey into the Third Millennium

スイス／2002／124分 35 1.66

YIDFF 2003

スイスの羊飼い一家の日々の営み。雪のなか牧草を求めてさまよい、車が行き交う道路を横断する。世界最古の職業のひとつであるといわれる羊飼いの、実際は過酷な労働でもある生活を見つめる。

監督：エリッヒ・ラングヤール　Erich Langjahr

1944年、スイス・ツーク生まれ。1971年にインディペンデント映画の制作を開始。『アルプス・バラード』『羊飼いのバラード』は、「アルプス三部作」の第1作目と3作目にあたる。

章梦奇（ジャン・モンチー） と 47KM

自画像：47KMに生まれて
Self Portrait: Birth in 47 KM

中国／2016／102分 BD 50Hz

YIDFF 2017 アジア千波万波

中国の山地の小さな村の風景のなかに老女と若い女性の生活を描く。監督自身と村の老女が手を組み合わせたり、女性たちが身体を動かすパフォーマンスを行ったり、若々しい実験も試みている。乾いた風景の映像に、監督の親しみあふれる視線が心にしみる。

自画像：47KMのスフィンクス
Self-Portrait: Sphinx in 47 KM

中国／2017／94分 BD

YIDFF 2019 アジア千波万波特別招待

故郷の村を撮るシリーズ7作目。「○○主義だけが中国を救う」と壁に書かれた村の建物の入口に腰掛け、訥々と亡くなった息子のことや悲しみの半生を語る老女、絵を描く少女……。静かな村に流れる親密な時間が心に沁みる。

自画像：47KMの窓
Self-Portrait: Window in 47 KM

中国／2019／110分 BD

YIDFF 2019

47KMシリーズの8作目。村の老人は半生を語り、少女は老人たちの似顔絵を描く。老人たちとともにやがて消えていく記憶、風景の痕跡として残る歴史や経済的衰退が記録される。この小さな村は、厳しい冬の終わりに文字通り鮮やかな色彩に染まる。

自画像：47KMのおとぎ話
Self-Portrait: Fairy Tale in 47 KM

中国／2021／109分 BD

YIDFF 2021

監督が撮影を開始してから10年目を迎えるこの冬、これまで被写体であったはずの少女たちはカメラを回し、自分たちの村の姿を記録し始める。それにつれて、これまでは撮影者だったはずの監督と、彼女が建てる「青い家」もまた、村の風景の一部になっていく。

自画像：47KM 2020 p.02
YIDFF 2023〈優秀賞〉

章梦奇（ジャン・モンチー）　Zhang Mengqi

『三人の女性の自画像』YIDFF 2011 アジア千波万波 p.27

環境、災害

死のトライアングル
Triangle of Death

スウェーデン／1990／57分 16 E

YIDFF '91

※日本語字幕はスライド、音声は別素材です

ポーランド南西部の鉱工業地帯の公害が子どもたちの身体をむしばんでいる。映画は大胆にナレーションを省略し、ひたすら映像によって公害に打ち倒された世界を凝視する。

監督：イェジー・スワトコフスキ　Jerzy Sladkowski

1971～81年、ポーランドテレビでリポーター、演出、制作をする。82年よりフリーになり、スウェーデンでドキュメンタリー番組に携わる。

オート*メート　AUTO*MATE

チェコ／2009／90分 DV CAM LB

YIDFF 2009

自動車の抑制を主張し、プラハの街をより活き活きと元気にする文化的・社会的運動、「オート*メート」。果たしてプラハ初の“ノー・マイカー・デー”は成功するのか？　ユーモアと遊び心に溢れた、陽気なエッセイ映画。

監督：マルチン・マレチェク　Martin Mareček

1974年、プラハ生まれ。公演芸術アカデミー映画テレビ学校(FAMU)で教鞭を執る。1992年から様々なオーディオヴィジュアル・プロジェクトに、監督、撮影、俳優、ミュージシャンとして携わる。文化・社会・エコロジー活動を数多く行っている。

地の上、地の下 YIDFF 2023 アジア千波万波

監督：エミリー・ホン p.04

ジョン・ジャンヴィトとフィリピン、米軍基地

飛行機雲（クラーク空軍基地）
Vapor Trail (Clark)

アメリカ、フィリピン／2010／264分（第一部109分、第二部155分） BD

YIDFF 2011

朝鮮、ヴェトナム、湾岸戦争を通して米軍の重要拠点だったフィリピンの基地跡地では、化学物質の土壌汚染による住民の深刻な健康被害が出ていた。繰り返される社会的不公正の構図と虐げられてきた者の尊厳に光をあて、支配関係の根深さを分析する。

航跡（スービック海軍基地）
Wake (Subic)

アメリカ、フィリピン／2015／277分（135分+休憩10分+132分） BD

YIDFF 2017

フィリピンに返還された、ルソン島スービック湾の米海軍基地。長く米軍管理下にあった湾周辺は、基地返還後も残留化学物質などに起因する深刻な環境汚染被害をもたらし続けている。公害に苦しむ住民の実態と、被害を告発するNGOの活動を共感をもって追う。

監督：ジョン・ジャンヴィト　John Gianvito

1956年、ニューヨーク市スタテン島生まれ。映画監督、キュレーター、教師。ハーバード・フィルム・アーカイヴでキュレーターを5年間務める。ウィーン国際映画祭、シネマ・デュ・レールなどで回顧上映が行われた。

天からの贈り物 小林村の悲劇
A Gift from the Sky
—The Tragedy of Hsiaolin Village, Part 2

台湾／2013／153分 BD

YIDFF 2013

2009年8月8日の台風と大規模な土砂崩れで全村壊滅状態となった台湾の小林村。生き残った村人たちは、なぜこのような事態になってしまったのかを考え続けている。村人たちの終わりのない苦難、生活を立て直そうとする不屈の精神を丹念に記録した、心に迫る労作。

監督：羅興階（ルオ・シンジエ）　Lo Shin-chieh (A-kai)

1960年、台南生まれ。労使紛争、環境危機等の政治社会問題をテーマに作品を撮り続けている。YIDFFでは『労使間の滑稽な競争』(1998)、『父の日の贈り物　小林村の悲劇その1』(2011)を上映。

王秀齢（ワン・シウリン）　Wang Hsiu-ling

アカデミックな訓練や組織の支援を受けずに映画制作の世界に入った。扱うテーマはつねに、政治、社会、労働にまつわる問題だ。

故郷はどこに YIDFF 2019 ともにあるCinema with Us

監督：シュー・ホイルー p.09

黄淑梅（ホアン・シューメイ）：未来の世代のために

台湾マンボ
Formosa Dream, Disrupted

台湾／2007／145分 BD

YIDFF 2019
ともにある Cinema with Us

台湾921大地震と地滑り・土石流により、壊滅的な被害を受けた南投県中寮。被災世帯は一刻も早い家屋の再建を望むが、頑迷な官僚主義と規制に阻まれ続ける。監督は彼らの闘いに同伴し、政府の硬直的な姿勢を浮き彫りにしていく。

子どもたちへの手紙
A Letter to Future Children

台湾／2015／96分 BD

YIDFF 2019
ともにある Cinema with Us

1999年の921大地震の被災地を撮影していたとき、監督は深夜、地滑りに襲われる夢を見る。10年後、その悪夢は現実のものとなった。植民地時代より現在に至るまで、美しい島の自然がどのように扱われ、損なわれてきたかをたどり、負の記録を未来の世代へと伝える。

帰郷　Coming Home

台湾／2018／99分 BD

YIDFF 2019
ともにある Cinema with Us

台風モーラコットによって壊滅的な被害を受けた南部・屏東（ピンドン）県の山岳地域。災害によって先祖の土地が失われ、伝統文化も消えてしまうという危機感から、子どもたちに言葉や伝統文化や部族の魂を伝える教育活動を始める。

黄淑梅（ホアン・シューメイ）　Huang Shu-mei

1969年台南生まれ。90年に全景映像工作室に参加。2006年、故郷に戻り、現在もインディペンデント作家として作品を制作。99年の921大震災後、震災復興の進捗を記録し、さまざまな映画賞を受賞。

福祉、医療

鳥のように —ラ・ドゥヴィニエール
La Devinière
ベルギー／2000／90分 35 1.66
YIDFF 2001

1976年、精神療法院のラ・ドゥヴィニエールは、不治の病と言われ他の病院から見放された19人の子どもたちに門戸を開いた。20年以上の時がたち、カメラは大人になった彼らの日常をふたたび見つめる。

監督：ブノワ・デルヴォー　Benoit Dervaux
1966年生まれ。カメラ助手、カメラオペレーターを経てベルギー映画を代表する撮影監督のひとりとなる。リュック&ジャン＝ピエール・ダルデンヌ兄弟の『イゴールの約束』(1996)と『ロゼッタ』(1999年カンヌ国際映画祭パルムドール賞受賞)の撮影を務めた。

天使の家で
In the House of Angels
ノルウェー／1998／97分 35 1.66
YIDFF '99

ノルウェーの老人ホーム。カメラは60年連れ添った妻と同じホームで別れて暮らす男性。やがて、老人福祉はどこまで当事者に寛容な場を提供できるかという、世界共通の問題が静かに問い掛けられていく。

監督：マルグレート・オリン　Margreth Olin
1970年スンモーレのストランダ生まれ。オスロとベルゲンの大学で学び、ヴォルダ地方大学で映画及びテレビ番組制作の学位を取得。

山の医療団
Beyond the Salween River
ビルマ、ヴェトナム、タイ BD 50Hz
2019／65分
YIDFF 2019 アジア千波万波

ジャングルを突き進み、紛争で孤立した少数民族の居住地域に医療を届ける医師たち。ベースキャンプでは、村の若者たちが医学知識や応急処置の技術を自ら学ぶ。まだ幼い顔をした若者は身につけたことを背負い、旅立ってゆく。

監督：ジジ・ベラルディ　Gigi Berardi
イタリアのミラノ出身。バンコクを拠点に、コマーシャル & ドキュメンタリー映画監督およびプロデューサーとして活動する。

ライオンのなかで暮らして
Living Amongst Lions
ノルウェー／1998／83分 35 1.66
YIDFF '99〈市民賞〉

ガンに侵された3人の若者を1年半にわたって記録。彼らの友人たちを交えながら、不幸にも若くして死に向かい合った彼らの考えや感情を通して、生の価値と生きることの意味を問いかける。

監督：シグヴェ・エンドレセン　Sigve Endresen
1953年ノルウェー生まれ。1978年よりドキュメンタリー映画を制作。プロデューサーおよび監督としても実績を積む。

私を見守って
Watch Over Me
スイス、ドイツ、インド／2021／92分
YIDFF 2021 BD

インドではまだ広く認知されていない在宅での緩和ケアに勤しむ医師、看護師、カウンセラーの女性3人組がニューデリー中を駆けめぐる。やがて訪れる喪失を前に家族で過ごすかけがえのない時間を描いたこの映画は、モノクロームのやわらかな光に包まれている。

監督：ファリーダ・パチャ　Farida Pacha
ムンバイ生まれ。米国 南イリノイ大学で映画制作を学ぶ。人間の条件を探究することへ強い関心を持ち、詩的かつ調査的手法で現実に迫り、独自の観察スタイルで時間をかけてゆっくりと展開する親密なストーリーテリングを特徴とする。

築巣人 A Rolling Stone
YIDFF 2015関連プログラム「映像は語る」
監督：沈可尚(シェン・コシャン)
p.29

パンデミック

武漢、わたしはここにいる
Wuhan, I Am Here
中国／2021／153分 BD 50Hz
YIDFF 2021 特別招待作品

2020年1月、初監督の劇映画撮影のために武漢に入った監督とクルー。無料で物資提供するボランティア活動に携わり、ロックダウン下で見たものを撮影しながら奔走する。新型コロナウィルス感染症により根本から変わってしまった日常。

監督：蘭波(ラン・ボー)　Lan Bo
映画批評家。テレビ局や動画サイトのドキュメンタリー番組の監督や記者などを務めている。2009年から映画の編集と脚本の仕事を始め、本作が初の長編監督作品である。

ルオルオの怖れ
Luo Luo's Fear
中国／2020／85分 BD 50Hz
YIDFF 2021 アジア千波万波

コロナ禍のなか、ルオルオは、ニュースを見ながら不安でたまらない。父が記す家族や中国の歴史。「民間記憶計画」の主宰者　呉文光(ウー・ウェンガン)や章梦奇(ジャン・モンチー)も登場。地図を広げ、彼らや知人、友人たちの居場所を探す。

監督：洛洛(ルオルオ)　Luo Luo
『ルオルオの青春』YIDFF 2023 アジア千波万波
p.05

紫の家の物語 YIDFF 2023
監督：アッバース・ファーディル
p.03

子ども・青少年

ママ・カレ Mama Calle

オランダ／1990／63分 16 E

YIDFF '91

この作品に登場するメキシコのストリート・キッズは、あどけない顔をした小さな大人たちである。夜、冷たいビルの中で子どもたちが固まって眠る姿には人間の暖かさがあるが、それは同時に子どもたちに近づいた監督の暖かさでもある。

監督：アリアンヌ・ラーン　Arjanne Laan

オランダ・アーネムの芸術アカデミーで、グラフィックデザイン、アニメーション、写真を学んだ後、パリのドキュメンタリー映画学校で映画制作、編集を学んだ後、メキシコに移住し、映画制作に関わる。

離開（りかい） Gone

中国、ドイツ／2015／78分 BD 50Hz

YIDFF 2015 アジア千波万波

1960年代には中国全土にあった小学校も、一人っ子政策の影響を大きく受け、90年代に次々と廃校になった。山岳地帯にある学校の日常と、過疎化した村に住む人々の語りからは、中国の農村を取り巻く厳しい現実がにじみ出る。

監督：金行征（ジン・シンジョン）　Jin Xingzheng

杭州の浙江工商大学でグラフィックデザインを学んだ後、メディアアートを多摩美術大学、ベルリン芸術大学で学ぶ。本作はベルリン芸術大学の卒業制作作品で、2015年のフライブルク映画フォーラム、マルセイユ国際ドキュメンタリー映画祭で公式上映された。

見つめる（特別版）

Look Love (Special Version)

中国／2015／176分 BD 50Hz

YIDFF 2015 アジア千波万波

湖南省の農村、北京の全寮制の学校。家族と離れて働く母親たちと寂しげな子どもたち。互いの思いがすれ違う状況に監督は寄り添い、カメラを介して普段は言葉にされない親と子の思いを引き出していく。

監督：葉雲（イエ・ユン）　Ye Yun

湖南省郴州出身、中央美術学院卒。卒業後、北京央美公共芸術研究院で公共芸術研究に従事。映像インスタレーション「対看計画（Look Love）」が中央美術学院2009年度優秀卒業作品一等賞を受賞。本作は映像インスタレーションを発展させて2009年から撮り始めた長編。

猫、犬、動物、そしてサシミのこと

Of Cats, Dogs, Farm Animals and Sashimi

フィリピン／2015／78分 BD

YIDFF 2017 アジア千波万波

ミンダナオ島のザンボアンガ。ゴム農園などを転々としながら成長したドンドン。カメラは、ケチな雇い主とキニラウを作り、家族や将来について思い悩む少年のつぶやきを拾う。厳しい生活のなかのふとした瞬間に、少年は大人に変わりゆく顔をのぞかせる。

監督：ペリー・ディゾン　Perry Dizon

フィリピン・ミンダナオ出身の映画作家。美術監督、俳優、助監督として映画制作に携わる。主な作品に、ラヴ・ディアス監督の『メランコリア』(2008)、『北（ノルテ）一歴史の終わり』(2013) などがある。本作は初監督作品。

アンコールの人々 YIDFF 2005

監督：リティ・パン p.08

どこに行く

Where I Go

カンボジア、フランス／2013／55分

YIDFF 2017

ともにある Cinema with Us

BD 50Hz

パティカは18歳の青年。顔も知らない父親は、カンボジア内戦が終結し初の選挙が行われた1992–93年、国連の暫定統治下の平和維持活動で駐留したカメルーン人だった。肌の黒い私生児として差別されて育った青年が、未来を切り拓くため立ち上がる。

監督：ニアン・カヴィッチ　Neang Kavich

1987年生まれ。ボパナ視聴覚リソースセンターでドキュメンタリーを学び、2014年、製作会社Anti-Archive共同設立。『昨夜、あなたが微笑んでいた』(2019) がロッテルダム国際映画祭、東京フィルメックスで上映された。

トランスニストラ

Transnistra

スウェーデン、デンマーク、ベルギー

2019／96分 BD

YIDFF 2019

1990年に独立を宣言した小国トランスニストリア。川辺や森、ビルの廃墟でひと夏を過ごす少年少女たちの青春を16ミリカメラが記録する。過酷な現実を前に、故郷の自然の心地よさと未来への不安との間で若者たちの感情は揺れ動く。

監督：アンナ・イボーン　Anna Eborn

1983年スウェーデン生まれ。長編デビュー作品『Pine Ridge』(2013) は、2013年のヴェネチア国際映画祭に出品、イェーテボリ国際映画祭でノルディック・ドキュメンタリー最高賞受賞。

あの雲が晴れなくても

That Cloud Never Left

インド／2019／65分 BD

YIDFF 2019 アジア千波万波

ここからそう遠くないある村の話。赤いルビーを探す子どもたちと、手づくりのフィルムのおもちゃ。村も星も子どもたちも、すべてが回りながら映画になってゆく。

監督：ヤシャスウィニー・ラグナンダン　Yashaswini Raghunandan

映画とサウンドの両分野で活動している。ドキュメンタリー作品に、エクタ・ミッタルとの共同プロジェクト「Behind the Tin Sheets」の一環として作られた『In-Transience』(2011)、『Presence』(2012)、『Distance』(2013、DOKライプツィヒで最優秀短編作品賞) がある。

メランコリア 3つの部屋

The 3 Rooms of Melancholia

フィンランド、ドイツ、デンマーク、スウェーデン

2004／106分 35 1.66

YIDFF 2005

チェチェン紛争をめぐる子どもたちの生活。慈しむように見守る映像の中に、見据えるべき未来を失った悲惨な状況下で生きる子どもたちの表情が浮かび上がる。

監督：ピルヨ・ホンカサロ　Pirjo Honkasalo

1947年、ヘルシンキ生まれ。映画作家、撮影、芸術学教授。作品はカンヌ、ヴェネチア、モスクワ、ベルリンなどの国際映画祭で上映され、数多くの賞を受賞している。

ミニ・ジャパンの子供たち

YIDFF '91〈奨励賞〉〈市民賞〉

監督：チャラム・ベヌラカル p.14

私映画

不在の心象
Image of the Absence

ドイツ／1998／89分 16 E

YIDFF '99

〈ロバート&フランシス・フラハティ賞（大賞）〉

ブエノスアイレスからドイツへ渡った監督は、映画を作るために故国へ戻る。この作品は、クラル監督が両親の別居と父親の長い不在の理由を理解できるようになるための、旅日記のようなものでもある。

監督：ヘルマン・クラル　German Kral

1968年、ブエノス・アイレス生まれ。1991年にミュンヘン映画テレビ学校に留学。ヴィム・ヴェンダースらとの共同制作も行った。YIDFF 2005にて『ミュージック・クバーナ』が特別招待上映、YIDFF 2015では『ラスト・タンゴ』がインターナショナル・コンペティションで上映。

夢の中で　Soshin: In Your Dreams

オーストラリア／1999／26分

朝鮮戦争後、オーストラリアに新天地を求めた両親。家出した娘が、映画づくりの中で、両親を再発見する。

愛についての実話
A True Story about Love

オーストラリア／2001／27分 BETA CAM DV CAM

YIDFF 2001 アジア千波万波

〈小川紳介賞〉

※2作品一組

取材対象である2人の男性と恋に落ちた監督。ベッドにまでカメラを持ちこむことの倫理などにさりげなく触れつつ個人映像世界を展開させている。

監督：メリッサ・リー　Melissa Kyu-jung Lee

韓国ソウルに生まれる。幼少期をソウル、テヘラン、シドニーで過ごす。オーストラリア・フィルム・テレビ＆ラジオ学校の修士を取得。

フラッシュバック
Flashback

ラトヴィア／2002／105分 DV CAM

YIDFF 2003

監督の自伝的作品。挿入される過去の作品の断片（出産、死体解剖、割礼、死刑執行を待つ囚人など）と監督自身の心臓手術シーン。自らを題材にして生と死について語り続ける。

監督：ヘルツ・フランク　Herz Frank

法律学校を卒業後、ジャーナリスト、講師、広告デザイナーなどの職につき、1959年より映画撮影所で写真家、編集者、ドキュメンタリー脚本家、監督として働く。2013年逝去。

『その昔7人のシメオンがいた』YIDFF '91〈優秀賞〉　p.17

私と運転席の男たち
Driving Men

アメリカ／2008／68分 DV CAM

YIDFF 2009

1970年代よりフェミニストの映像作家として活動する監督が、自らの軌跡をふりかえるべく、関わりのあった男性たちに取材していく。アメリカ激動の時代を体験した彼女の人生を浮かび上がらせる。露悪的ユーモアに彩られた、知的かつ聡明な仕上がりの「マイ・ウェイ」。

監督：スーザン・モーグル　Susan Mogul

1949年、ニューヨーク生まれ。ロサンゼルスに移住。ジャンルにとらわれず、自伝、ドキュメンタリー、民族学を自由に組み合わせ、日々の生活からドラマティックで私的な物語を紡ぎ出す。

パラグアイ、記憶の断片
Paraguay Remembered

フランス／2015／89分 BD 50Hz

YIDFF 2015

ひとりの記録映画作家が40年ぶりにパラグアイを訪れた。映画作家となる道を見出した記憶は、アルゼンチンで出会った女性との恋愛の記憶へとつながっていく。さらに、個人的な記憶は独裁政権下の抑圧の記憶と絡み合い、鏡のように反射し合う。不完全な記憶をめぐる私的映像詩。

監督：ドミニク・デュボスク　Dominique Dubosc

1941年中国生まれ。フランスとイギリスで教育を受ける。主な監督作品に『LIP or the Sense of Working Together』(1976)『Celebrations』(2000)、『Palestine Remembered』(2002-04)などがある。

自我との奇妙な恋
A Strange Love Affair with Ego

オランダ／2015／91分 BD 50Hz

YIDFF 2017

常に眩しく憧れの存在だった姉。だが彼女の過剰なまでの自尊心、自己愛、あるべき自己像への執着が、人生を徐々に狂わせていく。他人が羨むような人生を送ることに価値が置かれ、実際の自分とのずれに苦しむ現代人の生きづらさ、息苦しさを切実に描き出す私的エッセイ。

監督：エスター・グールド　Ester Gould

1975年、スコットランド生まれ。10歳でオランダに移住し、映画とジャーナリズムを学ぶ。エディ・ホニグマンのもとでリサーチャーと助監督を務めた後、自身でドキュメンタリーを撮り始める。2016年には、『ヴァラエティ』誌の「見るべき ヨーロッパ女性監督10人」に選出。

孤独な存在
Lone Existence

中国／2016／77分 BD 50Hz

YIDFF 2017〈優秀賞〉

彼は何年もの間、家から出ることなく、誰にも何も話すことなく過ごしてきた。いままで向き合うことを避けてきた、隠された自己を投影する他者の存在を、カメラでひたすらに観察する欲望だけが、彼の生をつなぐ。作家として、他者そして自己を見つめることの根源を問う。

監督：沙青（シャー・チン）　Sha Qing

1965年、北京生まれ。録音・編集技師として数々のドキュメンタリー映画制作に携わった後、2002年にデビュー作『一緒の時』を完成させ、YIDFF 2003アジア千波万波で小川紳介賞、ヴィジョン・デュ・レール2004でスイス映画賞を受賞。

プライベート・ウォーズ YIDFF '97〈市民賞〉
監督：ニック・ディオカンポ p.24

このささいな父の存在 YIDFF 2017 アジア千波万波
監督：サリーム・ムラード p.24

太った牛の愚かな歩み YIDFF 2015 アジア千波万波
監督：ガージ・アルクッツィ p.24

ナイト・ショット YIDFF 2021〈優秀賞〉
監督：カロリーナ・モスコソ・ブリセーニョ p.25

私はトンボ YIDFF 2023 アジア千波万波
監督：ホン・ダイェ p.05

多様な性

プライベート・ウォーズ
Private Wars

フィリピン／1996／65分 16 E

YIDFF '97〈市民賞〉

日本占領下に抗日運動に身を捧げ戦後家族を捨て行方不明になった自分の父。監督は、ゲイである自己との関わりを含め、再現ドラマを交えて描く。同時に祖国フィリピンの歴史（1898年の米西戦争、独立を求める闘い、マルコス時代、コラソン・アキノ政権下での幸福感）を振り返る。

監督：ニック・ディオカンポ　Nick Deocampo

1959年、マニラ生まれ。フィリピン・インディペント映画界を代表する理論家、作家。YIDFF '89アジア・シンポジウム参加、YIDFF '91では『イナン・バヤン ― 女であることは戦いに生きること』(1991)が招待上映。

このささいな父の存在
This Little Father Obsession

レバノン／2016／103分 BD 50Hz

YIDFF 2017 アジア千波万波

一人息子である監督はゲイで、ムラード家の血筋は彼で止まる。家も家系も引き継げない監督が、自らの居場所を探すため、父を、家族を、伝統や宗教に縛られた家父長制を、耽美とユーモアで挑発するオートフィクション・ドキュメンタリー。

監督：サリーム・ムラード　Selim Mourad

ベイルートのセントジョセフ大学で学び、映像音響学で学士号、映画制作で修士号を取得。『髪を切るように』(2010、YIDFF 2011)などの短編や中編を制作する。レバノンでドキュメンタリー映画制作を教えている。

太った牛の愚かな歩み
Foolish Steps of a Fat Cow

ボスニア・ヘルツェゴビナ、シンガポール、ドイツ
2015／20分 Ⓢ BD

YIDFF 2015 アジア千波万波

監督をベルリンへと駆り立てる罪悪感とは？ 異郷の地サラエボを抜け出した彼は、「自分の宗教に反することをしてはいけない」という母の言葉を反芻しつつ、新たにドイツに住み始めた友人の同性カップルのもとを訪ねる。自身の心の奥底まで覗き込む、ある男の心のロードムービー。

監督：ガージ・アルクッツィ　Ghazi Alqudcy

シンガポール出身の映画作家。監督作品は多くの国々で上映されており、ギャラリーでの上映も多い。、タル・ベーラが主宰する「フィルム・ファクトリー」の修士課程に在籍。

ミゲルの戦争 YIDFF 2021
監督：エリアーン・ラヘブ p.08

アンヘル69 YIDFF 2023
監督：テオ・モントーヤ p.02

珠玉の短編

夢の中で／愛についての実話
YIDFF 2001 アジア千波万波
監督：メリッサ・リー／26分+27分 p.23

私たちは距離を測ることから始めた
YIDFF 2011 アジア千波万波
監督：バスマ・アルシャリーフ／19分 p.13

虐げられる者たちよ YIDFF 2015 アジア千波万波
監督：バスマ・アルシャリーフ／12分 p.13

わたしはまだデリーを見ていない
YIDFF 2015 アジア千波万波
監督：フマイラ・ビルキス／19分 p.31

太った牛の愚かな歩み YIDFF 2015 アジア千波万波
監督：ガージ・アルクッツィ／20分 p.24

七度目の祈り YIDFF 2015 アジア千波万波
監督：ヴァルン・トリカー／27分 p.27

船が帰り着く時 YIDFF 2015 アジア千波万波
監督：キン・マウン・チョウ／30分 p.18

中国街の思い出 YIDFF 2015 アジア千波万波
監督：陳君典（チェン・ジュンディェン）／30分 p.36

ドロガ！／ディスインテグレーション 93−96
YIDFF 2017 アジア千波万波
監督：ミコ・レベレザ／8分+6分 p.11

非正規家族 YIDFF 2019 アジア千波万波
監督：許慧如（シュウ・ホイルー）／25分 p.14

夏が語ること YIDFF 2019 アジア千波万波
監督：パヤル・カパーリヤー／23分 p.19

海辺の王国で YIDFF 2019 アジア千波万波
監督：慶野優太郎／23分 p.35

ここへ来た道 YIDFF 2019 アジア千波万波
監督：張齊育（テオ・チーユー）／29分 p.29

ソウルの冬 YIDFF 2019 アジア千波万波
監督：ソン・グヨン／25分 p.36

心の破片 YIDFF 2021 アジア千波万波
監督：ナンキンサンウィン／13分 p.25

エントロピー YIDFF 2021 アジア千波万波
監督：張猷嵩（チャン・ヨウソン）／10分 p.37

それは竜のお話 YIDFF 2021 アジア千波万波
監督：タイムール・ブーロス／16分 p.31

性暴力

稲妻の証言
The Lightning Testimonies

インド／2007／113分 DV CAM

YIDFF 2009

1947年のインド・パキスタン分離独立から現在まで続く、女性への性暴力を繰り返している対立の歴史をさまざまな映像表現で辿り、暴力の残虐さと女性たちの尊厳ある強靭な精神を描く。

監督：アマル・カンワル　Amar Kanwar

1964年生まれ。エドヴァルド・ムンク芸術賞（ノルウェー）受賞者。『外部の季節』（1997）がYIDFF '99、『夢の王』（2001）がYIDFF 2001、『予言の夜』（2002）がYIDFF 2003のアジア千波万波で上映。YIDFF 2011インターナショナル・コンペティション審査員。

ドリームキャッチャー
Dreamcatcher

イギリス／2015／98分 BD 50Hz

YIDFF 2015

性暴力の被害女性を支援する「ドリームキャッチャー・ファウンデーション」のブレンダ。彼女自身、薬物中毒にかかり性的暴行を受けた経験があった。「弱者」としての女性に冷淡なアメリカ社会の現実に立ち向かう彼女の慈悲と熱意が、傷ついた女たちに生きる力を与えている。

監督：キム・ロンジノット　Kim Longinotto

非凡な人生を送る女性、とりわけ抑圧や差別の被害者をテーマにした作品でよく知られている。『イラン式離婚狂想曲』（1998）がYIDFF '99、『ガイア・ガールズ』（2000）がYIDFF 2001、『肝っ玉おばちゃん』（2008）がYIDFF 2009の特集「明日へ向かって」で上映。

『イラン式離婚狂想曲』YIDFF '99〈国際批評家連盟賞〉 p.26

ラ・カチャダ　YIDFF 2019

監督：マレン・ビニャヨ p.33

確かめたい春の出会い

YIDFF 2023 アジア千波万波

監督：タイムール・ブーロス／25分 p.04

ベイルートの失われた心と夢

YIDFF 2023 アジア千波万波

監督：マーヤ・アブドゥル＝マラク／36分 p.04

負け戦でも　YIDFF 2023 アジア千波万波

監督：匿名／23分 p.04

鳥が飛び立つとき　YIDFF 2023 アジア千波万波

監督：匿名／28分 p.04

私の非情な家
My No-Mercy Home

韓国／2013／75分 BD

YIDFF 2015 アジア千波万波〈日本映画監督協会賞〉

自分の話を聞いてほしいと監督に声をかけたイルカは、中学時代に父親から性的暴行を受けていた。父親をかばう母親や親族たちに心が折れそうになりながらも、家族と一緒に住む二人の妹を守るため、また何より自分自身を取り戻すため、法廷の証言台に立つ。

監督：アオリ　Aori

ミュージックビデオの助監督として働いていたとき、『ブエナ・ビスタ・ソシアル・クラブ』を観て感銘を受ける。MediACTで独立ドキュメンタリー制作のコースを修了後、女性の権利を扱ったドキュメンタリーを撮ることを通して一人の人間になる道を歩んでいる。

ナイト・ショット
Night Shot

チリ／2019／80分 BD

YIDFF 2021〈優秀賞〉

8年前に自身が被ったレイプ事件は加害者の容疑否認のまま不起訴となり、警察や医療機関に対する不信感だけが残された。監督は、言葉にならない感情をエッセイ映画として露わにする。性暴力を受けた心身をどう生きるのか、出口の見えない旅の到着地に見る者もともに立ち会う。

監督：カロリーナ・モスコソ・ブリセーニョ　Carolina Moscoso Briceño

チリ大学映画テレビ学部監督・編集コース在籍。バルセロナのポンペウ・ファブラ大学クリエイティブ・ドキュメンタリー・コース修士課程修了。これまでいくつかのビデオクリップ、アニメーション、映像・演劇プロジェクトで監督・編集を務め、『ナイト・ショット』で初のドキュメンタリー映画を制作作した。

心の破片　Broken

ミャンマー／2021／13分

YIDFF 2021 アジア千波万波〈特別賞〉

Ⓢ BD 50Hz

武装グループと国軍の間で紛争が続くミャンマー、カヤー州の村出身の監督と年上の女性。自身の性暴力被害を語り始める。紛争が続く限り、時代に関わらず女性が性暴力と隣り合わせであることに変わりはない。そして誰もが心や身体の傷を負わされる。

監督：ナンキンサンウィン　Nan Khin San Win

ミャンマー、カヤー州ボーレク郡に生まれ育ち、州都ロイコーでヤンゴン映画学校の出身者たちが運営するワークショップに参加。2020年には「カヤー州の隠された多くの物語を明るみに出したい」とヤンゴン映画学校に入学。本作は、彼女が監督を務めた初のドキュメンタリーとなる。

女性

生きて帰れてよかったね
How Nice to See You Alive

ブラジル／1989／100分 35 1.375 E
YIDFF '91

理想に燃え、反体制運動を行って拷問を受けながらも生き延びた女性たち。都市ゲリラ活動に参加し逮捕・拷問を受けた経験を持つ監督は同性の元活動家たちの記憶と思いを徹底的に吐露させ、思いを共有する。

監督：ルシア・ムラト　Lúcia Murat
環境についてのドキュメンタリー、テレビ番組などを制作。

特権　Privilege

アメリカ／1990／103分 16
YIDFF '91

更年期およびそれを取り巻く医学的または社会的な神話と数々の現実。監督は中年女性の立場から現実的問題を提起する。性的アイデンティティと、人種・性・階級の経済的不平等についての作品である。

監督：イヴォンヌ・レイナー　Yvonne Rainer
1934年、サンフランシスコ生まれ。ニューヨークでモダンダンスを学び、ダンサーとして活躍。

イラン式離婚狂想曲
Divorce Iranian Style

イギリス、イラン／1998／80分 16
YIDFF '99
〈FIPRESCI（国際批評家連盟）賞〉

イランのテヘラン市中央に位置する家庭裁判所が舞台。男には自由意志による離婚が認められ、女にはその権利がないイランで、"妻"が離婚を申し立てることの難しさ。6人のごく普通の女性が、人生の難しい一時期を乗り越える姿を追う。

監督：キム・ロンジノット　Kim Longinotto
『ドリームキャッチャー』YIDFF 2015 p.25
ジバ・ミル＝ホセイニ　Ziba Mir-Hosseini
文化人類学者。ジェンダーと開発の問題に関するリサーチを行なう。

純粋なるもの　Purity

イスラエル／2002／63分 DV CAM
YIDFF 2003
〈特別賞〉〈市民賞〉

ユダヤ教徒の結婚と性について考察。男性社会における女性の葛藤、そして戒律による夫婦生活や性のあり方。カメラに向かい率直な意見を述べる女性たちは、2000年来のユダヤ教の戒律のタブーに挑戦する。女性たちの表情の豊かさ、静謐な水のイメージが心に残る。

監督：アナット・ズリア　Anat Zuria
数々の雑誌に芸術とユダヤ教について執筆活動をしながら、アーティストとしても活動。ドキュメンタリー作品のエディターとしてフリーランスで活躍。

いつもそこにあるもの　YIDFF 2015
監督：クロエ・アンゲノー、ガスパル・スリタ p.28

訪問、秘密の庭　YIDFF 2023〈山形市長賞〉
監督：イレーネ・M・ボレゴ p.02

記憶と夢
Memories and Dreams

オーストラリア／1993／58分 35 1.66 E
YIDFF '95

プラハに生まれ、非凡な人生を歩んだヨハンナ。バイクレーサーとしての活躍、ナチス占領による収容所への拘置と脱走、撮影所への就職、幼い子どもを連れての亡命など、波乱に富んだ人生を独自の映像世界で描く。

監督：リン＝マリー・ミルバーン　Lynn-Maree Milburn
メルボルンの工科大学で絵画と写真を専攻。卒業後、劇映画の衣装デザイン、撮影、アニメーションなどを担当する傍ら、U2などのミュージックビデオや、ニカラグアのサンディニスタ政権の選挙CMの制作にも携わる。

遊牧民の家
Nomad's Home

エジプト、ドイツ、アラブ首長国連邦クウェート／2010／61分 BD
YIDFF 2011

シナイ半島の荒涼とした砂漠で女性起業家として生きるセレマと出会う旅。因習と立ち向かい、ベドウィン女性たちに経済力と教育をもたらそうと試みている姿は、監督自身の人生といつしか重なり響き合う。

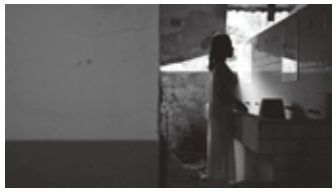
監督：イマン・カメル　Iman Kamel
カイロ生まれ。ベルリンで美術、ダンス、映画を総合的に学ぶ。若者や移民と創造的な活動を共同で行うことを目的に、Initiative Film Aktiv In Schoolを設立。本作が初の長編ドキュメンタリー。

アメリカ通り
American Alley

韓国／2008／90分 DV CAM
YIDFF 2009 アジア千波万波
〈小川紳介賞〉

米軍基地が面積の約40%を占める東豆川（トンドゥチョン）市の一角にある「アメリカ通り」。ここで40年以上働いてきた韓国人女性「K」の身体に刻まれた基地村の歴史を紐解きながら、ロシア人、フィリピン人女性たちがクラブで働き、「不法就労」の摘発・強制送還が絶えない現在を映す。

監督：キム・ドンリョン　Kim Dong-ryung ↓



蜘蛛の地　Tour of Duty

韓国／2013／150分 BD
YIDFF 2013〈特別賞〉

韓国・京畿地方北部の米軍基地周辺の旧歓楽街。沈黙が支配する町に、3人の元売春婦の女性がひっそりと生きている。一生癒されることのない傷を抱えて廃墟をさまよう彼女たちの姿は、あらゆる記憶の忘却への抵抗を伝えている。

監督：キム・ドンリョン　Kim Dong-ryung
1977年生まれ。韓国国立映画アカデミーで映画制作を学ぶ。『アメリカ通り』（2008）がYIDFF 2009で小川紳介賞を受賞。
パク・ギョンテ　Park Kyoung-tae
韓国とフランスを行き来しながら、視聴覚芸術プロジェクトに共同で取り組んでいる。2013年ベルリン国際映画祭では平和映画賞を獲得。

ハルコ村
YIDFF 2019 アジア千波万波〈奨励賞〉
監督：サミ・メルメール、ヒンドゥ・ベンシュクロン p.19

三人の女性の自画像
Self-Portrait with Three Women
中国／2010／75分 BD
YIDFF 2011 アジア千波万波

大学を卒業したばかりの監督は、一緒に暮らす母と祖母に反発しながらも、世代間の対話を試みる。パフォーマーでもある監督は、失恋をバネに、画面からはみ出さんばかりに、思い切りシャウトする。

監督：章梦奇（ジャン・モンチー）　Zhang Mengqi
ジャン・モンチーと47KM p.19

女たち、彼女たち
Us women . Them women
アルゼンチン／2015／65分 BD
YIDFF 2015〈特別賞〉

女性9人が集う家。先祖から彼女たちの身体へ脈々と引き継がれてきた何かが、古い館のなかに満ちている。年老いた者はゆっくりと死を迎え、若い肉体は新しい命を宿す。男性の姿は遠くはかなげで、女性たちの世界だけが神話のように立ち顕れる。

監督：フリア・ペッシェ　Julia Pesce
1984年生まれ。アルゼンチンの映画監督、アートディレクター。2010年以降は映画やテレビのプロジェクトの美術部門で働く。本作は、5年にわたり取り組んでいた初の長編映画。

七度目の祈り
The Seventh Wish
インド／2014／27分 Ⓢ BD 50Hz
YIDFF 2015 アジア千波万波

男性が女性の言葉で「欲望」を語るウルドゥー語の古典詩レーフティー。妖霊が宿る場所に通い続ける女たち。ひとつの空間を共有し、語り、踊り、嘆き、愛する彼女らのなかに、レーフティーに描かれる「女たちの空間」を見出し、時代を超え、詩と対話を試みる。

監督：ヴァルン・トリカー　Varun Trikha
『記憶の再生』YIDFF 2023 p.05

ミーナーについてのお話
A Report about Mina
イラン／2014／54分 BD 50Hz
YIDFF 2015 アジア千波万波〈特別賞〉

テヘランの公園の片隅でゴミとともに暮らす女性ミーナー。新年の喧噪をよそに、クスリや煙草を求めてくるホームレスと他愛ない会話を交わす。犬やホームレスたちのゴッドマザーとなっているミーナーを見つめた14日間。

監督：カウェー・マザーヘリー　Kaveh Mazaheri
1981年、イラン・テヘラン生まれ。2004年に大学を卒業した後、雑誌で映画批評を執筆するようになる。これまでに自主制作や、イランのテレビ放映用にドキュメンタリーを制作、国内の複数の映画祭で上映されている。

レッド・ウェディング
Red Wedding
カンボジア、フランス BD 50Hz
2012／58分
YIDFF 2017 ともにある Cinema with Us

1970年代後半のカンボジア、ポル・ポト政権下で25万人以上の女性が兵士と強制結婚させられた。30年の沈黙の後にそのことを法廷で語ろうと立ち上がる女性の物語。いつか語りうる体験のために、映像は何をなすのか。

監督：チャン・リダ　Chan Lida
1980年、カンボジア生まれ。2006年ボパナ・センター入局。2010年、リティ・パンのワークショップに参加。

ギョーム・スウォン　Guillaume Suon
プノンペンを拠点にカンボジアの歴史や文化についての映画を制作。

ユキコ Yukiko
フランス／2018／70分 BD 50Hz
YIDFF 2019

フランス在住の監督、韓国で暮らす母、戦時中に朝鮮人の恋人を追って日本からソウルにやってきた祖母。互いに薄い関わりしか持たない三人の女性像を紡ぐ。母が住む江華島と祖母が人生最期の地に選んだ沖縄で架空の物語が交わり、戦時の悲劇が呼び起こされる。

監督：ノ・ヨンソン　Noh Young-Sun
1979年、ソウル生まれ。フランスを拠点に活動。グルノーブル美術学校在学中にビデオアートを学び、リュサス・ドキュメンタリー映画学校に編入。『ユキコ』は長編デビュー作。

夜明けに向かって
This Stained dawn
BD
パキスタン、カナダ／2021／89分
YIDFF 2021 アジア千波万波

激しいカウンターやヘイトスピーチにさらされながらも行われた行進。学生や活動家たちの知恵と労苦としなやかな連帯が、逆風のなかに生き生きと描かれる。フェミニストを犯罪者扱いする国家や、ムスリム女性を被害者扱いする全世界的なナラティヴを覆し、自分たちの真実を突きつける。

監督：アナム・アッバス　Anam Abbas
パキスタンを創作の拠点とするパキスタン＝カナダ人映画作家。本作は長編ドキュメンタリー監督デビュー作。「Other Memory Media」主宰。パキスタン・ドキュメンタリー協会 DAP の創立メンバーにも名を連ねる。

メークアップ・アーティスト
Makeup Artist
イラン／2021／76分 BD
YIDFF 2021 アジア千波万波〈奨励賞〉

メークアップ・アーティストの勉強をするため、大学に通うことを条件に結婚したミーナ。夢を叶えるためならばと夫や義母の猛反対にもめげず、あの手この手で道を切り開いて突き進む。次第に周囲も現実も少しづつ変わっていくかのように見えたのだが……。

監督：ジャファール・ナジャフィ　Jafar Najafi
1986年生まれ。写真家、研究者、映画作家。自身初の短編ドキュメンタリー作品『Asho』(2019) が国内外の多くの映画祭で上映され、アムステルダム国際ドキュメンタリー映画祭「子どもたちのドキュメンタリー」最高賞のほか、世界各地で数々の賞を受賞した。

家族

家族写真
Over the Threshold
日本、イギリス／1989／60分 16 E
YIDFF '89〈奨励賞〉

イギリス国立映画テレビ学校在学中に知り合った監督夫婦が日本に里帰りする。妻クリスティンの視点を通して、何でもない日常生活のなかで異国の人々と適応することの意味を探っていく。

監督：手塚義治
1958年、東京生まれ。劇映画のカメラマンとして働いた後、イギリス国立映画テレビ学校に留学。駒沢大学准教授。

クリスティン・ロイドフィット　Christine Lloyd-Fitt
1956年、オーストラリアのパース生まれ。撮影監督として活躍。

静かな空間
About A Farm
フィンランド／2005／54分 DV CAM
YIDFF 2005〈優秀賞〉

牧場の牛を売り払い農場の閉鎖を決意した両親。妹の病気、心配するしかない母。都会での生活を選んだ妹と監督。押し寄せる時代の波の中にあるひとつの家族の物語。

監督：メルヴィ・ユンッコネン　Mervi Junkkonen
1975年、フィンランド生まれ。ヘルシンキ芸術デザイン大学でドキュメンタリーの撮影と編集を学ぶ。この作品が長編デビュー作。

リック・ソルト —僕とばあちゃん
Lick Salt—A Grandson's Tale
カナダ／2006／78分 DV CAM
YIDFF 2007

父から祖母セシルとの交流を固く禁じられていた監督。祖母と孫の心の絆をユーモラスに描いた私的ドキュメンタリー映画。

監督：ライアン・フェルドマン　Ryan Feldman
トロントに拠点をおくインディペンデント映像作家。シェリダン大学メディアアート学科を卒業。

阿仆大（アプダ）
Apuda
中国／2010／145分 BD
YIDFF 2011〈優秀賞〉

中国雲南省北部。少数民族ナシ族の農夫阿仆大は、老いて体の自由のきかなくなった父親と二人暮らしをしている。山の奥深い村に生きる父子を、悠揚たるリズムと深みのある映像で見つめ、生と死のドラマを映し出す。

監督：和淵（ホー・ユェン）　He Yuan
1975年、中国麗江生まれ。雲南大学大学院映像人類学東アジア研究所卒業後、雲南省社会科学院民族学研究所民族学映画製作センターにて勤務。YIDFF 2005の「雲南映像フォーラム」では『金平（ジンピン）県ハニ族の織物』(2005)および『息子は家にいない』(2004)が上映された。

星空の下で
Position among the Stars
オランダ／2010／111分 BD
YIDFF 2011

インドネシア。両親を亡くし叔父一家と暮らす孫娘を訪ねて田舎から出てきた祖母を中心に、宗教間の衝突や貧富の格差、世代間の意識のずれを巧みに折り込みながら、家族を想う庶民の日常を疾走するカメラワークでドラマチックかつユーモラスに捉えた作品。

監督：レナード・レーテル・ヘルムリッヒ　Leonard Retel Helmrich
1959年、オランダのティルブルグ生まれ。YIDFF 2009では『約束の楽園』(2006)を上映。カメラが流動的に動く「シングルショットシネマ」で知られる。2023年逝去。

家族のかけら
Parts of a Family
オランダ、メキシコ／2012／83分 BD 50Hz
YIDFF 2013

メキシコシティ郊外の壮麗な邸宅で暮らす老夫婦。かつては深く愛し合っていた夫婦が歳月とともに疎遠になった軌跡が、息子のカメラを通して浮かび上がってくる。あまりにも普遍的でほろ苦く、切ない愛の物語に息子はどんな結末を与えるのか。

監督：ディエゴ・グティエレス　Diego Gutiérrez
ヴィジュアルアーティスト、映画監督、カメラマン。1998年、メキシコシティとアムステルダムに拠点を置くアーティスト主導の組織、エル・デスパチョを設立。ヴィジュアルアーティストや他分野で活躍する人々がドキュメンタリー制作の多様な可能性を探る場を提供している。

いつもそこにあるもの
Always and Again
フランス／2015／79分 BD 50Hz
YIDFF 2015

ナポリのサニタ地区、4世代からなる女ばかりの一家が暮らす部屋。家事労働への不満や娘たちの人間関係への不安を語るきわめて感情豊かな女性たちの声が、外部に広がる世界を一切見せることなく、魅力あるドラマを形成する。

監督：クロエ・アンゲノー　Chloé Inguenaud
1982年パリ生まれ。ドキュメンタリー映画やテレビ番組の脚本・演出を手がけるのと並行して独自の映画プロジェクトも進める。2010年にガスパル・スリタと出会い、芸術活動のパートナーとなる。

ガスパル・スリタ　Gaspar Zurita
1974年チリ生まれ。撮影監督、映画のポストプロダクションを経て、ドキュメンタリー映画の制作と監督業に進出。2001年に渡仏し、2006年、アンコラ・フィルムズを設立。

翡翠之城
City of Jade BD
台湾、ミャンマー／2016／99分
YIDFF 2017 アジア千波万波〈特別賞〉

ミャンマー、カチン州。母や祖父はドラッグで捕まったが、兄もドラッグで刑務所に収監された。16年ぶりに兄に会って、翡翠採掘に同行する。断続する政府軍とカチン独立軍との戦争などミャンマーの社会状況も語られ、兄へのアンビヴァレンツな思いが切々と伝わる。

監督：趙徳胤（チャオ・ダーイン／ミディ・ジー）　Midi Z
1982年、ミャンマー生まれ。16歳で台湾に移住。作品は釜山国際映画祭、ロッテルダム映画祭、エディンバラ映画祭、台北映画祭、カンヌ映画祭などで上映。多作な監督であり、ミャンマー、台湾、タイ、中国で活動している。

築巣人
A Rolling Stone

台湾／2012／54分 BD 字

YIDFF 2015 関連プログラム「映像は語る」

シングル・ファザーにとって、自閉症の30歳の息子との毎日は、まるで押し上げた重石が転がり落ちる日々の繰り返し。仕事と家事に追われながら、彼との接続の瞬間に目を凝らす。YIDFF 2015関連プログラム「映像は語る―ドキュメンタリーに見る現代台湾の光と影」上映作品。

監督：沈可尚（シェン・コシャン）　Shen Ko-shang

台湾少数民族出身。1999年、台湾芸術大学映像学科卒業。現実を生きる人々の限界と希望を共通テーマに、実験映画からコマーシャル作品までを手がける。本作は台湾映画祭2013でグランプリを受賞した。

ニンホアの家
A House in Ninh Hoa

ドイツ／2016／108分 BD 50Hz

YIDFF 2017

ヴェトナム戦争で離散した家族の記憶を抱く、ヴェトナム南部ニンホアにある「家」。死者に呼び寄せられるかのように、ドイツとヴェトナムに離れていた一家は長い時を経て再会し、不在者の断片を拾い集める。3世代にわたる「家」の記憶が紡ぎ出す家族の物語。

監督：フィリップ・ヴィトマン　Philip Widmann

1980年、西ベルリン生まれ。2016年よりブラウンシュヴァイク芸術大学の研究支援プログラムのメンバーに名を連ねている。彼のフィルムやビデオによる映像作品は、世界各地のアートスペースや映画祭で上映されている。

ノカス
Nokas

インドネシア／2016／76分 BD 50Hz

YIDFF 2017 アジア千波万波

西ティモール、クパン。畑仕事に精を出す青年ノカスは、チィと結婚することが決まっているが、一筋縄ではいかない家どうしの婚姻事情が、幸せ一杯のふたりの前に立ちはだかる。パワフルな姉、対岸に住む母とその夫の親族を巻き込みながら、結婚を実現しようと奔走する。

監督：マヌエル・アルベルト・マイア　Manuel Alberto Maia

1989年、現・東ティモールのバリボに生まれる。クパンのヌサ・センダナ大学で学び、教育学で学士号を取得。2011年にクパン・フィルム・コミュニティを設立。本作は初の長編ドキュメンタリーになる。

ここへ来た道
Through the Border

Ⓢ

シンガポール／2019／29分 BD

YIDFF 2019 アジア千波万波

幼い頃に中国を離れ、シンガポールに渡って来た監督の祖父。がんが見つかり余命6ヶ月を宣告されたいまも、毎朝欠かさず電器店のシャッターを開ける。孫娘の持つカメラは口数の少ない祖父の望郷の想いを優しくすくい上げ、その記憶の扉を開く。

監督：張齊育（テオ・チーユー）　Teo Qi Yu

シンガポー ル芸術学院で初めて映像制作に触れ、香港城市大学でビデオ制作とドキュメンタリーを学ぶ。作品を通してさまざまな社会問題を探求し続けている。

このささいな父の存在 YIDFF 2017 アジア千波万波

監督：サリーム・ムラード p.24

ルオルオの青春 YIDFF 2023 アジア千波万波

監督：洛洛（ルオルオ） p.05

老いを生きる

老いた猫のお引越し
Moving Adult Cats

スウェーデン／2004／58分 DV CAM

YIDFF 2005

スウェーデンの田舎町。終の棲家として老人ホームへの移住を決意した90歳のグレタ、荒れ果てた家に暮らす79歳のアルベルト。自分らしく生きようとする二人の微妙な心の揺れを注意深く見つめる。

監督：ヨハン・ルンドボーグ　Johan Lundborg

1977年、スウェーデン生まれ。2003年、ヨーテボリ大学芸術学部写真映画学科映画監督コース卒業後、プラハ映画アカデミーで学ぶ。

青春ララ隊
Young at Heart: Grandma Cheerleaders

台湾／2011／104分 BD

YIDFF 2011 回到一圈

平均年齢70歳のチアリーダー・チーム。彼女たちは病や老衰、伴侶の死や家族の反対にも負けない。晴れ舞台へのカウントダウンは、スポ根映画の王道を行く。

監督：楊力州（ヤン・リージョウ）　Yang Li-zhou

1969年生まれ。高校教師を経て、台湾国立台南藝術学院音像紀録研究所卒業。初期作は『I Love (080)』(1999 、YIDFF '99アジア千波万波)、『新宿駅、東口以東』(2003) 等。『奇跡的夏天』(2006)、『征服北極』(2008)、『拔一條河』(2013) など多くが劇場公開されている。

ドンキー・ホーテ
Donkeyote

スペイン、ドイツ、イギリス 2017／86分 BD 50Hz CS

YIDFF 2017

南スペインの小さな村に暮らす73歳のマヌエル。愛するロバと犬を相棒に、スペインからアメリカへ、チェロキー・インディアンが辿った「涙の旅路」の踏破を目指して旅に出る。果たして彼らはアメリカに辿り着けるのか !?　老いてなお自由に生きる姿を讃えるロード・ムービー!

監督：チコ・ペレイラ　Chico Pereira

1979年、スペインのアルマデンに生まれる。短編の劇映画で何度か賞を獲得した後、ドキュメンタリーに転身。実在の人物に触発され、彼らを主人公にした物語を独自のミニマリスト的手法で描く。本作が二作目の長編ドキュメンタリーになる。

天使の家で YIDFF '99 p.21

監督：マルグレート・オリン

旅する視線

井戸の上の眼
The Eye Above the Well

オランダ／1988／91分 16 E

YIDFF '89〈優秀賞〉

南インドのケララ地方を旅しながら、都市と農村におけるインド人の生活を描写していく。カメラが細かい部分を次々にとらえ、作品は荘重なリズムと緻密な美的センスを感じさせる。

監督：ヨハン・ファン・デル・コイケン　Johan van der Keuken

1938年アムステルダム生まれ。1960年からドキュメンタリー映画を手掛ける。映画批評家、写真家としても精力的に活動。2001年逝去。

『アムステルダム・グローバル・ヴィレッジ』YIDFF '97 p.34

ルート1
Route One / USA

フランス／1989／255分 35 1.85

YIDFF '89

〈山形市長賞（最優秀賞）〉

10年ぶりにアメリカに戻ったロバート・クレイマー監督と友人がルート1（国道1号線）を旅するアメリカン・ロード・ムービー。出会う人々や風景の連鎖は、アメリカの現在を映し出す「顔」である。内容は重厚だが、どことなく軽快な雰囲気を併せ持つ。

監督：ロバート・クレイマー　Robert Kramer

1939年、ニューヨーク生まれ。60年代後半、映像による左翼前衛闘争集団ニューズリールの結成メンバーとなり、集団制作により多数の作品を発表。YIDFF '97には審査員として参加。1999年、フランスにて逝去。YIDFF 2001において特集上映が行われた。

ホテルクロニクル
Hotel Chronicles

カナダ／1990／74分 16

YIDFF '91

一人の女性がアメリカ大陸横断の旅に出る。行く先々で出会う様々な人々との交流。監督は多種多様なエピソードの中からアメリカという国の全体像を作り上げていく。観客を不思議な旅に誘う映画。

監督：レア・プール　Lea Pool

スイス出身でカナダに移住し、モントリオールのケベック大学でコミュニケーションを学ぶ。ビデオ、短編、中編、テレビ番組を制作するとともに、劇映画を監督。受賞多数。

氷の夢　Dreams of Ice

チリ／1992／56分 16 E

YIDFF '93

1992年、セヴィリア万国博覧会のチリ館にアメリカ大陸発見500年の記念イベントとして展示されることになった南極の氷を運ぶ船旅を描いたシー・ロード・ムービー。この船旅に同乗する姿なき主人公が語るモノローグの物語でもある。

監督：イグナシオ・アグエロ　Ignacio Agüero

『ある映画のための覚書』YIDFF 2023〈優秀賞〉 p.02

『サンティアゴの扉』YIDFF 2013〈優秀賞〉 p.34

真昼の不思議な物体
Mysterious Object at Noon

タイ／2000／83分 35 1.85

YIDFF 2001

〈優秀賞〉〈NETPAC特別賞〉

作者はタイの国中を旅し出会った人たちに物語を創作してもらう。話し手により物語は次々と変容し、作者自身さえも予想できないユニークな新世紀感覚の映画が誕生した。

監督：アピチャッポン・ウィーラセタクン　Apichatpong Weerasethakul

1970年生まれ。建築学の学士取得後、マルチ・アーティストとして活躍。『第三世界』(1998)が、YIDFF '99アジア千波万波にて上映。『ブリスフリー・ユアーズ』(2002)がカンヌ映画祭「ある視点賞」部門グランプリ。YIDFF 2007ではインターナショナル・コンペティション審査員を務めた。『ブンミおじさんの森』(2010)でカンヌ映画祭最高賞パルムドールを受賞。

旅―ポトシへ
Potosi, the Journey

フランス／2006／246分（第一部130分、第二部116分） 35 1.66

YIDFF 2007〈優秀賞〉

1970年、ブエノスアイレスで結婚式を挙げた監督夫妻は、アンデス山脈への道中で鉱山の街ポトシに出会う。29年後、ふたりは娘3人とポトシを訪ね、過去と現在を繋げていく。家族はゆっくりと歩みながら心を通わす。

監督：ロン・ハヴィリオ　Ron Havilio

1950年、エルサレム生まれ。パリ、イスタンブール、ヤウンデ（カメルーン）で幼少期を過ごす。エルサレム映画学校で教鞭を執り、またエルサレムの合気道道場でも教えている。

『エルサレム断章』

YIDFF '97〈ロバート&フランシス・フラハティ賞（大賞）〉 p.12

ダスト –塵–　Staub (Dust)

ドイツ、スイス／2007／94分 35 1.85

YIDFF 2009

プロジェクターや部屋にたまる埃から、9.11の貿易センタービルの崩壊やミサイルの爆発で巻き起こる凄まじい粉塵の嵐、あるいは宇宙のスターダストまで。世界に充満するさまざまな塵の様相を、技術者や科学者の考察を交えて観察していく。

監督：ハルトムート・ビトムスキー　Hartmut Bitomsky

1942年生まれ。1973年から10年以上、雑誌『Filmkritik』の共同発行者および共同編集者を務めた。1975年、映画製作会社を設立し、40本以上の映画を監督、プロデュース。映画学校、大学などで教鞭を執る。YIDFF 2001インターナショナル・コンペティション審査員。

そして私は歩く
At Home Walking

インド／2019／114分 BD 50Hz

YIDFF 2019 アジア千波万波

インド・デカン高原の遊牧民や巡礼者たちを捉えた映像に、吟遊詩人の音楽と、詩的なモノローグを重ねる。歩く人々の足元が繰り返し挿入される、流れるような映像は、歩くことは瞑想であると気づかせる。心の旅を映像化した実験的作品。

監督：ラジューラ・シャー　Rajula Shah

民芸品の職人から物語を聞いて育ち、インド映画・テレビ学院で映画を学ぶ。10年以上にわたって映画のプロデュース、監督、執筆、編集、撮影を続けている。

わたしはまだデリーを見ていない
I Am Yet to See Delhi

バングラデシュ、インド／2014／19分 Ⓢ BD 50Hz

YIDFF 2015 アジア千波万波〈特別賞〉

デリーで一人暮らしを始めた「私」は、カメラを心の一部のようにして、ふらりと街に迷い込む。「私」という世界に身を深く沈めながら、アウトサイダーとしての自身の思いの揺れ動きを綴り、この街の鼓動を刻む、パーソナル・ジャーニー。

監督：フマイラ・ビルキス　Humaira Bilkis

ダッカに拠点を置くインディペンデント映画作家。実在を創造的に扱う映画表現に興味を持つ。作品はインドの複数の映画祭で上映され、何本かの国際共同制作のドキュメンタリーで製作補も務める。

それは竜のお話
It's Just Another Dragon

レバノン、ハンガリー 2020／16分 Ⓢ BD 50Hz

YIDFF 2021 アジア千波万波

20年ほど前にトランシルヴァニアから、ここにやってきたハンガリーの女性。つい最近レバノンからこの地にたどり着いた若手映像作家は、彼女の語りに耳を傾け、旅路を追体験しながら、映像を拾い集める。ハンガリーの民話に触発されながら、物語を持ち寄り、映像を紡ぎだす。

監督：タイムール・ブーロス　Taymour Boulos

確かめたい春の出会い
YIDFF 2023 アジア千波万波 p.04

ルート181 YIDFF 2005〈山形市長賞（最優秀賞）〉
監督：ミシェル・クレフィ、エイアル・シヴァン p.12

ドンキー・ホーテ YIDFF 2017
監督：チコ・ペレイラ p.29

列車が消えた日 YIDFF 2023 アジア千波万波
監督：沈蕊蘭（シェン・ルイラン） p.04

記憶の再生 YIDFF 2023 アジア千波万波
監督：ヴァルン・トリカー p.05

ロンドン・スケッチ YIDFF'97 特別招待
監督：ジョン・ジョスト p.37

失われた町のかたち YIDFF 2011
監督：ジョン・ジョスト p.37

風景／映画

海岸地
Foreland

オランダ／2005／70分 35 1.66

YIDFF 2005〈優秀賞〉

オランダの牧畜と農業の村。人々や動物、木々や河の流れもすべてが豊かでゆったりと流れる。そんな村の光景を7年の年月をかけ、解説などをいっさい排してフィルムに刻む。

監督：アルベルト・エリンフス　Albert Elings

1965年、オランダ生まれ。アカデミー・フォー・ヴィジュアルアーツ、オランダ映画テレビアカデミーで学ぶ。時の移り変わりに主眼を置いた長期にわたるドキュメンタリー制作を行っている。

オウジェニー・ヤンセン　Eugenie Jansen

1965年、オランダ生まれ。初の劇場公開作品がロッテルダムで受賞。

長江の眺め
A Yangtze Landscape

中国／2017／156分 BD 50Hz

YIDFF 2017 アジア千波万波

揚子江を上海から主流の原地点宜賓（いびん）までゆっくりと遡る情景を描きチベットまでたどり、それぞれの地点で事故や事件で死亡した人数などを文字で表わす。ゆったりとした映画的時間のなかに、中国の大きさと現代中国の混沌が浮かび上がる。

監督：徐辛（シュー・シン）　Xu Xin

1966年生まれ。北京と南京を拠点に、インディペンデントのドキュメンタリー映画作家として活動。国内外のギャラリーで油彩画や写真の展示も行っている。ドキュメンタリーを歴史の創造に参加する手段とみなしている。

沈黙の情景
The Still Side

メキシコ、フィリピン、アルゼンチン、韓国／2021／70分 BD

YIDFF 2021 アジア千波万波

かつてリゾート地として賑わっていたメキシコの島。遠くマニラから泳ぎ着いたばかりの伝説の生物ショコイの目と耳を借り、いまは無人となり放置された廃墟に、かつてあった営みを幻視し、響いていた声を蘇らせる。海と森、人工の遺物は、次に訪れる者をひっそりと待っている。

監督：ミコ・レベレザ　Miko Revereza

ミコ・レベレザとアメリカ p.11

カロリーナ・フシリエル　Carolina Fusilier

1985年ブエノスアイレス生まれ。自然景観との関連による未来の概念を探るマルチアーティスト。

午後の景色
Afternoon Landscape

韓国／2020／73分 BD

YIDFF 2021 アジア千波万波

ソウルのある街の風景。合間に手書きの絵と言葉が挟まれる。カメラを持つひとりの女性が随所に現れて写真を撮ったり、ぶらぶらしたり、ベンチで休んだりしている。台詞はなく、画面外から聴こえてくる音が印象的。

監督：ソン・グヨン　Sohn Koo-yong

『ソウルの冬』YIDFF 2019 アジア千波万波 p.36

ナイトウォーク YIDFF 2023 アジア千波万波 p.05

ターミナル YIDFF 2023
監督：グスタボ・フォンタン p.03

地球は音楽で回る

テキサス・テナー：イリノイ・ジャケー・ストーリー
Texas Tenor: The Illinois Jacquet Story

アメリカ／1991-2／81分 35 1.375
YIDFF '93

2004年7月に心臓発作のため81歳でこの世を去ったジャズサックス奏者イリノイ・ジャケー。ライオネル・ハンプトン、ディジー・ガレスピー、ソニー・ロリンズなどのジャズの巨人たちが人となりを語るシーンも見逃せない。

監督：アーサー・エルゴート　Arthur Elgort
ニューヨーク生まれ。ファッションフォトグラファーとしてヴォーグ誌のグラビア撮影を手掛けるなど、写真家としての地位を築く。より複合的なメディアとして映像に関心を持ち、TVCMやドキュメンタリーフィルムを制作。

カルメン・ミランダ：バナナが商売
Carmen Miranda: Bananas is My Business

ブラジル、アメリカ／1994／92分 35 1.66
YIDFF '95

ポルトガル生まれ、ブラジル育ちのカルメン・ミランダ。ハリウッドに進出して南北アメリカの架け橋的存在となるが、富と名声を得れば得るほど自分のアイデンティティや人生そのものを失っていく。彼女の歌とブラジル音楽が堪能できるエンタテインメント・ドキュメンタリー。

監督：ヘレナ・ソルバーグ　Helena Solberg
ブラジルに生まれ育ち、多くの映画を制作、監督。活動拠点をアメリカに移し、ラテンアメリカとアメリカの関係を題材とした作品を中心に制作。

アンダーグラウンド・オーケストラ
The Underground Orchestra

オランダ／1997／115分 35 1.66
YIDFF '99〈審査員特別賞〉

パリの地下鉄で、街角で、思い思いの楽器を演奏し糧を得ている音楽家たち。多くは政治亡命者であり不法移民である彼らの過酷な現実と演奏される音楽の素晴らしさ。彼らを見つめる監督のまなざしの暖かさが印象に残る。

監督：エディ・ホニグマン　Heddy Honigmann
『メタル&メランコリー』YIDFF '95〈山形市長賞（最優秀賞）〉
『忘却』YIDFF 2009〈山形市長賞（最優秀賞）〉
p.34

パムソム海賊団、ソウル・インフェルノ
YIDFF 2017 アジア千波万波〈特別賞〉
監督：チョン・ユンソク
p.07

パレルモの聖女
The Virgin of Palermo

ドイツ、イタリア／2005／82分 35 1.66
YIDFF 2005

イタリア、シチリア島のサンタ・ロザリア祭。信仰と伝統が町全体に根付いている。風情ある町や人々の陽気な表情、優しい音楽。華やいだ祭りの奥にある地域文化の豊かさとおおらかさに心惹かれる。

監督：アントニオ・グイーディ　Antonio Guidi
1964年、ローマ近郊に生まれる。フィレンツェ大学で農業を学び、ミュンヘンテレビ映画学校などで映像の専門教育を受ける。1987年よりフリーの写真家として新聞に写真を発表。また映画やパフォーマンスで俳優を務め、監督、撮影、編集も行う。

アレンテージョ、めぐりあい
Encounters

ポルトガル、フランス／2006／105分
YIDFF 2007
〈山形市長賞（最優秀賞）〉 DV CAM LB

1950年代後半、詩人レイス、ポルトガル民族音楽の研究者ジャコメッティ、映画監督パウロ・ローシャたちが、ポルトガル南部アレンテージョ地方ペログアルダの歌に魅せられ、村を訪れた。静かな海と村のたたずまい、哀しみをたたえた歌や詩が情感たっぷりに流れる。

監督：ピエール＝マリー・グレ　Pierre-Marie Goulet
1950年、フランスに生まれ、90年よりポルトガル在住。『アレンテージョ、めぐりあい』は2006年マルセイユ国際ドキュメンタリー映画祭で録音賞、マドリッド国際ドキュメンタリー映画祭07で審査員推薦佳作を受賞した。

革命の歌　Revolution

フィンランド／2006／80分 35 1.85
YIDFF 2007

1960年後半、理想に燃え社会主義運動に触発されて数々の音楽グループが誕生した。40余年を経て、若く美しい活動家だった彼らも今は中高年に。「よりよい世界」を求めていた時代を懐かしみ風刺するフィンランド発ミュージカル・ドキュメンタリー。

監督：ヨウコ・アールトネン　Jouko Aaltonen
1956年生まれ。シベリアのタイガからニューデリーの社交界まで、幅広いジャンルのドキュメンタリーを監督。

アナトリア・トリップ
Anatolian Trip

トルコ／2018／114分
YIDFF 2019 アジア千波万波

時は2014年大統領選前夜。イスタンブールを出発し、アナトリアを周る若者バンド「Venus Music Peace Band」が、土地の人たちと出会いながら音楽も旅も即興で進むロード・トリップ。

監督：デニズ・トルトゥム　Deniz Tortum
1989年、イスタンブール生まれ。映画とニューメディアの世界で活動する。MITオープン・ドキュメンタリー・ラボでヴァーチャルリアリティを研究。

ジャン・エスキナジ　Can Eskinazi
1986年、トルコ・イズミル生まれ。イスタンブールを拠点に、映画作家・編集者として活動する。

人生は舞台だ

頑固な夢
Stubborn Dreams
ハンガリー／1989／93分 16 E
YIDFF '91〈ロバート&フランシス・フラハティ賞（大賞）〉

ひなびた国境近くのハンガリーの小さな村で、70年にも及ぶ演劇サークルの活動が続いている。団員の大多数は素朴な普通の、辛い労働をしてきた人々。年に一度の上演が間近に迫り、練習は熱が入って夜明けを迎えた。束の間なら誰もがスターになれる。

監督：ソボリッチ・ベーラ　Szobolits Bela
1946年生まれ。1966年より短編映画を制作。1973〜75年、長編映画のアシスタントを務める。ドキュメンタリー映画において数々の映画祭で受賞し、ハンガリー映画・テレビ批評家賞を受賞。

ハイウェイ Highway
フランス、ドイツ／1999／54分 35 1.66
YIDFF '99

中央アジアとモスクワを結ぶハイウェイを、古いバスで旅する大道芸人の家族。中央アジア独特の時間の流れと空間の連なり。ソ連崩壊後の厳しい社会変動があろうとなかろうと、生活の営みは厳然と存在する。

監督：セルゲイ・ドヴォルツェヴォイ　Sergei Dvortsevoy
1962年、カザフスタン生まれ。航空技師として働く傍ら、大学の理工学部で勉強を続ける。『パラダイス』（1995）がYIDFF '97アジア千波万波で上映、『トルパン』（2008）は東京国際映画祭でグランプリと最優秀監督賞。

あるアナーキスト —ドゥルティの生涯
Buenaventura Durruti, Anarchist
スペイン、フランス／1999／107分
YIDFF 2001　BETA CAM　DV CAM　LB

1896年に生まれ、スペイン革命の際にアナーキスト部隊を指揮し、1936年に亡くなった革命家ドゥルティ。彼の生涯が、当時の映像を挿入しながら、ストリートパフォーマーの歌と舞台俳優によって演じられ、いつしか映画そのものとなる。

監督：ジャン＝ルイ・コモリ　Jean-Louis Comolli
1966〜1971年『カイエ・デュ・シネマ』編集長。フランス国立映像音響芸術学院監督学部の副学部長を務め、パリ第8大学などでも教壇に立つ。YIDFF '99インターナショナル・コンペティション審査員。2022年逝去。

私はフォン・ホフレル（ヴェルテル変奏曲）
YIDFF 2009
監督：フォルガーチ・ペーテル p.17

青春ララ隊 YIDFF 2011 回到一圏
監督：楊力州（ヤン・リージョウ） p.29

リハーサル
Rehearsals
スウェーデン／2004／101分 35 1.66
YIDFF 2005

服役中の囚人3人が公開の舞台で演じるプロジェクト「7:3」。演出家が刑務所に出向いてリハーサルを続ける過程、囚人たちの証言、実際の公演、3つの映像が複雑に絡み合い、ひとつの物語になっていく。

監督：ミハウ・レシチロフスキー　Michal Leszczylowski
1950年、ポーランド生まれ。アンドレイ・タルコフスキーの遺作、『サクリファイス』（1986）の編集を担当。ドキュメンタリー映画制作、編集、編集監修に携わり、受賞多数。

気高く、我が道を
Gracefully
イラン／2019／64分 BD 50Hz
YIDFF 2019 アジア千波万波〈日本映画監督協会賞〉

イランで田舎暮らしをする80歳の男性。農作業を終えると念入りに化粧し、女装してひとり踊り始める。革命後は踊る機会が減ってしまったが、ありし日の華やかな思い出を胸に、結婚パーティーや慰問先の病院で踊り、生きがいを貫く。

監督：アラシュ・エスハギ　Arash Eshaghi
1976年、イラン生まれ。アッラーメ・タバータバーイー大学卒業。専攻は文学。映画監督、リサーチ、脚本、編集、録音で20年のキャリアがある。

見えない役者たち
Invisible Actors
韓国／2018／122分 BD
YIDFF 2019 アジア千波万波

ゾンビ役の練習をする4人の役者。演技と生活が融解する彼女たちの意識をはがすように、「国家と個人について」をテーマに、自らドキュメンタリー演劇を創作する。演技する日常という枠組みを取り込みながら、監督と役者たちとでひとつの映画を作る試み。

監督：チェ・ヒョンシク　Chae Hyeong-sik
2008年にメディアクト・インディペンデント映画制作ワークショップを修了し、独学で映画について勉強している。

ラ・カチャダ —The Opportunity
Cachada
エルサルバドル／2019／81分 BD
YIDFF 2019

エルサルバドルのシングルマザー 5人が演劇のワークショップに参加し、劇団ラ・カチャダを立ち上げる。リハーサルを繰り返しながら彼女たちは、女性に対する不当な暴力のサイクルに向き合い、植え付けられたトラウマを乗り越えることができるのか。

監督：マレン・ビニャヨ　Marlén Viñayo
1987年、スペインのレオンに生まれる。2013年にエルサルバドルに移住し、制作会社「La Jaula Abierta」を設立。『ラ・カチャダ』は長編デビュー作。

人びと、暮らし

アルバト通りの家
The House on Arbat Street

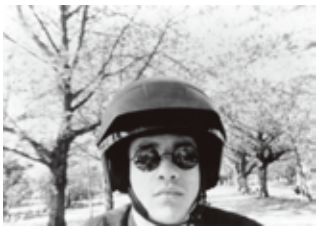
ロシア／1993／59分 16 1.85 E

YIDFF '95

ロシアの街の一角にあるアルバト通り。そこには1900年当初に建てられた古式ゆかしいアパートがある。このアパートの人間群像とその背景が、社会主義を生き抜いてきた90歳以上の老人たちの回想や歴史的フィルムなどによってあぶり出される。

監督：マリナ・ゴルドフスカヤ　Marina Goldovskaya

モスクワ生まれ。映画、テレビで撮影、監督、制作、脚本、編集を手掛ける。美術と映画学で博士号を持ち、UCLAとモスクワ国立大学で教鞭を執る。YIDFF '89インターナショナル・コンペティション審査員。2022年逝去。



アムステルダム・グローバル・ヴィレッジ
Amsterdam Global Village

オランダ／1996／254分 35 1.375 E

YIDFF '97

赤ん坊の誕生を迎える外国人のカップル、ダウン症のヌードモデルとカメラマン、フィルハーモニーの練習風景など、アムステルダムに住んでいる様々な人々の断片を描写する。作品には驚くほど多くの観察や物語が含まれ、それらがつなぎ合わされ、一本の紐のようになっている。

監督：ヨハン・ファン・デル・コイケン　Johan van der Keuken

『井戸の上の目』YIDFF '89〈優秀賞〉 p.30

水没の前に
Before the Flood

中国／2004／143分 DV CAM

YIDFF 2005〈ロバート&フランシス・フラハティ賞（大賞）〉

2009年完成予定の世界最大の三峡ダム。水没する町から移転する人々の葛藤や不安。ひとつの時代の変遷を鋭く捉え、これから編まれてゆく時の流れを予感させる。

監督：李一凡（リ・イーファン）　Li Yifan

1966年、重慶生まれ。北京の中央戯劇学院で学び、CMディレクター、ライター、新聞の編集で活躍。

鄢雨（イェン・ユィ）　Yan Yu

1971年、重慶生まれ。フォトジャーナリストとして活動。2001年、李一凡と凡雨工作室を設立。

アポロノフカ桟橋
The Pier of Apolonovka

ドイツ／2008／85分 BD

YIDFF 2009

ウクライナのセヴァストポリ湾のひと夏。緩い開放感と停滞感が同居する小さな港町の日常が積み重ねられる。夏の匂いとともに、老若男女の生々しい姿が立ち上がり、刹那的に流れるひと夏を生きる人々の美しさに引き込まれる。

監督：アンドレイ・シュヴァルツ　Andrei Schwartz

1955年、ルーマニアのブカレスト生まれ。『Wasteland』（1997）がIDFAヨリス・イヴェンス賞などを受賞。

何をなすべきか？
What Is to Be Done?

フランス／2010／152分 BD

YIDFF 2011

エジプト、アレキサンドリアのスラム街マフルーザ。迷路のような細い路地に暮らす人びとの息遣いと、緩やかな時の流れ。お茶や煙草を片手に彼らが語る人生と情熱、世界との関わり方に静かに耳を傾ける。そこには生きる歓びがある。

監督：エマニュエル・ドゥモーリス　Emmanuelle Demoris

1965年、ロンドン生まれ。パリで文学と美術史を学んだ後、フランス国立映画学校に入学。演劇の演出家、俳優として活動を始める。99年、地中海地域で1年間の撮影旅行を行い、マフルーザの存在を知り、2001年に本作のプロジェクトを開始。

サンティアゴの扉
The Other Day

チリ／2012／122分 BD

YIDFF 2013〈優秀賞〉

チリ、サンティアゴのとある家。陰影にあふれた美しい映像を通して、観る者はある家族の記憶のなかへ深く導かれていく。家族の歴史とチリの現代史が詩情豊かに交錯する。

監督：イグナシオ・アグエロ　Ignacio Agüero

『ある映画のための覚書』YIDFF 2023〈優秀賞〉 p.02

『氷の夢』YIDFF '93 p.30

船が帰り着く時　YIDFF 2015 アジア千波万波

監督：キン・マウン・チョウ p.18

エディ・ホニグマンとリマに生きる人々

メタル&メランコリー
Metal and Melancholy

オランダ／1993／80分 16 E

YIDFF '95

〈山形市長賞（最優秀賞）〉

ペルーの首都リマにおけるタクシー・ドライバーたちに取材したユニークなロード・ムービー。彼らはプロのドライバーではない。教師、俳優、警官といった本業を持った人々ばかりであるが、彼らが語る人生や家族の話はペーソスに溢れ飽きることがない。

忘却　Oblivion

オランダ、ドイツ／2008／93分 DV CAM LB

YIDFF 2009

〈山形市長賞（最優秀賞）〉

ペルーのリマ。経済的に政治的に困難な状況を生き続ける人々。バーテンダーの作るカクテルや大道芸人たちの小道具など彼らから作りだされる産物と言葉の狂想曲は、喪失感と曖昧な未来の中にある灯火だ。

監督：エディ・ホニグマン　Heddy Honigmann

1951年、ペルーのリマ生まれ。ローマで映画制作を学び、1978年、オランダへ帰化。作品からは政治的な不満が地下鉄の振動音のように轟々と聞こえてくるが、社会格差を声高に激しく非難することには特に強い関心を持たない。2022年逝去。

『アンダーグラウンド・オーケストラ』YIDFF '99〈審査員特別賞〉 p.32

ワイルド・ワイルド・ビーチ
Wild, Wild Beach

ロシア、ドイツ／2006／125分 DV CAM
YIDFF 2007

夏のヴァカンス客が溢れるロシアの海岸。明るい太陽のもと開放された人々は欲望に目をくらませている。混乱するロシアの今が風刺画のようにアップテンポに描かれていく。

監督：アレクサンドル・ラストルグエフ　Alexander Rastorguev
ヴィタリー・マンスキー　Vitaly Mansky
『青春クロニクル』YIDFF 2001 p.17
『祖国か死か』YIDFF 2013 ↓
スサンナ・バランジエヴァ　Susanna Baranzhieva

祖国か死か
Motherland or Death

ロシア／2011／99分 BD 50Hz
YIDFF 2013

楽園、あるいは革命のイメージばかりが一人歩きしているキューバに、ウクライナ生まれの監督が訪れ、庶民たちの生活をスケッチする。猥雑にして旺盛な好奇心のおもむくまま、ヴィヴィッドで抒情的な紀行が映像に焼きつけられていく。

監督：ヴィタリー・マンスキー　Vitaly Mansky
1963年、ウクライナ生まれ。全ソ国立映画大学メジンスキー・スタジオ卒。ソ連時代に撮られたアマチュア・ホームムービーのアーカイヴ作成プロジェクトやドキュメンタリー映画専門のウェブマガジンの発行に取り組む。、モスクワ・ドキュメンタリー映画祭ARTDOKFEST会長。
『青春クロニクル』YIDFF 2001 p.17
『ワイルド・ワイルド・ビーチ』YIDFF 2007 ↑

海辺の王国で
In Thy Kingdom by the Sea

Ⓢ BD 50Hz
ポーランド、日本／2018／23分
YIDFF 2019 アジア千波万波

列車で飛行機で車で一路飛ばして港へ。外国から出稼ぎに来た船乗りたち、夫がほとんど海に出ている女性、親を追って自分も漁師になると言う少年たち、海軍基地から出てくる兵士たち。モノクロの詩的なリズムある映像で、海に関わる様々な人生を綴る。

監督：慶野優太郎　Keino Yutaro
東京生まれ。早稲田大学文学部映像演劇コース卒業、ポーランドの国立ウッチ映画大学に留学。2018年には、タル・ベーラの個人指導を受ける。

映画作家たち

アラン島の小舟
A Boatload of Wild Irishmen

アイルランド、イギリス／2011／84分 BD 50Hz
YIDFF 2013
〈特別招待（クロージング上映）作品〉

「近代ドキュメンタリーの父」ロバート・フラハティ（1884–1951）の伝記映画。普通の人々の日常生活がドラマチックな作品となることを示した彼は、エキゾチックな異国人のステレオタイプを生む「イメージ操作」の達人でもあった。

監督：マック・ダラ・オー・クライン　Mac Dara Ó' Curraidhín
アイルランド語放送局TG-4の委託で多くのアート・ドキュメンタリーを定期的に制作する。1996年以来、主に著名なアイルランド人やアイルランドの文化、歴史、社会をテーマとした映画を作る。

ピクチャー・オブ・ライト
Picture of Light

カナダ、スイス／1994／83分
YIDFF '95〈優秀賞〉 35 1.66

カナダ、マニトバ州チャーチヒルの冬は、氷点下70度に及ぶ。外に出るためには服を着るだけで30分もかかり、外で使ったカメラを部屋に戻すためには4時間もかけなければならない。苦労の末に撮影されたのが「北方の光」と呼ばれる魅力的で神秘的なオーロラの姿である。

監督：ピーター・メトラー　Peter Mettler
1958年、トロント生まれ。ドラマ、エッセイ、実験、ドキュメンタリーなどジャンルをまたぐ映像作家。YIDFF 2005特集「私映画から見えるもの」で『ギャンブル、神々、LSD』(2002)が上映された。

光に生きる —ロビー・ミューラー
Living the Light —Robby Müller

オランダ／2018／86分 BD
YIDFF 2019

ヴェンダースやジャームッシュの映画のカメラマンとして知られるロビー・ミューラー。その生涯と仕事を、プライヴェートな映像を織り交ぜて綴る。日常の中の光景を捉えたそのまなざしが、彼の人生と映画が地続きだったことを語る。

監督：クレア・パイマン　Claire Pijman
1990年にオランダ映画アカデミーを卒業。ヴィム・ヴェンダースの『ブエナ・ビスタ・ソシアル・クラブ』の撮影班のひとつでカメラを担当したことをきっかけに、ロビー・ミューラーとの友情と師弟関係が始まる。

生まれなかった映画たち
Cinéma Invisible —The Book

オランダ／2005／73分 DV CAM LB
YIDFF 2005

映画誕生100年を記念して出版された、未映画化脚本集『シネマ・インビジブル』をナビゲーターに、映像化していく。遊び心溢れるファンタジー・ドキュメンタリーが誕生した。すべての映画にオマージュを捧げる作品。

監督：ケース・ヒン　Kees Hin
1936年、オランダ生まれ。1965年オランダ石油会社のために作った『地下』でデビュー。80作品以上のドキュメンタリーを手がけ、1985年、L.J.Jordaan賞を受賞。2020年逝去。

レイムンド YIDFF 2003
監督：エルネスト・アルディト、ヴィルナ・モリナ p.06

映画は実験する

人工太陽の日食
Eclipse of the Man-Made Sun

オーストラリア／1991／55分 16

YIDFF '91

崩壊した東西冷戦構造。だが核の危機は遠のくことがない。記録映画、インタビュー、セミ・フィクションを使い、驚くべきテクノロジーに馴染んだ私たちの思考を再構成する。

監督：ニコレット・フリーマン　Nicolette Freeman

オーストラリアで数多くのドラマ、ドキュメンタリーのカメラマンとして活躍。

アマンダ・スチュワート　Amanda Stewart

オーストラリア放送局のラジオ番組プロデューサーとして活躍。

パート・タイム・ゴッド
Part Time God

オランダ／1992／80分 16 E

YIDFF '93

映し出されたコンピューター画面から選ばれた、ごく普通の人々の物語。一時停止したり、早送りしたり、中断したり。一見、観客の判断に委ねる形式をとっているように見えるが、それさえままならない。めまぐるしい映像に満ちた実験作。

監督：ポール・コーエン　Paul Cohen

1957年生まれ。Dutch School of Journalism,Dutch Film & TV Academyで学び、卒業制作がツール・ドキュメンタリー映画祭やミュンヘン映画祭で受賞。撮影監督として活動している。

天使狩り―預言者詩人の四つの情熱
Hunting Down an Angel or Four Passions of the Soothsayer Poet

ロシア／2002／56分 35 1.375

YIDFF 2003

1910～20年代のロシアの記録映画や劇映画が編集・再構成され、ロシアの詩人アンドレイ・ベールイが生きてきた時代と彼をめぐる4人の女性についての物語を実験的手法で描いた異色作。

監督：アンドレイ・オシポフ　Andrey Osipov

1960年、シベリア生まれ。1982年にオデッサ国立工科大学、1995年モスクワで劇映画の脚本・監督上級者コースを卒業。国内外の映画祭で賞を獲得。

ソウルの冬
Winter in Seoul

韓国／2018／25分 Ⓢ BD

YIDFF 2019アジア千波万波

冬のある晩、ホテルの一室で執筆をする青年。外では寒いソウルの街を人々が行き交う。寡黙な青年についてのナレーションであるかのように言葉を繰り出す女性の声が、夜の街のネオンや人々の吐く白い息と合わさって、ランダム性というリズムをやがて刻み出す。

監督：ソン・グヨン　Sohn Koo-yong

『ナイトウォーク』YIDFF 2023アジア千波万波 p.05
『午後の景色』YIDFF 2021アジア千波万波 p.36

ウラーッ！　Hurrahh!

韓国／2011／75分 BD

YIDFF 2017 アジア千波万波

黙々と働く男の日常生活をストーカーのように捉えるカメラは、観る者の視線と感覚を支配しようとしている。一人の人間の肉体が、個体性を少しずつ侵食されながら、同時に氾濫の時を伺っているのか。不穏な空気とともに、叫びがこだまする。

監督：チョン・ジェフン　Jung Jae-hoon

1986年ソウル生まれ。『Someone's Heart』(2005)をはじめ、複数の短編から映画制作を始める。長編『Hosu-gil』(2009)および本作(2011)の後、短編『Tenderly』(2013)、212分の『Turbulence at Dodoli Hill』(2017)を制作。

蛇の皮　Snakeskin BD

シンガポール、ポルトガル／2014／105分

YIDFF 2015 アジア千波万波〈奨励賞〉

2066年、あるカルト教団の生き残りの男に手渡された、"悪"が映っているという2014年のシンガポールのフィルム。架空の教団の盛衰が、シンガポールの建国にまつわる神話や幻想と重ね合わせられ、抑圧と抵抗の歴史の残像が時空を超えてあぶり出される。

監督：ダニエル・フイ　Daniel Hui

映画作家、ライター。カリフォルニア芸術大学映画学科卒業。インディペンデント映画集団で、世界中で高く評価された映画の数々を制作した13 Little Picturesの設立者の一人。

別離　Absence

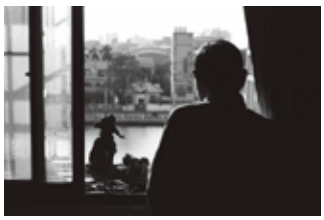
インド／2018／80分 BD 50Hz

YIDFF 2019

インド郊外。出稼ぎにゆき消息を絶ってしまった男の面影を求め、残された女たちが想いを廻らせる。パンジャーブ語の近代詩に着想を得た本作は、あらゆる不在のイメージを重層的に描き、幻想的な空間の中に過酷な現実を浮かび上がらせる。

監督：エクタ・ミッタル　Ekta Mittal

2008年にバンガロールで仲間とともにメディアとアートに関わるコレクティヴ「Maraa」を結成し、都市・農村の双方を背景とするジェンダー、労働、カーストの問題に取り組む。



中国街の思い出
In Memory of the Chinatown

台湾／2016／30分 Ⓢ BD

YIDFF 2017 アジア千波万波

台南市で1970年代に建設された住宅と商店街が同居する「中国城」が取り壊される。廃墟のような建物の呼吸とかつての住人の記憶が呼応し、住人が語るのは、かつて界隈が賑わっていた頃の様子であり、その人の人生、この街の歴史の一幕でもある。

監督：陳君典（チェン・ジュンディェン）　Chen Chun-Tien

1989年、台湾生まれ。国立台南芸術大学ドキュメンタリー&映像保存研究所で学んだのち、長編映画、ドキュメンタリー、アニメーションなど、多彩な分野へと活動の場を広げている。

真昼の不思議な物体
YIDFF 2001〈優秀賞〉〈NETPAC特別賞〉

監督：アピチャッポン・ウィーラセタクン p.30

氷の夢 YIDFF '93
監督：イグナシオ・アグエロ p.30

彼女の名前はエウローペーだった
Her Name Was Europa

ドイツ／2020／76分 BD

YIDFF 2021

17世紀に絶滅した野生種オーロックス。力強さ、素早さ、勇猛さの象徴を復活させようとする試みが20世紀以降に行われてきた。絵画や模型によって失われた種のイメージを膨らませ、白い牡牛に化けたゼウスが誘惑したエウローペーの神話を物語ろうとするのだが……。

監督：アニア・ドルニーデン　Anja Dornieden

フアン・ダビド・ゴンサレス・モンロイ　Juan David González Monroy

ベルリンを拠点に活動する映画作家。内的および外的な変化をシミュレーションする「オロリズム」を実践する。作品はベルリン国際映画祭をはじめ、世界各地の映画祭・展示施設で紹介されている。

プレーントーク&コモンセンス
Plain Talk & Common Sense (Uncommon Senses)

アメリカ／1987／117分 16

YIDFF '89

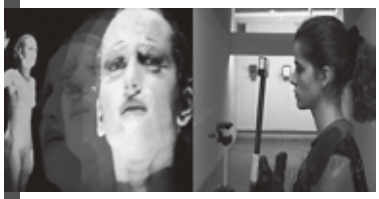
自由奔放でフォトジェニックな11のパートで構成された映像作品。アメリカの文学と思想の伝統に深く根ざし、現代アメリカの状況への問いかけがなされている。

ロンドン・スケッチ
London Brief

アメリカ／1997／91分 BETACAM DVCAM

YIDFF '97 特別招待〈FIPRESCI（国際批評家連盟）特別賞〉

1997年、ロンドンでの短い滞在。20世紀も終りにさしかかった大都市における現代の暮らしを印象派的なスタンスで見せる。ビデオ・ドキュメンタリーの新しい可能性を感じさせる。



シックス・イージー・ピーセス
6 Easy Pieces

アメリカ、イタリア、ポルトガル

2000／68分 BETACAM DVCAM

YIDFF 2001〈優秀賞〉

この映画にメッセージらしきものはない。ここにあるのは「映像」そのものであり、「表現」そのものである。そこには自由な想像力が無限にとびかう可能性に満ちた空間がある。

失われた町のかたち
Images of a Lost City

アメリカ、ポルトガル／2011／92分

YIDFF 2011 BD

ポルトガル、リスボンの街角。けだるく、ものうい光と風。長く伸びた樹々の影に重なるギターの響き。何の変哲もない日常の風景ではあるが、美しくしかしどこか切ない。ジョン・ジョストが15年の歳月をかけて撮り続けた「失われた町」に捧げる映像詩。

監督：ジョン・ジョスト　Jon Jost

1943年、シカゴ生まれ。軍人の家庭で、日本、イタリア、ドイツ、アメリカなどで育つ。62年に大学を中退、63年1月に独学にて16ミリ映画の制作を始める。全て自身で企画、撮影、演出、編集。

エントロピー
Entropy

Ⓢ BD 50Hz

ポーランド／2021／10分

YIDFF 2021 アジア千波万波

ポーランド、コニンの炭鉱。武骨で巨大な鉄の重機は、その場の支配者かのごとき不気味さを放ち規則正しく動き続ける。次第に機械の動きと人間の動きとは複雑に重なり、融解し、乱雑さを極めていく。一度働き出した終焉への力はエントロピー同然、不可逆的に増大するのみだ。

監督：張猷嵩（チャン・ヨウソン）　Chang Yu-sung

1992年、台北生まれ。台湾の国立陽明交通大学でイギリス文学と言語学の美術学士号を取得。2017年にポーランドのウッチ映画大学に入学し、現在は映画・テレビ演出学部の4年に在学中。

加速する変動
Accelerated Development —In the Idiom of Santiago Alvarez

アメリカ／1999／56分 16

YIDFF '99

キューバの代表的ドキュメンタリー映画作家サンティアゴ・アルヴァレス。アルヴァレス監督の表現方法を用いながら、彼の作品断片、言葉などを引用し、20世紀の激動する世界を再構築する。

殊勲十字章
Distinguished Flying Cross

アメリカ／2011／62分 BD

YIDFF 2011〈特別賞〉

ヴェトナム戦争に従軍した初老の男。向こうみずな悪ふざけとしておもしろく語られる戦争体験が、宗教画のような画面の構図と小説のような章立ての構成に括られて次第に印象が変わっていく。戦場のカラー映像と賑やかな歌謡曲を織り込み、さらなる不協和音が響く。

誰が撃ったか考えてみたか?
Did You Wonder Who Fired the Gun?

アメリカ／2017／90分 BD

YIDFF 2019

監督自身の曾祖父が1946年に起こしたアラバマ州ドーサンでの黒人男性射殺事件。人種差別主義者であり家族にも暴力を振るっていたこの曾祖父の、弱者に対する抑圧的人格を暴くことで、白人至上主義が当時も今も変わらず台頭する米国社会の病根を、白人である自分自身の問題として痛烈に提示する。

監督：トラヴィス・ウィルカーソン　Travis Wilkerson

作品は、世界各国の映画祭や美術館で上映されている。2010年、米映画批評誌『Film Comment』の批評家が選ぶ過去10年の前衛映画作家トップ50に選出された。

あの雲が晴れなくても　YIDFF 2019 アジア千波万波
監督：ヤシャスウィニー・ラグナンダン p.22

それは竜のお話　YIDFF 2021 アジア千波万波
監督：タイムール・ブーロス p.31

山形国際ドキュメンタリー映画祭
YAMAGATA International Documentary Film Festival

地域に根ざした映画文化が脈々と受け継がれてきた山形。1989年10月、山形市誕生100年記念事業として第1回山形国際ドキュメンタリー映画祭が開催されました。当時山形市に隣接する上山市を拠点にドキュメンタリー映画制作を続けていた故小川紳介監督(1935-1992)が、この準備段階から深く関わり、氏の呼びかけに応えた県内各地の有志が映画祭の運営に参加。こうした市民の積極的な活動が、行政と市民が力を合わせて成功を目指す、山形映画祭の土台となりました。また、天安門事件やベルリンの壁崩壊が起きた1989年生まれのこの映画祭は、はからずも冷戦終結以降の激動の世界を映し出すスクリーンであり続けてきました。その足跡は、映像芸術の発展だけでなく、地域研究など学術分野においても年々重要度を増しています。

山形市とともに映画祭を運営してきた実行委員会は2007年にNPO法人となり、また映画祭開催から四半世紀を迎えた2013年には認定NPO法人として新たなスタートを切りました。

この映画祭は、世界中から優れた作品や貴重な映像を集め、観客とともに楽しみ、人と映画の交流の場を創り出す試みであり、同時にドキュメンタリー映画の可能性を広げ、作り手を支援することを目指しています。県内外の市民の手作りによるこの映画祭は、映画祭に参加されるすべての方々によって支えられています。

認定NPO法人
山形国際
ドキュメンタリー映画祭

沿革

1989年 山形市制施行100周年記念事業として
「山形国際ドキュメンタリー映画祭'89」開催
1990年 山形国際ドキュメンタリー映画祭実行委員会設立
山形市と共催で映画祭を隔年開催
1998年 日本映画ペンクラブ賞
2001年 第25回山路ふみ子文化賞
2005年 河北文化賞受賞
2006年 山形国際ドキュメンタリー映画祭実行委員会(任意団体)設立
国際交流基金 国際交流奨励賞 文化芸術交流賞受賞
特定非営利活動法人(NPO法人) 山形国際ドキュメンタリー映画祭設立
2007年 山形県より法人化認証、登記、法人成立
サントリー地域文化賞受賞
2008年 第25回NHK東北ふるさと賞
2011年 第29回川喜多賞
2012年 シネマ夢倶楽部賞(日本ファッション協会)
2013年 地域再生大賞準大賞(全国地方新聞社・共同通信社)
10月8日「認定NPO法人」認定

活動内容

山形国際ドキュメンタリー映画祭の開催
・世界中から集められたドキュメンタリー映画を上映。賞を授与し製作者を応援
・監督やプロデューサー等を招いて質疑応答やシンポジウムを開催
・映画祭公式カタログ等関連書籍を制作・販売
・ボランティア活動の促進
・他団体との共催イベントを開催

上映会・ライブラリー事業
・映画館やテレビ・ビデオ等で見る機会の少ない作品の定期上映会を開催
・児童・学生を対象に映像制作ワークショップや映画教室を開催
・本映画祭で上映された作品の一部の非商業権を有して、国内の公共上映会へ貸出

映像文化推進事業
・山形県内における、鑑賞機会の少ない映画の上映普及をサポート
・自主上映等の映写業務
・映像制作

山形国際ドキュメンタリー映画祭をご支援下さい

山形国際ドキュメンタリー映画祭（YIDFF）は、ドキュメンタリー映画に焦点を当てた国際映画祭を1989年から隔年で開催しています。

映画の作り手と観客がボーダレスに対話をし合える場として、映画とのかけがえのない出会いを演出する空間としての国際映画祭を、この山形の地で、観客、市民の皆様と一緒になって育てています。山形市から2007年に特定非営利活動法人（NPO法人）として独立以後は、映画芸術・文化を通したコミュニティの活性化に力を入れ、映画祭開催に加えて、通年での上映会活動（稀少な作品の鑑賞機会の提供）、子ども映画教室（若年層への映像教育）、学術分野への研究サポート、東日本大震災に関する映画作品と付随資料のアーカイブ化など、多岐にわたる活動を行っています。

これらの活動は、山形市からの補助金の他、当NPO法人の正会員・賛助会員、寄付者、協賛企業、助成団体の皆様からのご支援で成り立っています。2013年10月には、より社会的な信頼性の高い組織として「認定」を取得し、認定NPO法人として再スタートを切りました。これにより賛助会員の会費、ご寄付は税制上の優遇措置を受けられるようになりました。

活動に賛同される皆様の更なるご理解とご支援を、よろしくお願い申し上げます。

【ご入会について】

本法人の活動主旨に賛同し、ご支援いただける方のご入会をお願いします。詳細については、Webサイトをご覧下さい。

ご不明な点は事務局へお問い合わせ下さい。

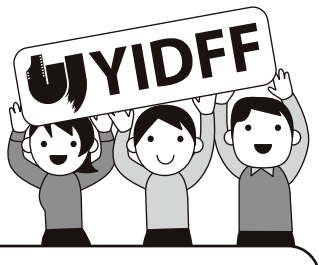
【寄付のお願い】

映画祭の開催趣旨や映像普及活動に対しご理解を賜り、寄付という形で応援していただきますよう、よろしくお願い致します。ご寄付は、映画祭企画や活動を充実させるための多様な事業に使わせていただきます。

ご寄付いただいた方には、映画祭公式カタログ、映画祭Webサイト等に、映画祭支援者としてお名前を掲載させていただきます。（ご了承いただいた方のみ）

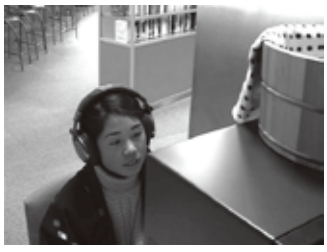
詳細はこちら **YIDFFを支援する**

https://www.yidff.jp/support/support.html



認定NPO法人
山形国際ドキュメンタリー映画祭
phone: 023-666-4480
e-mail: info@yidff.jp
www.yidff.jp

山形ドキュメンタリーフィルムライブラリー



山形国際ドキュメンタリー映画祭に応募された作品をはじめとするドキュメンタリー映画の秀作を、次世代に引き継ぐ貴重な文化資源として収集・保存すると同時に、多くの方々に鑑賞していただくよう設置されました。充実した設備をもつ試写室や、無料で鑑賞できるビデオブース、さらに関係図書・資料を収蔵しています。図書・資料も館内閲覧が可能です。

〒990-0076　山形市平久保100
山形国際交流プラザ（ビッグウイング）3F
phone: 023-635-3015
開館：10:00–17:00（金曜上映会の日は延長）
休館日：月・火曜（祝日を除く）、年末年始

山形ドキュメンタリーフィルムライブラリー 金曜上映会

ライブラリー試写室を会場にして上映会を開催しています。ライブラリー収蔵作品をはじめ、普段映画館やテレビ・ビデオなどでなかなか見る機会が少ない作品を中心に上映しています。

また、「子どもの映画教室」も開催しており、映像文化の推進と映像教育にも力を入れています。

撮影／テーマ国・地域 ※製作国とは異なる場合があります

［**アジア**］

インド
何も知らない夜 ……02
ファイナル・ソルーション ……11
〈アナンド・パトワルダンとインド〉……11
ミニ・ジャパンの子供たち ……14
夏が語ること ……19
私を見守って ……21
あの雲が晴れなくても ……22
稲妻の証言 ……25
七度目の祈り ……27
井戸の上の眼 ……30
そして私は歩く ……30
わたしはまだデリーを見ていない ……31
別離 ……36

インドネシア
私の家は眠りの中に ……09
カット ……17
星空の下で ……28
ノカス ……29

ヴェトナム
思いやりの話 ……14
ニンホアの家 ……29

カザフスタン
ハイウェイ ……33

韓国
ナイト・ウォーク ……05
私はトンボ ……05
石が語ること ……05
パムソム海賊団、ソウル・インフェルノ ……07
人として暮らす ……14
私の非情な家 ……25
アメリカ通り ……26
蜘蛛の地 ……26
ユキコ ……27
午後の景色 ……31
見えない役者たち ……33
ソウルの冬 ……36
ウラーッ！ ……36

カンボジア
〈リティ・パンとカンボジア〉 ……08
どこに行く ……22
レッド・ウェディング ……27

シンガポール
ここへ来た道 ……29
蛇の皮 ……36

スリランカ
母がクリスマスに帰るとき… ……15

タイ
空低く 大地高し ……07
真昼の不思議な物体 ……30

台湾
太陽花（ひまわり）占拠 ……07
これぞ人生、これぞパンツァーの民 ……09
酒祭の男たち ……09
故郷はどこに ……09
望郷 ……10
駆け込み小屋 ……14
駆け込み宿 ……14
異国での生活から ……14
非正規家族 ……14
天からの贈り物 小林村の悲劇 ……20
台湾マンボ ……20
子どもたちへの手紙 ……20
帰郷 ……20
築巣人 A Rolling Stone ……29
青春ララ隊 ……29
中国街の思い出 ……36

中国
自画像：47KM 2020 ……02
ホワット・アバウト・チャイナ ……03
列車が消えた日 ……04
ルオルオの青春 ……05
青年★趙（チャオ） ……07
蟻の蠢（うごめ）き ……15
炭鉱たそがれ ……15
映画のない映画祭 ……17
山での日々 ……18
〈ジャン・モンチーと47KM〉 ……19
武漢、わたしはここにいる ……21
ルオルオの怖れ ……21
離開（りかい） ……22
見つめる ……22
孤独な存在 ……23
三人の女性の自画像 ……27
阿仆大（アプダ） ……28
長江の眺め ……31
水没の前に ……34

日本
ユキコ ……27
家族写真 ……28

ネパール
銅山の村 ……18

パキスタン
夜明けに向かって ……27

ビルマ（ミャンマー）
負け戦でも ……04
鳥が飛び立つとき ……04
地の上、地の下 ……04
船が帰り着く時 ……18
山の医療団 ……21
心の破片 ……25
翡翠之城 ……28

フィリピン
フィリピン、私のフィリピン ……06
1931年、タユグの灰と亡霊 ……06
神聖なる真実の儀式 ……09
ノー・データ・プラン ……11
〈ジョン・ジャンヴィトとフィリピン、米軍基地〉 ……20
プライベート・ウォーズ ……24
猫、犬、動物、そしてサシミのこと ……22

香港
革命まで ……07

［**中東**］

イスラエル
石の賛美歌 ……12
エルサレム断章 ……12
ルート181 ……12
密告者とその家族 ……12
あなたが去ってから ……12
〈アヴィ・モグラビとパレスティナ、イスラエル〉 ……12
選択と運命 ……16
純粋なるもの ……26

イラク
イラク―ヤシの影で ……13
祖国―イラク零年 ……13

イラン
イラン式離婚狂想曲 ……26
ミーナーについてのお話 ……27
メークアップ・アーティスト ……27
気高く、我が道を ……33

シリア
彼女の墓に花をそえるのは私 ……10
リトル・パレスティナ ……13
カーキ色の記憶 ……13

トルコ
不安定な対象2 ……03
ハルコ村 ……19
アナトリア・トリップ ……32

パレスティナ、イスラエル
石の賛美歌 ……12
エルサレム断章 ……12
ルート181 ……12
密告者とその家族 ……12
あなたが去ってから ……12
〈アヴィ・モグラビとパレスティナ、イスラエル〉 ……12
我々のものではない世界 ……13
リトル・パレスティナ ……13
〈バスマ・アルシャリーフとパレスティナ〉 ……13

レバノン
紫の家の物語 ……03
ベイルートの失われた心と夢 ……04
消された存在、____立ち上る不在 ……07
愛を超えて、思いを胸に ……07
〈エリアーン・ラヘブとレバノン〉 ……08
たむろする男たち ……10
我々のものではない世界 ……13
このささいな父の存在 ……24
それは竜のお話 ……31

［**アフリカ**］
エジプト
遊牧民の家 26
何をなすべきか? 34
カメルーン
アフリカ、お前をむしりとる 06
マリ
交差する声 03

［**ロシア**（**ソ連**）］
さらばUSSR 07
青春クロニクル 17
その昔7人のシメオンがいた 17
メランコリア 3つの部屋 22
アルバト通りの家 34
ワイルド・ワイルド・ビーチ 35
天使狩り―預言者詩人の四つの情熱...36

［**ヨーロッパ**］
アイルランド
アラン島の小舟 35
イギリス
ロンドン・スケッチ 37
イタリア
カラブリア 10
いつもそこにあるもの 28
パレルモの聖女 32
ウクライナ
三人の女たち 03
アポロノフカ桟橋 34
エストニア
記憶の再生 05
オーストリア、チェコ
予測された喪失 16
オランダ
自我との奇妙な恋 23
海岸地 31
アムステルダム・グローバル・ヴィレッジ...34
光に生きる―ロビー・ミューラー 35
生まれなかった映画たち 35
パート・タイム・ゴッド 36
スイス
要塞 10
カラブリア 10
〈エリッヒ・ラングヤールとアルプス〉 ...19
スウェーデン
時は名前を持たない 18
老いた猫のお引越し 29
リハーサル 33
スペイン
訪問、秘密の庭 02
カマグロガ 18
時の愛撫 18
ドンキー・ホーテ 29
あるアナーキストードゥルティの生涯 ...33
チェコ、チェコスロヴァキア
ペーパーヘッズ 17
オート*メート 20
記憶と夢 26
ドイツ
不安定な対象2 02
リヴィジョン／検証 10
掃いて、飲み干せ 14
〈ナチス、ホロコースト〉 16
閉ざされた時間 16
スクリーンプレイ：時代 17
太った牛の愚かな歩み 24
ダスト ―塵― 30
彼女の名前はエウローペーだった ...37
トランスニストリア（**沿ドニエストル共和国**）
トランスニストラ 22
ノルウェー
天使の家で 21
ライオンのなかで暮らして 21
ハンガリー
私はフォン・ホフレル
（ヴェルテル変奏曲） 17
それは竜のお話 31
頑固な夢 33
フィンランド
静かな空間 28
革命の歌 32
フランス
言語の向こうにあるもの 09
たむろする男たち 10
約束の地で 10
精神の武器 16
アンダーグラウンド・オーケストラ ...32
ベルギー
鳥のようにーラ・ドゥヴィニエール 21
ポーランド
ロッツ・ゲットー 16
死のトライアングル 20
海辺の王国で 35
エントロピー 37
ボスニア・ヘルツェゴビナ
約束の地で 10
太った牛の愚かな歩み 240
ポルトガル
確かめたい春の出会い 04
アレンテージョ、めぐりあい 32
失われた町のかたち 37
ラトヴィア
フラッシュバック 23

［**北米**］
アメリカ
インディアナ州モンロヴィア 06
イマジニング・インディアン 09
〈ミコ・レベレザとアメリカ〉 11
死神博士の栄光と没落 16
私と運転席の男たち 23
ドリームキャッチャー 25
特権 26
ルート1 30
ホテルクロニクル 30
テキサス・テナー：イリノイ・ジャケー・ストーリー ...32
カルメン・ミランダ：バナナが商売 32
プレーントーク＆コモンセンス 37
殊勲十字章 37
誰が撃ったか考えてみたか? 37

カナダ
包囲：デモクラシーと
ネオリベラリズムの罠 15
リック・ソルトー僕とばあちゃん 28
ピクチャー・オブ・ライト 35

［**中南米**］
アルゼンチン
ターミナル 03
レイムンド 06
M 06
不在の心象 23
女たち、彼女たち 27
エルサルバドル
ラ・カチャダ 33
キューバ
ノーボディ・リスンド 06
祖国か死か 35
加速する変動 37
コロンビア
アンヘル69 02
チリ
ある映画のための覚書 02
十字架 06
ナイト・ショット 25
氷の夢 30
サンティアゴの扉 34
ニカラグア
アズル 09
パラグアイ
パラグアイ、記憶の断片 23
ブラジル
オリ 09
6月の取引 15
ジャスティス 15
生きて帰れてよかったね 26
ペルー
〈エディ・ホニグマンとリマに生きる人々〉...34
ボリビア
旅ーポトシへ 30
メキシコ
ママ・カレ 22
家族のかけら 28
沈黙の情景 31

［**オセアニア**］
オーストラリア
夢の中で 23
愛についての実話 23
人工太陽の日食 36
パプア・ニューギニア
黒い収穫 18

作品名

［**あ**］
愛についての実話 ……23
愛を超えて、思いを胸に ……07
アズル ……09
あなたが去ってから ……12
アナトリア・トリップ ……32
あの雲が晴れなくても ……22
阿仆大（アプダ） ……28
アフリカ、お前をむしりとる ……06
アポロノフカ桟橋 ……34
アムステルダム・グローバル・ヴィレッジ …34
アメリカ通り ……26
アラン島の小舟 ……35
蟻の蠢（うごめ）き ……15
あるアナーキストードゥルティの生涯 …33
ある映画のための覚書 ……02
アルバト通りの家 ……34
アルプス・バラード ……19
アレンテージョ、めぐりあい ……32
アンコールの人々 ……08
アンダーグラウンド・オーケストラ ……32
アンヘル69 ……02
生きて帰れてよかったね ……26
異国での生活から ……14
石が語るまで ……05
石の賛美歌 ……12
いつもそこにあるもの ……28
井戸の上の眼 ……30
稲妻の証言 ……25
イマジニング・インディアン ……09
イラクーヤシの影で ……13
イラン式離婚狂想曲 ……26
インディアナ州モンロヴィア ……06
失われた町のかたち ……37
生まれなかった映画たち ……35
海辺の王国で ……35
ウラーッ! ……36
映画のない映画祭 ……17
S21 クメール・ルージュの虐殺者たち ….08
M ……06
エルサレム断章 ……12
エントロピー ……37
老いた猫のお引越し ……29
オート*メート ……20
思いやりの話 ……14
オリ ……09
女たち、彼女たち ……27
［**か**］
カーキ色の記憶 ……13
海岸地 ……31
革命の歌 ……32
革命まで ……07
駆け込み小屋 ……14
駆け込み宿 ……14
加速する変動 ……37
家族写真 ……28
家族のかけら ……28
カット ……17
彼女の名前はエウローペーだった ….37
彼女の墓に花をそえるのは私 ……10
カマグロガ ……18
神の名のもとに ……11
紙は余燼（よじん）を包めない ……08
カラブリア ……10
カルメン・ミランダ：バナナが商売 ….32
頑固な夢 ……33
記憶と夢 ……26
記憶の再生 ……05
帰郷 ……20
蜘蛛の地 ……26
黒い収穫 ……18
消された存在、____立ち上る不在 ….07
気高く、我が道を ……33
言語の向こうにあるもの ……09
交差する声 ……03
航跡（スービック海軍基地） ……20
氷の夢 ……30
故郷はどこに ……09
午後の景色 ……31
ここへ来た道 ……29
心の破片 ……25
孤独な存在 ……23
子どもたちへの手紙 ……20
このささいな父の存在 ……24
これぞ人生、これぞパンツァーの民 ….09
［**さ**］
最初の54年―軍事占領の簡易マニュアル …12
さすらう者たちの地 ……08
さらばUSSR ……07
されど、レバノン ……08
サンティアゴの扉 ……34
三人の女たち ……03
三人の女性の自画像 ……27
虐げられる者たちよ ……13
自画像：47KM2020 ……02
自画像：47KMに生まれて ……19
自画像：47KMのおとぎ話 ……19
自画像：47KMのスフィンクス ……19
自画像：47KMの窓 ……19
自我との奇妙な恋 ……23
静かな空間 ……28
シックス・イージー・ピーセス ……37
死神博士の栄光と没落 ……16
死のトライアングル ……20
ジャスティス ……15
十字架 ……06
殊勲十字章 ……37
酒祭の男たち ……09
純粋なるもの ……26
人工太陽の日食 ……36
神聖なる真実の儀式 ……09
水没の前に ……34
スクリーンプレイ：時代 ……17
青春クロニクル ……17
青春ララ隊 ……29
精神の武器 ……16
青年★趙（チャオ） ……07
Z32 ……12
1931年、タユグの灰と亡霊 ……06
選択と運命 ……16
ソウルの冬 ……36
祖国―イラク零年 ……13
祖国か死か ……35
そこにとどまる人々 ……08
そして私は歩く ……30
その昔7人のシメオンがいた ……17
空低く 大地高し ……07
それは竜のお話 ……31
［**た**］
ターミナル ……03
台湾マンボ ……20
確かめたい春の出会い ……04
ダスト ー塵ー ……30
旅ーポトシへ ……30
たむろする男たち ……10
誰が撃ったか考えてみたか? ……37
炭鉱たそがれ ……15
築巣人 A Rolling Stone ……29
父、息子、聖なる戦い ……11
地の上、地の下 ……04
中国街の思い出 ……36
長江の眺め ……31
沈黙の情景 ……31
庭園に入れば ……12
ディスインテグレーション 93−96 ….11
テキサス・テナー：イリノイ・ジャケー・ストーリー …32
天からの贈り物 小林村の悲劇 ……20
天使狩りー預言者詩人の四つの情熱 …36
天使の家で ……21
銅山の村 ……18
時の愛撫 ……18
時は名前を持たない ……18
どこに行く ……22
閉ざされた時間 ……16
特権 ……26
トランスニストラ ……22
ドリームキャッチャー ……25
鳥が飛び立つとき ……04
鳥のようにーラ・ドゥヴィニエール …21
ドロガ! ……11
ドンキー・ホーテ ……29

［**な**］
ナイト・ウォーク 05
ナイト・ショット 25
夏が語ること 19
七度目の祈り 27
何も知らない夜 02
何をなすべきか? 34
ニンホアの家 29
猫、犬、動物、そしてサシミのこと 22
ノー・データ・プラン 11
ノーボディ・リスンド 06
ノカス 29
［**は**］
パート・タイム・ゴッド 36
ハイウェイ 33
掃いて、飲み干せ 14
ハッピー・バースデー、Mr. モグラビ ...12
母がクリスマスに帰るとき… 15
パムソム海賊団、ソウル・インフェルノ ...07
パラグアイ、記憶の断片 23
ハルコ村 19
パレルモの聖女 32
光に生きる―ロビー・ミューラー 35
ピクチャー・オブ・ライト 35
飛行機雲(クラーク空軍基地) 20
翡翠之城 28
非正規家族 14
羊飼いのバラード 19
人として暮らす 14
太陽花(ひまわり)占拠 07
ファイナル・ソルーション 11
不安定な対象2 03
フィリピン、私のフィリピン 06
武漢、わたしはここにいる 21
不在の心象 23
太った牛の愚かな歩み 24
船が帰り着く時 18
プライベート・ウォーズ 24
フラッシュバック 23
プレントーク&コモンセンス 37
ベイルートの失われた心と夢 04
ペーパーヘッズ 17
別離 36
蛇の皮 36
包囲:デモクラシーとネオリベラリズムの罠 ...15
忘却 34
望郷 10
訪問、秘密の庭 02
星空の下で 28
ホテルクロニクル 30
ホワット・アバウト・チャイナ? 03
［**ま**］
負け戦でも 04
真昼の不思議な物体 30
ママ・カレ 22
ミーナーについてのお話 27
見えない役者たち 33
ミゲルの戦争 08
密告者とその家族 12
見つめる 22
ミニ・ジャパンの子供たち 14
紫の家の物語 03
メークアップ・アーティスト 27
メタル&メランコリー 34
メランコリア 3つの部屋 22
［**や**］
約束の地で 10
山での日々 18
山の医療団 21
遊牧民の家 26
ユキコ 27
夢の中で 23
夜明けに向かって 27
要塞 10
予測された喪失 16
［**ら**］
ライオンのなかで暮らして 21
ラ・カチャダ 33
リヴィジョン／検証 10
離開(りかい) 22
リック・ソルトー僕とばあちゃん 28
リトル・パレスティナ 13
リハーサル 33
ルート181 12
ルート1 30
ルオルオの怖れ 21
ルオルオの青春 05
レイムンド 06
列車が消えた日 04
レッド・ウェディング 27
6月の取引 15
ロッツ・ゲットー 16
ロンドン・スケッチ 37
［**わ**］
ワイルド・ワイルド・ビーチ 35
私たちは距離を測ることから始めた 13
私と運転席の男たち 23
私の家は眠りの中に 09
私の非情な家 25
私はトンボ 05
私はフォン・ホフレル(ヴェルテル変奏曲) ...17
わたしはまだデリーを見ていない 31
私を見守って 21
我々のものではない世界 13

上映年

[YIDFF '89]
ノーボディ・リスンド 06
フィリピン、私のフィリピン 06
オリ 09
アズル 09
ロッツ・ゲットー 16
精神の武器 16
時は名前を持たない 18
家族写真 28
井戸の上の眼 30
ルート1 30
プレントーク&コモンセンス 37

[YIDFF '91]
ミニ・ジャパンの子供たち 14
石の賛美歌 12
閉ざされた時間 16
死のトライアングル 20
生きて帰れてよかったね 26
特権 26
ママ・カレ 22
ホテルクロニクル 30
頑固な夢 33
その昔7人のシメオンがいた 17
人工太陽の日食 36
[YIDFF '91 アジア・プログラム]
思いやりの話 14

[YIDFF '93]
アフリカ、お前をむしりとる 06
神の名のもとに 11
黒い収穫 18
予測された喪失 16
氷の夢 30
パート・タイム・ゴッド 36
テキサス・テナー:
イリノイ・ジャケー・ストーリー 32
[YIDFF '93 特別招待]
イマジニング・インディアン 09

[YIDFF '95]
さらばUSSR 07
父、息子、聖なる戦い 11
記憶と夢 26
選択と運命 16
ピクチャー・オブ・ライト 35
アルバト通りの家 34
メタル&メランコリー 34
スクリーンプレイ:時代 17
カルメン・ミランダ:バナナが商売 32

[YIDFF '97]
望郷 10
エルサレム断章 12
アルプス・バラード 19
プライベート・ウォーズ 24
母がクリスマスに帰るとき 15
アムステルダム・グローバル・ヴィレッジ ...34
ペーパーヘッズ 17
[YIDFF '97 特別招待]
ロンドン・スケッチ 37

[YIDFF '99]
掃いて、飲み干せ 14
ハッピー・バースデー、Mr. モグラビ 12
死神博士の栄光と没落 16
天使の家で 21
不在の心象 23
ライオンのなかで暮らして 21
イラン式離婚狂想曲 26
ハイウェイ 33
加速する変動 37
アンダーグラウンド・オーケストラ 32

[YIDFF 2001]
さすらう者たちの地 08
山での日々 18
鳥のようにーラ・ドゥヴィニエール 21
真昼の不思議な物体 30
あるアナーキストードゥルティの生涯 ...33
青春クロニクル 17
シックス・イージー・ピーセス 37
[YIDFF 2001 アジア千波万波]
夢の中で 23
愛についての実話 23

[YIDFF 2003]
レイムンド 06
S21 クメール・ルージュの虐殺者たち ...08
神聖なる真実の儀式 09
時の愛撫 18
羊飼いのバラード 19
フラッシュバック 23
純粋なるもの 26
天使狩り—預言者詩人の四つの情熱...36

[YIDFF 2005]
アンコールの人々 08
ファイナル・ソルーション 11
イラクーヤシの影で 13
ルート181 12
海岸地 31
老いた猫のお引越し 29
静かな空間 28
メランコリア 3つの部屋 22
水没の前に 34
ジャスティス 15
リハーサル 33
生まれなかった映画たち 35
パレルモの聖女 32

[YIDFF 2007]
M 06
ワイルド・ワイルド・ビーチ 35
紙は余燼(よじん)を包めない 08
彼女の墓に花をそえるのは私 10
あなたが去ってから 12
リック・ソルトー僕とばあちゃん 28
旅ーポトシへ 30
革命の歌 32
アレンテージョ、めぐりあい 32

[YIDFF 2009]
包囲:デモクラシーと
ネオリベラリズムの罠 ..15
要塞 10
Z32 12
オート*メート 20
稲妻の証言 25
私と運転席の男たち 23
アポロノフカ桟橋 34
忘却 34
ダスト —塵— 30
私はフォン・ホフレル
(ヴェルテル変奏曲) 17
[YIDFF 2009 アジア千波万波]
アメリカ通り 26
されど、レバノン 08

[YIDFF 2011]
密告者とその家族 12
飛行機雲(クラーク空軍基地) 20
阿仆大(アプダ) 28
遊牧民の家 26
星空の下で 28
何をなすべきか? 34
殊勲十字章 37
失われた町のかたち 37
[YIDFF 2011 アジア千波万波]
三人の女性の自画像 27
私たちは距離を測ることから始めた....13
[YIDFF 2011 回到一圏]
青春ララ隊 29

[YIDFF 2013]
祖国か死か 35
空低く 大地高し 07
我々のものではない世界 13
庭園に入れば 12
天からの贈り物 小林村の悲劇 20
蜘蛛の地 26
家族のかけら 28
サンティアゴの扉 34
リヴィジョン/検証 10
[YIDFF 2013 特別招待]
アラン島の小舟 35

[YIDFF 2015]
青年★趙（チャオ） 07
6月の取引 15
祖国―イラク零年 13
パラグアイ、記憶の断片 23
ドリームキャッチャー 25
女たち、彼女たち 27
いつもそこにあるもの 28
[YIDFF 2015 アジア千波万波]
たむろする男たち 10
銅山の村 18
私の非情な家 25
太った牛の愚かな歩み 24
七度目の祈り 27
ミーナーについてのお話 27
離開（りかい） 22
見つめる 22
蛇の皮 36
わたしはまだデリーを見ていない 31
船が帰り着く時 18
虐げられる者たちよ 13
[YIDFF 2015 アジア千波万波特別招待]
革命まで 07
太陽花（ひまわり）占拠 07
[YIDFF 2015 関連プログラム **映像は語る]**
これぞ人生、これぞパンツァーの民 09
酒祭の男たち 09
築巣人 A Rolling Stone 29

[YIDFF 2017]
カラブリア 10
カーキ色の記憶 13
航跡（スービック海軍基地） 20
孤独な存在 23
自我との奇妙な恋 23
ドンキー・ホーテ 29
ニンホアの家 29
[YIDFF 2017 アジア千波万波]
パムソム海賊団、ソウル・インフェルノ ...07
そこにとどまる人々 08
ドロガ! 11
ディスインテグレーション 93−96 11
人として暮らす 14
自画像：47KMに生まれて 19
このささいな父の存在 24
ノカス 29
猫、犬、動物、そしてサシミのこと 22
長江の眺め 31
ウラーッ! 36
中国街の思い出 36
翡翠之城 28
[YIDFF 2017 アジア千波万波特別招待]
映画のない映画祭 17
カット 17
[YIDFF 2017 ともにある Cinema with Us]
レッド・ウェディング 27
どこに行く 22

[YIDFF 2019]
十字架 06
インディアナ州モンロヴィア 06
約束の地で 10
自画像：47KMの窓 19
ラ・カチャダ 33
ユキコ 27
トランスニストラ 22
光に生きる―ロビー・ミューラー 35
別離 36
誰が撃ったか考えてみたか? 37
[YIDFF 2019 アジア千波万波]
消された存在、____立ち上る不在 07
愛を超えて、思いを胸に 07
ノー・データ・プラン 11
私の家は眠りの中に 09
駆け込み小屋 14
非正規家族 14
山の医療団 21
ハルコ村 19
夏が語ること 19
あの雲が晴れなくても 22
そして私は歩く 30
気高く、我が道を 33
見えない役者たち 33
1931年、タユグの灰と亡霊 06
ソウルの冬 36
アナトリア・トリップ 32
海辺の王国で 35
ここへ来た道 29
[YIDFF 2019 アジア千波万波特別招待]
自画像：47KMのスフィンクス 19
[YIDFF 2019 ともにある Cinema with Us]
故郷はどこに 09
台湾マンボ 20
子どもたちへの手紙 20
帰郷 20

[YIDFF 2021]
カマグロガ 18
最初の54年間
　―軍事占領の簡易マニュアル 12
彼女の名前はエウローペーだった 37
ミゲルの戦争 08
ナイト・ショット 25
自画像：47KMのおとぎ話 19
私を見守って 21
[YIDFF 2021 アジア千波万波]
蟻の蠢（うごめ）き 15
沈黙の情景 31
午後の景色 31
言語の向こうにあるもの 09
駆け込み宿 14
炭鉱たそがれ 15
リトル・パレスティナ 13
異国での生活から 14
メークアップ・アーティスト 27
ルオルオの怖れ 21
夜明けに向かって 27
心の破片 25
エントロピー 37
それは竜のお話 31
[YIDFF 2021 特別招待]
武漢、わたしはここにいる 21

[YIDFF 2023]
何も知らない夜 02
ある映画のための覚書 02
訪問、秘密の庭 02
自画像：47KM 2020 02
アンヘル69 02
ターミナル 03
交差する声 03
紫の家の物語 03
不安定な対象2 03
三人の女たち 03
ホワット・アバウト・チャイナ? 03
[YIDFF 2023 アジア千波万波]
負け戦でも 04
鳥が飛び立つとき 04
地の上、地の下 04
ベイルートの失われた心と夢 04
列車が消えた日 04
確かめたい春の出会い 04
ルオルオの青春 05
ナイト・ウォーク 05
記憶の再生 05
私はトンボ 05
石が語るまで 05

www.yidff.jp

発行　認定NPO法人 山形国際ドキュメンタリー映画祭
〒990-0044　山形市木の実町9-52 木の実マンション201
phone: 023-666-4480　fax: 023-625-4550　e-mail: info@yidff.jp